



静寂（愛宕神社社務所前）

森澤 元博

新ハイキング選書

- 第4巻 一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編
改訂2版/上製本/B6判 350頁/定価1090円 一等三角点の知識をこの一冊に収録
- 第6巻 花の山に行く** 松本雪枝 著
3刷発売中/上製本/B6判 356頁/定価1835円 山の花を訪ねての紀行文集
- 第7巻 山旅素描** 足立真一郎 著
3刷発売中/上製本/A5変型判/定価1935円 山岳画家足立真一郎の珠玉の画文集
- 第8巻 旅がらすの山** 富田弘平 著
3刷発売中/上製本/B6判 300頁/定価1035円 内容豊かな紀行文50編を収めた
- 第9巻 一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄/富田弘平/松本信 共著
3刷発売中/B6判 336頁/定価1632円 一等三角点と100峰の紀行・案内文集
- 第13巻 甲斐の山山** 小林経雄 著
改訂2版発売中/B6判 380頁/定価1690円 山梨県の山と峰を解説した事典的な書
- 第14巻 百歳までの山登り** 富田弘平 著
2刷発売中/上製本/B6判 350頁/定価1635円 話題豊富な著者の紀行と随想集
- 第15巻 日本300名山ガイド(東日本編)** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和嘉 共著
9版発売中/A5判 320頁/定価1630円 新ハイキングの精気5氏実地調査のガイド
- 第16巻 日本300名山ガイド(西日本編)** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和嘉 共著
8版発売中/A5判 320頁/定価1630円 地図・写真・コースタイム入りガイドブック
- 第17巻 城跡ハイキング** 中山権四郎 著
2刷B6判 354頁/定価1630円 歴史を訪ねる城跡ハイキング。紀行と案内の書
- 第18巻 一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/松本信 共著
2刷A5判 340頁/定価1800円 一等三角点の山100峰の登山コースを紹介
- 第19巻 山との出会い** 富田弘平 編
B6判 320頁/定価1690円 山の随想集。55名が執筆の随筆
- 第20巻 一等三角点の山々** 山口ゆき子/横山隆/高柳生雄/川越はじめ/岡村美邦 共著
A5判 310頁/定価1690円 第9、18巻の山と重複しない80峰の登山コースを紹介
- 第21巻 中央線の山を歩く** 藤井寿夫 著
A5判 280頁/定価1690円 あまり歩かれていない中央線の山107コースの紀行と案内

発行所 **新ハイキング社**

〒114-0023 東京都北区滝野川7-8-13
電話/Fax 03-3915-8110
読者 00130 9146915

●価格はすべて消費税込みです ●振替でのご注文は送料当社負担



波しぶき (鳥取・弓ヶ浜)



雪日の日本海 (兵庫・日和山)

濃厚だけれども透明な空気に
 旅人の心が共振していく
 何もかもが輝いている
 白っぽく乱反射している
 新しい世界がぐわんと迫ってきた
 明るい雰囲気のある場所
 空気が澄みすぎて恐ろしい所
 ほんわりと暖かい感じのする所
 ゴーゴーと風がないている
 誰かに呼ばれたような気がして
 振り向いた
 思い出した
 懐かしくて 忘れていて
 でもいつも心の奥に
 隠れている世界

Photo essay

波の花

題字 中田 蘭 石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵一



寒風の群礁 (兵庫・日和山)

やま
山

しろ
背



夜叉ばあさん (城隍市)



山茶花 (木津町)



蒭田の朝 (山城町)

古

道

新春

撮影 武市通治



青谷梅林 (城隍市)



雪の古道 (井手町)



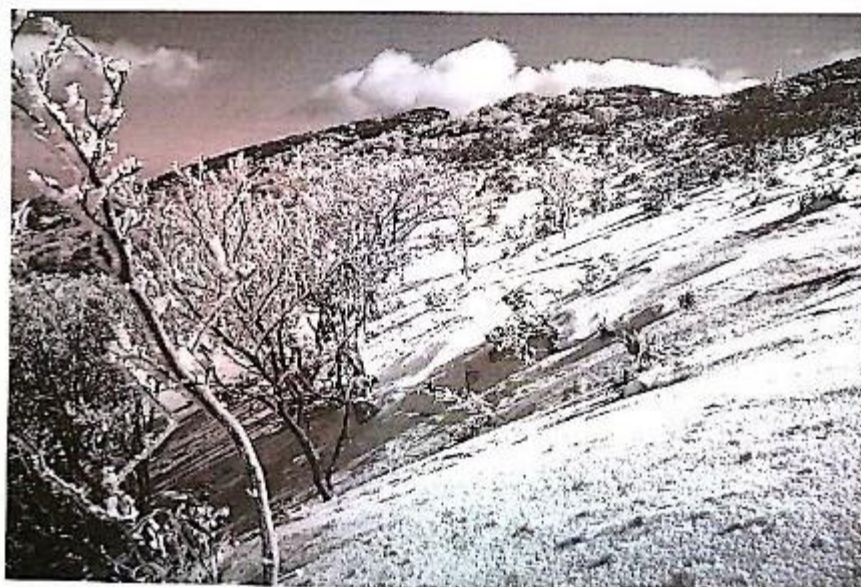
霧雨の古道 (伊勢・朝熊ヶ岳)

天村 三枝



新雪の北山英林 (京都北山)

中川 光郎



冬晴れの竜ヶ岳西斜面 (鈴鹿)

小林 業



雪の山屋・花背 (京都北山)

中川 光郎

冬の山上ヶ岳にて 三題

奥田 英一郎



氷水



薄の黒山



黒岩付近より稲村ヶ岳

新伴 冬 別冊 関西の山
100年 1・2月 新春 第60号

●目次

表紙：松田敏男「夕日の甲斐駒ヶ岳」(南アルプス)

●著者プロフィール ●1919年、京都生まれ。京都府立芸術大学卒。1967年より山岳雑誌『山岳』の編集長を務める。『山岳』の編集長として、南アルプス(北の小屋、東京キョウリイ、白丸、他) 駒ヶ岳と雲に接しての思い出、日本山岳会誌、一等三九の山岳会誌

● クラヒバ	波の花……………	撮影 由井 収	文 松永 恵一	4	2
(口絵) 穂波元博	山崎古道(冬景色)「古今橋林」他……………	武智 達治			
随想(山のエッセイ)	奥田 英一郎				
オグラスとポポフダ峠	山田 明男				
山(川)の歌み……………	松田 敏男				
滝澤山(美濃)	木村 太郎				
大和山(上) 耳成山から香久山(飛騨)	奥田 英一郎				
冬の山上ヶ岳(八ヶ岳)	藤元 一彦				
鳩吹山から新穂高山(会津)	藤元 一彦				
ヨーロッパ山脈(スイス・オーストリア)	内田 嘉弘				
ヤマハノ下(雪原)	藤元 一彦				
三河を歩いた(鈴鹿山脈の南西端の嶺山)	藤元 一彦				
社屋を歩く(近江野守からシヤカ号ヤケオ山)	藤元 一彦				
● 1等三角点(500m以上) 548箇所の記録(完結回)	坂井 久光				
東北地方の岩手・青森の山脈……………	坂井 久光				
● 山のレポート① 日本の三山……………	坂井 久光				
● 山のレポート② 近畿の一等三角点……………	坂井 久光				
● 海上の森③ 多摩神社・弘法寺……………	山口 淳有				
● 仏降寺から高城山・三郎ヶ岳……………	中村 敏文				
● 文筆界を歩いた(石清水八幡宮を訪ねて)	松永 恵一				
コース	藤元 一彦				
ガイド	山形 茂之				
● 高瀬寺と長土権理山(丹波)	山形 茂之				
● 関子野の不動(日本コバ)	若野 明				
● 四ツヶガッポ(タヌ原峰)	若野 明				
● 谷録ハイキングガイド……………	若野 明				
● ナービスステーション……………	若野 明				
● せせりぎ……………	若野 明				
● 新ハイキング関西(代表)	村田 賢隆				
● バス時刻表(比良山系)	若野 明				
● 結果後記・広徳案内……………	若野 明				

巻頭言

以前登ったところのある山へ何年ぶりに行くと、コースがその時とは全く違っていて驚くことがあります。当時は良い登山道だったのに、林道が出来ていたりさかさななになっていたり、またガケ崩れで通行不能になっていたり、敷き上げればきりがありません。逆に道がなくなった所は良い道が敷かれ、道端まで立っているものもあります。このことは、山道は常に変化しているものだという事を私たちに教えてくれます。

私も初めての山に登るときは、ガイドブックや地形図を見て行くのですが、インプリントしたものと現地の様子とが違って戸惑うことがよくあります。登山に文句を言っても仕方ありません。参考にした本や地図の発行日がかかりすぎたからです。多くの山の木は初版が発行されると、すぐそのままで、状況の変化に対応してそのつと改訂版が出ることはまずありません。

人のよく通う山ならだれからか新情報が入りますが、その他の山は行ってみるまで分かりません。情報を窺うかみしないで、いつも未知に挑戦する心構えで登りましょう。

新ハイキング関西(代表) 村田 賢隆



克



克

随想 (山のエッセイ)

オグラスと
ポポフタ峠

柴田 昭彦

比良山系や朽木の山々における、不思議な響きをもった名称として有名なものに、オグラスとポポフタ峠がある。しかし、これらの語源についてふれたものはほとんど見当たらないようである。地名の語源解釈は難しいが、ここで取り上げてみたい。

朽木村には「オグラス」「オグラス山」「小椋栖山」と呼ばれて親しまれている山がある。この山は、明治19年編製の二十万分一図「京都及大阪」において「蛇谷ヶ峯」と記載され、以後は地形図にある「蛇谷ヶ峯」の表記で登山者に親しまれている。その山名は山頂の東側にある蛇谷から名付けられたもの

ようだ。「高麗郡誌」(昭和2年)には「蛇谷峠」「高麗村と朽木村境に在り。一に小椋栖山と称す」とある。

角倉太郎・阿部恒夫共著「比良―研究と案内―」(山と溪谷社、昭和40年)には「オグラス山とよぶのは、足利時代に周林院(今石部)の名園がこの山を借景としてつくられ、その時に小椋栖山と名づけた由である」とあるが、語源の説明は見当たらない。

しかし、「地名用語語源辞典」を参考にすれば、「小椋」はその姓が多いことから木地師のことを指し、「栖」は住み処であり、「木地師の小椋氏の住み処」と考えられる。朽木村に木地師のふるさとであることはよく知られている。なのに、そういう説明が紹介されないのはなぜだろう、と疑問に思っていたところ、鈴木元・綱本逸雄編「べ

スト・ハイイク 京波の山」(かもがわ出版、1990年)に「木地師はたいてい小姓姓を名のっており、「オグラス」もこれに因むか」と考察してあることに後で気がついた。

「比良―研究と案内―」には「蛇谷ヶ峯の別名として、小椋栖山・椋ヶ嶺・オウナス・入部山・柏の岳山・オウカ岳・西山が記載されている。入部と柏は地名で、西山は高麗村からの呼称である。

「オグラス」から前へ縦走していくと、その名も、なんとも不思議な「ポポフタ峠」に出る。この奇妙な峠名は、いつごろから使われるようになったのであるうか。

をポポフタ峠と呼ぶ人が多い。いずれが確かかわからないが、ここでは略図に従っておく」とあり、その巻末の略図には、現在知られている通りの位置に二つの峠が記載されている。

「比良―研究と案内―」には、「右のポポフタ峠の道をとり経根ぞいに登る。なにか日くありそうなる峠名だが、どういふ字をあてるのだろうか」とある。

仲西政一郎編「近畿の山」(山と溪谷社、昭和40年)には、注意深く、文中と地図に「ポポフタ峠(須川峠)」と記載してある。

北山クラブ編「京都周辺の山々」(創元社、昭和41年)、中井一郎「比良山系」(昭文社、昭和42年)、角倉太郎「比良連山・京北山」(日地出版、昭和44年)には「ポポフタ峠」のみが記載されている。

この奇妙な峠名が登山地図に載るようになった経緯について

は、山本武人「比良の詩」(サンブライト出版部、昭和52年)に詳しい。

「ポポフタの由来について、登山地図の著者角倉太郎氏、中井一郎氏らに聞くと、比良北部を研究する高島野の清水友三郎氏(晩年にわたって江若鉄道北小松駅長)から資料の提供を受けて名付けたというが、なぜそういうかには知らないという。そこで、改めて清水氏に直接問い合わせてみたが、清水氏も同町畑の古老に聞いた、というだけで、その名の由来まで知らなかった。畑の現在の区長、西沢政明さん、朽木村村井の宮川繁一さんらは、一致した正しい峠名として「須川(すがわ)越」と呼び、ああたりを小字で須川(高島町大字)というところを根拠にあげている。今の登山地図にあげられている峠名は「近年、この時へよく来た大学生がポポフタと呼んでいたことから付け

られたのでは……」と、そんなことを西沢政明さんの夫人が話していた。「ポポフタ」は、正式にはやはり地元の人たちの呼び名「須川越」とすべきであるう」と。

その後、山本氏は「比良・朽木の山を歩く」(山と溪谷社、1998年)の中で、「ポポフタ峠とは登山者の通称で、正式には須川越が正しい」ことを指摘している。なお、登山地図から容易にわかるように、畑の集落から峠に向かう道に沿う川を「須川」という。

以上のように、森本氏・仲西氏・山本氏が「須川峠」または「須川越」の正当性を示唆しているにもかかわらず、現行の登山地図ではポポフタ峠の名称が依然として採用されている。「角川日本地名大辞典」(昭和54年)にも「ポポフタ峠」の項目があるが、簡略なものである。



克



克

随想 (山のエッセイ)

ら登ってきて、峠の手前はクマザサで塞がれており、あながち的はずれではないと考えられる。

だが、仮に、面白半分につけられたのなら、「ほぼ(女給)」「ふた(札・五・巻)」から連想できる言葉としても解釈でき、その形も実際の地形と似ているかもしれない。

あるいは、うがった見方ではあるが、案外、「ボボフダ」の転訛で、こわれた立て札のある場所の洒落なのかもしれない。

思いつくままに、「ボボフダ」について解釈してみた。だが、そもそも解釈しようとする事自体が全く意味のないことなのかもしれない。ここで筆者の示した解釈は、辞書の説明に頼っており、現地で使われている用語を考慮していない点で、鏡味完二氏が「日本の地名」(角川書店、昭和25年)などで指摘している注意を克服しておらず、学

なれ、登り口の畑パス峠には、畑地区案内図があり、須川沿いに登ると「蛇谷ヶ峠」に出ることになっている。蛇谷ヶ峠に至る途中の峠ということであろうか。高島町が設置した現地の道標には、アラ谷峠、ヨコタニ峠、地蔵峠は記載されているのに、「ボボフダ峠」には峠名は記載されていない。

須川峠の呼称が素直に採用されない背景には、面白い名称だから捨てがたいという心理が働いているように感じられる。ボボフダ峠という名称は、そのめずらしさの故に珍重されてきたようだ。そのもとをたどれば、高島町地の古老が使用していた名称らしいが、その語源は不明のままである。

登山者が増えてきた昭和初期(戦前)ごろは、その峠の現地の呼称が知られておらず、多分戦後になってから、だれかが元談平分に「ボボフダ峠」と呼ん

術的ではないということを書べておこう。

ボボフダ峠の名称が使用されるようになって三十年以上になるが、このあたりで再び原点に立ち返り、登山地図や現地の道標の表記を、「須川峠」(福寿ボボフダ峠)に統一して、すっきりさせることが望ましいと思う。まして、蛇谷ヶ峠などという従来は使われていない呼称を持ち出すことは避けてほしいものである。

最後に、「オグラス」と「ボボフダ」の名称について、その説明に役立つ学術的な情報をお持ちの方に、ぜひ、ご教示いただければ幸いです。

だが、いつのまにか広まったという可能性もあるかもしれない。だが、今では確認するすべはない。

さて、今まで述べてきたように、謎の多いボボフダ峠なのであるが、その具体的な語源についてふれた書物は見当たらないようだ。

発音からは、「ボボ・フダ」に区切る可能性が高いように思える。

「ほぼ」とは何か。「地名用語語源辞典」では「ほぼ」は見当たらないが、「ほぼ」に対して「根、保野、甫母」の漢字をあて、その三つ目の解釈で、「動詞ボケル(巻)から、「ほぐれ乱れた」意、つまり「崩壊地形」を示すか」とある。ボボケル、ならば、参考にする余地はある。

また、「ふた」は「札、布木」で、「高札場」「深田」「フタの証」など。「ふた」は「動詞フ

タダ(巻く)の語幹で、「巻がれたような地形」をいうか。フタ(蓋)に通ずる」とあり、「札」と「蓋」の可能性があるだろう。

『武野燗』で「ほぼ」は「女陰の異称」とあり、「ほぼかす」は「けはだたせる。ぼさぼさにする」とあり、「カミ(髪)ラボボカス」という日葡辞書の使用例がある。「ほほく」は「遅く」と書き、「ほおける」(遅ける)と同じで、「もうろくする、ほうける」の意味と、「髪などがほつれて乱れる、そそける」の意味が載っている。

以上のような材料から、「フ」の考え方として、「ボボ・フダ」とは「置物などが」髪(毛)のようにはげばだてていて害いしている場所」という解釈が地形用語的には成立する。

筆者が峠を訪れたのは平成11年7月17日のことで、峠自体はすっかりとした感じたが、想か

山(川)の恵み

山田 明男

春の野山では山菜が、秋の山では木の実が採取でき、山行時においしくいただくことがままあります。

御池岳の池と自然探査山行の10月例会においては、クリ・オニグルミ・トチの実が拾え、ヤマボウシ・アケビ・サルナシは樹に突っ込んだものが採取できました。木の実は違いますが、ヤマノイモのムカゴも採取できました(結果ではなく、オニユリの萌芽と同じようなもの)。

春の山菜は山には少なく、川原(土手)で多く採取することができます。山に近い川でなくとも、部会の川原でもほぼ同じように採取できます。ただし、犬の糞やおしっこには注意が必要ですよ。



随想 (山のエッセイ)

山での代表的な山菜としてタラの芽がありますが、いの一巻に採られてしまい、われわれにはあまり採取できないのが現状です。しかし、それに劣らない味の植物が川原では多く採取できます。ヨモギの葉・クズの芽・タンポポの花(蕾)・イタドリの変などは天ぷらにして食べます。イタドリは生で食べたり砂糖をまがしてから食べたりします。また同量の砂糖で煮込んでジャムにもします。このようにいろいろ調理方法によっておいしく食べられます。

またヤブカンゾウ・ノカンゾウは、お湯しか味噌汁の具にします。ノビルは生のままをからし味噌(産国のコチジャンがベスト)に付けて食べるのが一番よいでしょう。

私たちの自然観察会「藤原岳自然深査会」においても、ここ10年ほど連続して、4月の末にいろいろな植物(野菜)を食べ

る観察会を開催しております。ヤマボウシ・サルナシ・アケビ・ムベ・トゲ・オニグルミ・クリ等は山の近くでなければなかなか採取できませんが、川原(平手)で採取できるタンポポの花・イタドリの葉や葉・クズの芽・ヨモギの葉・ヤブカンゾウやノカンゾウの葉・ノビルの根茎・ワラビ・コゴミ(ヘタサツテ)の葉など、その時に食べる植物は40種余りにもなっています。

キノコは年中採取できますが、毒キノコと食べられるキノコとの見分けは素人ではなかなか難しく、危険なのであまり手を出さないほうが賢明です。

前述の食べられる植物はほとんど見分けが簡単につくもはばかりで、だれでも採取できます。皆さんも今春は試しに採取して食べてみてはいかがでしょう

食べてはいけない植物は、トリカブト・ハンシドリコロコシキミ・トリカブトとハンシドリコロコの芽出しの頃は美味しそうですが、何の毒かよく分かりません。間違つて食べると生死にかかわることになりかねません。シキミの実には特に毒性が強く、食べる危険です。

バイケイソウ・アセビ・ヒガンバナ・キツネノカミソリ・ドクウツギ・ミヤマキケマン・ムラサキケマン、その他キンポウゲ科の植物等も毒がありますが、それほど強いものではありません。これらは食べることもないので危険は少ないと思われま



初めての山中一泊山スキー

滝波山

10年程前に山スキーを買った。それまでにスキー靴を履いたことが一度しかないという全くの初心者だった。「四十の手習いですね」と山の会の人によれしうに言われた。

会のなかでは一番の指導者の須藤さんが、根気強く山スキーに連れて行ってくれたが、生まれつきの恐がり性がたつてなかなか上達しなかった。そのうちゲレンデでスキー靴が突然こわれた。その当時、山の雑誌や新聞などでさかんにとりざたされていた、プラスチック疲労を目の当たりにした。

「岩と雪」という山の用品店がJR大津駅前にある。経営者の山本さんは1日

松田敏男

奥美濃

り2年当時の未登峰で最高峰だったナムチャバルワに登攀隊長として初登頂された人だ。その「岩と雪」主催の山スキーツアーのリーダーが須藤さんだ。ツアーにはわが会の高橋さんと時高さんも参加しているということなので、私も新しいスキー靴を買い求め、日曜日の閑静なツアーに参加させてもらうことにした。

参加者の皆さんに多大の迷惑をかけながら、しかし私自身は今回限りでもう山スキーはやめたいと思うぐらいの極限的体力消耗状態に陥ることがしばしばあった。しかし、シールをつけての顔面の登りの爽しさは普通の山登りでは味わえない幸せな体験だった。

滝波山よりドウの天川・左門岳方面を望む



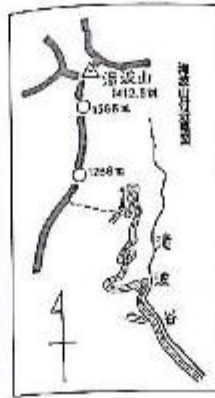
スキーの基本が全くないので、とても滑れるはずはないのに、向こうみずに参加しているようなものだった。スキー学校に入って講習を受けるのだが、まったくすすめられていたのだが、まったく冬山に行く期間に、ゲレンデのあの喧嘩のなかに身を置き換えることは耐えがたいと思っていた。スキーツアーに二回程参加するだけの三シーズンには、わずかず

つ板に慣れていく程度の上達だった。

しかし、年齢から基礎体力は山スキーの限界にきているし、上達さえすれば60歳代の人でも十分参加できるほどの技術がものをいう世界なので、先のことを考えて、昨シーズンの始めに思い切ってスキー講習に参加した。

講習後もボーゲンしかできないのは同じだが、山スキーの翌日でも普通に階段をおりられるようになったことで、講習効果の高かったことがわかった。氷ノ山で師匠の須藤さんに「たいへんうまくなった」とほめられて、もう気分はルンルンだった。しかし3月になって雪が固くなる、私にはまだ齒が立たない激しい世界であるが。

昨シーズンの2月の末に、私としての山スキーの納め山行を、日帰りではなく山の中での一泊山行で終えた。このこと



は、新しい次の世界へ一歩踏み込んだことになるので、真実の流波山スキー山行は非常に印象深かった。

時高さんと高橋さんと私の3人は夜に京都を発って長良川支流の板取川に沿って北上し、流波谷の林道の小広い場所にてントを張った。積雪はほとんどない。

翌日は532貯地点まで車で入り、板を置く。積雪は20センチもないくらいだ。少し進むと左へ林道が分かれている所に来たので、予定コースの谷から離れる地点と行って上がったが、高度にして40貯程上がった地点で、北の方向に登るべき林道が見えたので、元の地点に降り戻った。400貯程進んだ地点で左手にUターンするような形で林道が谷から上

がっていて、今度は間違いないかった。林道としては急な登りだが、シールをつけた板は快適なスピードで進む。昔、映画がカラーになった頃、幾天然色シネマスコープといううたい文句で、横に長い画面による風景描写、景色が上下に揺れることなく静かに前から後ろへ移動していくシーンを算えているが、それを彷彿させた。雪の抵抗による疲れをほとんど感ずることなく、また足許を気にする

休憩。紅茶にはしっかりとブランデーを入れていた。

靴のモードを滑り用にして板に固定した。いざ滑走だ。文章にすれば恰好よくて勇ましいが、実際は足を広げてスピードがつかないようになり、高橋さんは数回うまいからすぐに差がつき、待ってもらいながらの下山だ。追いついたと思っただ数秒後には彼らの姿は境界にない。私にとっっては、一瞬にして向かってくる板

や雪面の中でほこや木の株などに体を反らさず、その間にその数倍の速さで彼らは私の視界の向こうまで移動している。歩く時とは違って自分の滑る音だけしか聞こえず、大自然の中なのに非常に狭い範囲に我が身を没しているような感じなのだ。五感の世界が広がっていけば上達したことになるのだろう。染しみが先にあるということも華やかなことだ。

尾根が南から東へ曲がる所は疎林なので、中実に尾根上を滑らずに広々とした斜面を横切って東の尾根に廻り込んだ。爽快だ。こんなに気持ちのよい思いは山スキーをおいてほかにはないだろう。

ことなく、極寒気分の登山だ。

西方向に進んでいた林道が大きく東へ方向を変え、そのあと北上する。標高1030貯まで上がった。スキーのスタート地点からちょうど500貯登ったことになる。明日のルートどりを考えても、テントを設営する広さの確保の点からも少し戻った所のほうが適当だと判断し、300貯戻ってテントを張った。

鉛色の雲のなかから鈍い日差しがもれている冬空のもとに、蕨山や高賀山などの山塊が確認できた。三人共スコップを持ってきているので、ブロック状に雪を切り出してはテントのまわりに雪壁を築く。入口幅50貯程を残し、高さ1貯以上の頑丈な雪の壁がすぐにできた。片隅にはトイレもつくった。少し強い風が吹いていたが、直接に風を受けたいテントの中には、やさしい静けさがあった。

次の日は良い天気だった。午前中に往復する計画なので荷物はいたってわずすがすがしい自然林のなかの登山だ。ジグザグに切って進むことに慣れてきたので、少しぐらいの斜面ならそんなに遅れずについて行けるようになった。もしも

たった1時間で標高400貯をくだって、テント場に着いた。慣れた人なら半時間も要しないのではないかと。日差しが強くなったテント場で昼食をつくった。滑走に大満足したあとの昼食はことこのほかおもしろかった。雪原を照り返す強い日差しに身を置くことが心地よかった。サンダラス越しに見る太陽が恰好よかった。いつも通りコーヒーを飲んでテントを撤収した。

重い荷物を背負ったの滑走なので、重心が後ろに移っていかないように気をつけながらゆっくり滑った。それでも高度差にして500貯のところを40分で車止めに着いた。

下山は本当にわずかの時間であっけなく終わってしまった感じだった。体には頂上の感融がまだ残っているのに気が付けばもう下界だったという感融に酔った。(平成11年2月27日、28日歩)

△コースタイム▽

- 流波谷林道532貯付近(3時間30分)
林道1020貯付近(2時間50分)
流波山(1時間)
テント場(40分)
車止
△地形図V2万5千1門原



テント場より蕨山(中央)、高賀山(左奥)を望む。通常の山登りより記憶があいまいなのは、スキーで登ったこと自体の感融がはるかに大きかったためだ。シールをはがして板を雪面に立てた。テルモスの紅茶と菓子でしばらく

歩いての登山ならばその遅々とした歩みに場合によっては飽きてしまつて寝れてくることがあったらと思うが、今は快適な速さで刻々と木々の形や周囲の景色が変っていくので、爽快な気分だ。シールという便利なものを考案した人に感謝感で溢れる。

二つ四つ小さなコブを乗り越えて流波山の山頂に立った。テント場との標高差約400貯。要した時間は3時間足らずである。ラッセルをしながら歩けば皆以上かかっただろう。

山頂は木にさえぎられていて、展望は今ひとつだったように思う。通常の山登りより記憶があいまいなのは、スキーで登ったこと自体の感融がはるかに大きかったためだ。シールをはがして板を雪面に立てた。テルモスの紅茶と菓子でしばらく

耳成山から香久山へ

飛鳥

木村 太郎

大和三山を詠んだ『万葉集』の歌の中で、耳成山を主題にしたものは一首もない。香久山は歌枕として数多く詠まれているし、敏傍山を主題にした歌もあるのに、耳成山は不遇な境遇に置かれている。

香具山は敏火ををしと耳梨と相争ひき神代よりかくにあるらし古も然にあれこそうつせみも妻を争ふらしき

世に知られた「中大兄の三山の歌」も、香久山のほうが敏傍を愛しいと思っ
て、耳成との間で妻争いをしたと詠まれている。つまり耳成山は、この三山の歌

においても、主人公ではなく脇役であった。古代大和の象徴、大和三山をめぐり小さな旅は、万葉集では日の当たらない耳成山から訪れてみたいと思つた。
近鉄巨成駅北出口から西へ向かって歩くと米川に出合う。お彼岸に合わせたように十手にはヒガンバナが咲き乱れている。この川は敏余の地より流れており、野余川とも呼ばれている。その米川に架かる天神橋を渡って、耳成園住宅を抜けると小公園に着いた。森林の守り神といわれる耳成山口神社だ。その社殿を中腹にかかえた耳成山へ、鳥居をくぐり石灯籠の並ぶ南麓の登り道から入った。

天神社には奉納されたたぐさんの額絵が入水した時に水が滲れてくれればよかつたのに、乙女の死を知って嘆き悲しんだ若者の歌である。
耳成山は別名天神山とも十市山とも称されている。十市山と呼ばれるのは、この地方の権力者であった十市氏の影響からであろうか。それとも万葉集に挽歌を贈られていたの、あの十市皇女と何かの縁で結ばれていたのであらうか。
耳成山を背に南下して、藤原宮跡、さらには海大寺跡、近江の醍醐町史跡を通る。春には桜並木が花のトンネルになる小道を歩き、草色に染まる醍醐池を見て、高殿町へと道路を渡る。訪れた広野のあたり一帯は、榮華をしのばせる藤原宮跡だった。
藤原の大官仕へ生れつくや
皇女がともはともしまろかも

ラカシの木が話し相手になっている。
神の山に供えられたようなサカキとビシャコの間をぬって、もとの耳成山公園にくだる。公園の中の古池のほとりに、耳成池の鏡了伝説を詠んだ万葉歌碑が、釣り人の自転車に囲まれて立っていた。耳無の池し復めし吾妹子が
来つつ潜かば水は濁れなむ

三人の若者から求婚された美しい乙女は、池の水底深く身を沈め、この世から姿を消すことでその答えにした。あの入



飛鳥古京に対して新蓋原とも称された藤原京、その創都の女帝こそは持統天皇であった。あの三山の歌に暗示された登場人物たち、妻の細田王を争った、天智が酒え大武が通った後の時代のことである。
持統が帝位にと願った宇皇皇子は病

この歌は山吹の黄と山清水の泉をかけて、黄泉路まで追いかけに行きたいが道がわからないと、恋人との別離を嘆いた



敏傍山より見る耳成山

いままら何年前か、「コマントピア藤原京」のイベントの時に、大板殿跡には矢張り御柱がまばろしの宮殿を彷彿させるかに立った。千三百年前には激々しき高市皇女が、都の背山十市山を眺めて、十市皇女の姿を求めていたかも知れない、その場所だ。
十市皇女は、父大海人皇子の手で、大友皇子を近江朝とともに壬申の乱で滅ぼされている。夫の七年忌に皇女は謎の死をとげる。その身の上同情したのか愛ゆえか、皇女のために高市皇子は挽歌を残している。

山吹の立ちよそひたる山清水
汲みに行かめど道の知らんなく

この歌は山吹の黄と山清水の泉をかけて、黄泉路まで追いかけに行きたいが道がわからないと、恋人との別離を嘆いた



高所寺池より見る香久山

萩歌で
ある。
そして
藤原京
遷都を
指揮し
てきた
高市皇
子もま
た、創
郡から
二年後
に急死
する。

十市への別れの歌を詠んだ十八年後のことであった。

大和三山を鎮の峰にして三方を固めた藤原宮は、南の朱雀大路への大門を開いていた。かつて持統が大真人皇子とともに、吉野から飛鳥へと征旅をこころざして北上した道につながっている。朱雀門があった地点と思われる藤原宮跡の南辺に出て、高所寺池の堤下の道を東へ歩き始める。前方に見える香久山をもっとよく見ようと、池の堤にかけ上がった。水面越しに眺める香久山は、きらびやかな

緑の裾をひいて美しい。

山に向かつて歩く木之本町の道の突き当たりは、奈良国立文化財研究所がある。この奇跡発掘調査部の発掘の跡地に残された緑の空間は、泣沢の森と呼ばれている。森には哭沢女命を祭神とする、或尾郡多本神社が鎮座している。正しくは或尾の後に木本坐という尊称がつく。たぶん古代には「大香山」の屋根続きにあった木の根元の水源に水神の社は坐していたのだらう。

『古事記』の国生み神話によれば、伊邪那命は火の神速日土を生み落とす時の火焔でこの世を去った。伊邪那命は妻を亡くした悲しみに、女神の枕辺で号泣し涙の流れるにまかせたという。その伊邪那岐の涙から生まれた、哭沢女命をまつる神社が香久山の裾野にあったのだ。

そして『万葉集』には、高市皇子の崩去にまつわる歌として、高市の戦槍隈女王が、この地の哭沢女の社に快槍を折った様子が詠まれている。

泣沢の神社に御酒振及折れども
我が大君は高口知らしぬ
(巻二一〇二)

高市皇子への挽歌といえは、万葉集の中で最も長い歌と短歌数首を、柿本八郎呂が献上し短歌の撰り所の
和安の池の堤の隈り所の
行くへを知らに命人は感ふ
(巻二一〇二)

泣沢の森の裏手には、或尾坐健土安神社が立つ。『神武紀』に記述されている、「天香山の神社の土から平衆と殿衆を作り諸神をまつり平定を祈った」という、この地は和安の伝承地なのであった。この社の境内に古びた井戸がある。この井戸水は、高市皇子への挽歌に詠まれた埴安池の、その水脈の根拠という風説が伝わっている。

そしてこの付近の山麓寄りの裾野に、高市皇子ゆかりの香久山の離宮があったと推定されている。空高く昇って行ったと女王から詠まれ、その没後どうして生さるべきかと合人を惑わせた、高市皇子の遺徳、おそらく息子を慕って城上のみささぎでは、奉仕をつづけていた臣下たちがいかに違いない。

香久山近くの離宮には、汚れを洗われて目にも清らかな、白榜の麻衣が干されていたのであろう。

春過ぎて夏来たるらし白たへの
衣干したり天の香良山
(巻一一八)

百人一首にも、これを原歌とした和歌があるほどに、有名な持統天皇の御製歌である。藤原宮の高楼上より、香久山の宮を目前にして詠まれた歌で、春から夏への時の移りを表現している。高市逝去の翌年に、自らは讓位し軽皇子を即位させた。その新しい時代を見すえていた歌と読めなくもない。

近世の国学者である本居宣長は、大和三山を『菅笠日記』の旅で踏査している。

その時は吉野から飛鳥に向かい、池尻を通り香久山を踏み、南津から藤原宮へ歩いたという。私も香久山をめぐる道順として、埴安池のある北麓からではなく、太陽の昇りはじめる麓余の方角、東麓から入りたいたいと思つた。

大和まほろびそのままの、大和當地の刈り入れ時を待つ稲田を通り抜け、南浦町から東池尻町へと進路を向ける。麓余の道をたどり、香久山へ登り、飛鳥川を越え、吹傍山に寄ろうと思う。東から西へと太陽の道を道を追いかけて。
(平成11年9月23日歩く)

▲コースタイム▼
近鉄耳成駅(30分)耳成山山頂(30分)
藤原宮跡(15分)泣沢の森(20分)古池(万葉の森)(10分)御厨子神社(30分)
万葉の森(香久山山頂)(25分)天香久山神社(天香山神社)(35分)天香久山神社(20分)若狭友苑(25分)吹傍山山頂(40分)深田池(近鉄藤原神宮前駅)
▲地形図▼を方々千二枚井・吹傍山
近畿日本鉄道上本町事業
06(6775)3566

山と高原地図シリーズ

定価750円(税込)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ※ 判別・面白・良書 好評(判行予定) | 35 白馬志北アルプス |
| 2 ニセコ・本栖山 | 36 奥出羽・奥出羽山アルプス |
| 3 大雪山・十勝岳 | 37 葛城山・葛城山アルプス |
| 4 十勝国境の山・穂高岳 | 38 上高地・穂高岳山アルプス |
| 5 八幡平・妙高山・大雪山 | 39 奥出羽山アルプス |
| 6 奥羽 磐梯湖 | 40 奥出羽山 |
| 7 蔵王・蔵王山・蔵王山 | 41 中央・南アルプス東麓 |
| 8 駒ヶ岳 | 42 木曽駒・安曇野中央アルプス |
| 9 阿豆・出雲三山 | 43 平重駒・北岳山アルプス |
| 10 奥出羽山 | 44 信濃・赤石・奥出羽山アルプス |
| 11 奥羽 磐梯湖 | 45 白山 |
| 12 磐梯湖 | 46 奥出羽山・磐梯湖 |
| 13 日光・日光山 | 47 磐梯湖・磐梯湖 |
| 14 日光 | 48 比叟山系 |
| 15 越後三山 | 49 奥出羽山 |
| 16 半田平野・奥出羽山系 | 50 奥出羽山 |
| 17 志保山系・磐梯湖 | 51 奥出羽山 |
| 18 妙高・戸隠 | 52 北出羽山系 |
| 19 磐梯湖・磐梯湖 | 53 六甲・奥出羽山系 |
| 20 磐梯湖・磐梯湖 | 54 磐梯湖・磐梯湖 |
| 21 磐梯湖・磐梯湖 | 55 奥出羽山・奥出羽山 |
| 22 奥出羽山系 | 56 奥出羽山系 |
| 23 奥出羽山系 | 57 奥出羽山系 |
| 24 奥出羽山系 | 58 奥出羽山系 |
| 25 奥出羽山系 | 59 奥出羽山系 |
| 26 奥出羽山系 | 60 奥出羽山系 |
| 27 奥出羽山系 | 61 奥出羽山系 |
| 28 奥出羽山系 | 62 奥出羽山系 |
| 29 奥出羽山系 | 63 奥出羽山系 |
| 30 奥出羽山系 | 64 奥出羽山系 |
| 31 奥出羽山系 | 65 奥出羽山系 |
| 32 奥出羽山系 | 66 奥出羽山系 |
| 33 奥出羽山系 | 67 奥出羽山系 |
| 34 奥出羽山系 | 68 奥出羽山系 |

※ 断文社の「山と高原地図」は好評として毎年再版発行されています。この山の情報はなるべく最新版をご利用ください。また、断文社の「山と高原地図」は、断文社がごぞいまして、断文社「山と高原地図」担当までお気軽にお電話ください。また、断文社にお電話ください。

株式会社 昭文社

本社 東京都千代田区丸の内4-2-11
電話03(3282)2141(代) 102-8238
支社 大阪府淀川区西中島6-11-23
電話06(5303)5721(代) 532-0011
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・神奈川・立川・新潟
金沢・静岡・名古屋・京都・広島・福岡

冬の山上ヶ岳

さんじょうだけ

大峰

奥田英一郎

久しぶりに雪の山上ヶ岳に登らないかと、岳友から誘いをうけて、名とそをいただきながらの任意状読みを早々と切り上げる。車で一路登山口の天川村(天川村)へ向かう。1月2日に行われる恒例の護摩供養登山に参加しようというのである。

さすがに元日は事が少ない。陽さしもやわらかく吉野川沿いの風景も心なしか優しい。広橋峠の梅の蕾はまだ固そう。笠木の谷間に入ると雪が多く寒々としてくる。念のために切抜トンネルに入る手前でタイヤチェーンを着ける。トンネルを出て川合へくだる雪道はやはり気を遣う。此時は新しいトンネルのおかげで楽に通り返ける。

洞川は花原徳兵衛旅館に投宿する。以前冬の山上ヶ岳に登った時は、清浄大橋のたもとにテントを張った。それを思えば少々ぞいいたくな山行である。

岩風呂は肌にもよっと冷たかったが、湯に浸りながら山の斜面を上手に利用した見事な崖を眺めると文句は言えない。夕食に鴨ローストなどをいただき、アルコールも入ると、例によって山の下もやま話がはずむ。

夏の北ア白出沢で転落して頭部に裂傷を負い、ヘリコプターの要請までした事故があった。後日けがは軽微なものであれば事故ではなかったとかで、会報では一言も触れることなく、そればかりか

法螺貝を掲げている人がいた。

一本松茶屋を過ぎる頃にはじつと汗ばんでくる。夏には冷たくておいしかったお助け水は、雪が少ないせいかわずかにしたたっているだけであった。

古野道からの合流点にある洞辻茶屋に着いてひと息入れる。山上ヶ岳道の途中にある茶店小屋は、全て登山道をまたぐように屋根掛けをしているのだが、ここは山の稜線上にあるせいか冷たい風が吹き抜けて寒い。吹き込んだ雪も凍っていている。長くは休めないで腰をあげると、小屋を出たところにある小さな洞の前で、僧者の人たちが法螺貝に合わせて般若心経を唱えていた。

いつの間にか雪も多くなり、道の両側にある大木は、ぐっすり凍ってついた雪でモンスターとなっている。陀羅尼助の茶店ももちろん閉じられたまま番人もいない。ここはなつかしい所。いつか、上多古谷の主とされた今は亡き忍木幸次郎さんの案内で、幸次郎廟という深谷の奇跡を訪ねたあと、シャタナグの花の咲く大庭を教えてもらって登って来たのがここだった。当時はまだ係取り用の頑丈な鉄橋が大庭の途中に跨っていた。

山上梅観本堂へ登る



何の反省も経活もなかったという山岳会のこと……。百名山元登をめぐって八経ヶ岳にやってくる登山者のマナーの悪さに、腫のタクシ運転手さんたちが凍がっているということ……。また、大峰山の女人禁制は糞米どうなるのだろうか……。等々。冬の山岳の夜は冷え込みが激しかったのに、話は次第に熱っぽくなる。翌朝はいまひとつ汗えない曇り空だ。

「曇り空の空がずっと続いていて風が次第に強くなる。油こぼしの急な岩崩は鎖を頼りにアイゼンを効かせて登る。鎖掛けの20分ばかりの垂直の岩場は無理をしないで西側の小道を登るが、片方が深く落ち込んだ崖で気を遣う。危なげな横道をごなすことやがて尾の甲の形をしたお亀石。木間の横を通り過ぎると間もなく右手にそそり立つ岩壁が現れた。いわゆるエビの尻尾がこびり付いた崖の果敢がおもしろくて写真を撮る。西の崖き岩の上には立たずに岩壁をトラバース気味に通り返した。

重泉寺の宿坊に着く。暗い室内の一隅で、ずっと後になり先になりして登って来た登山者の人たちが、ゆらめく燈明を前にして心経を唱和していた。この宿坊にも忘れられない記憶がある。いつの冬だったか、雪の深い年で山上はから一日がかりでたどり着いたのだが、夜中の寒さに耐えられず短るのは分かっていて火を焚いた。案の定すこい煙で、窓も開けられず置き置きシューシューに深く顔を沈めるようにして夜を明かしたのだった。赤井邦正(宿坊小屋主)おやじさんといっしょだった。



た。とりあえず重泉寺に寄って、寄進と「届出をしてから車で清浄大橋まで行く。雪は例年に比べると少なかったが、雪道が凍って滑りやすくて、アイゼンを着けて歩きます。

ありがたいことに新雪をラッセルすることなくトレースをたどるだけである。一ノ世茶屋では講者の人が何人か休んでいた。夏の行者の白装束ではない。皆一様に楡の枝を背に負っている。開扉時の修験者たちは頭巾に袴、金剛杖といった立派なものだが、同行の人たちは皆ごく普通の冬のふだん着である。なかには

アミューズトラベルの山歩き

全てのコースで、経験豊富な自社社員のツアーリーダーがご案内いたします。初心者の方や中高年、女性一人様でも安心してお申し込み下さい。

初心者歓迎！ 雪山入門登山

- 安達太良山と岳温泉** 積雪時もちろんなく雪山入門コースとして最適です。
2000年1月22日(土)～23日(日) ¥62,000
- 大峰・和佐又山** 大峰山系の中で比較的易しく登れる山です。美しい湯水も楽しみ。
2000年1月29日(土) ¥9,500

- 美ヶ原と霧ヶ峰** アルプスの大英盆地、白銀の世界を歩いてみませんか。
① 2000年2月19日(土)～20日(日) ② 3月18日(土)～19日(日) ¥37,800

スノーシューで歩いてみよう！ (スノーシューは弊社で用意します)

- 樽池公園雪上ハイキング** 圧倒的な白鳥の輝きをきき分けてのハイキングです
2000年2月26日(土)～27日(日) ¥58,000
- 蔵王山と蔵王温泉** 一面の樹氷と白銀の神秘的な世界を歩いてみませんか。
2000年3月4日(土)～5日(日) ¥65,000
- 乗鞍高原ハイキング** 美しい白樺の林を抜けてスノーハイキングを楽しみます。
2000年3月25日(土)～26日(日) ¥58,000

- アフリカ大陸最高峰 キリマンジャロ登頂とサファリ 11日間**
アフリカ大陸最高峰、憧れのキリマンジャロへ！ 高度順応日をもろけ、パルスオキシメーター、ガモフバックと高山病対策も万全です。また、サファリも楽しみです。残席わずかとなっております。お急ぎ下さい。
2000年2月10日(木)～20日(日) ¥498,000

- 塩坂先生と歩くコジオスコ山とエアースロック 8日間**
医師・登山家の塩坂順一氏と一緒にオーストラリアの大地を歩きます。コジオスコ山はオーストラリア大陸の最高峰で2228mです。エアースロックは世界最大の一枚岩で、頂上からは360度の壮大なパノラマが広がります。
2000年3月11日(土)～18日(土) ¥458,000

- パタゴニア パイネ国立公園と氷河ハイキング 12日間**
広大なパタゴニアのパイネ国立公園を歩きます。美しい氷河湖が多くあり、雄大な自然を感じさせています。また、野生動物の宝庫でもあります。ロッジを起点とした日帰りハイキングですので、どなたでもご参加いただけます。
2000年2月23日(水)～3月5日(日) ¥698,000

2000年4月からのカタログは2月に完成予定です。ご購入下さい (送料無料)
アミューズトラベル株式会社 電話 06-6265-3303
運輸大臣登録旅行業第1366号 (社)日本旅行業協会正会員 JATA ボンド保証会員
〒541-0053 大阪市中央区本町4-5-3 本町三井ビル2号館8F FAX 06-6265-3306



本堂前の護摩供養

山頂の山上権現本堂はすぐだ。元禄年間(1695)に再建されたという広大な本堂は、古くして、重々しい扉はもちろろん固く閉ざされたままであった。20人ばかりの購者たちがかがいがいしく護摩を焚く準備を始める。各人が持って来た木の枝は護摩のためだったのである。本堂前の雪の上、に小高く積み上げられて準備ができて、いっしょに登って来られた洞川の竜泉寺の管主さんだそうか、紫の法衣をまとい額に頭巾、そして鈴掛を首から提げ、雪の上に敷いた段ボール紙の上におもむろに坐られ静かに般若心経を唱えられた。

護摩が焚かれ白煙がモクモク立ち込めると、法螺貝がひとまわ大きく吹き鳴らされ心経の唱和が始まる。法螺貝と心経を唱える音が、張りつめた凍てつくような空気を震わせて響き渡る間、端然と坐って祈禱を捧げていた管主さんは、神木だらうか30センチばかりの白い樺切れを護摩めがけて投げ入れられた。山伏の腕の厳しさがひしひしと身に迫まってくる瞬間である。

厳冬の山上ヶ岳山頂での山岳宗教のセレモニーが行われている間中、太陽はひと時も姿を見せずに、ずっと粉雪が舞っていた。寒さは厳しく温度計はマイナス八度を示していた。冷たくて顔がひりひりする。手足の指がじんじんするのには耐えながら写真を撮らせてもらった。苛酷な修験道のひとこまが収められただろう。

祈禱が終わったあと、風を避けて本堂横に身を寄せ弁当を食べた。ゴマ・シソ・ノリをまぶした三つのおにぎりと、塩こぶ、たくあんに梅干しだった。冷たかったがこれがたまたまなくおいしかった。食後、護摩の残り火に集まって暖をとっている、子どもの一団が山上江の方か

らやって来た。昨夜は種村小屋に泊まったのだから。小中学生らしいグループだが、真冬の大陸に登るのだから立派なものだと感心していたら、一行は奥庭の方へ行きかけた。一瞬、えっどこへ行くつもり？ と驚いたが、先頭を歩いていたりリーダーらしき青年が、道を間違えたかと独り言を言いながら反対方向の洞川への道をくだって行った。吹雪かたら大変だろうなあと思った。

静かになった山頂でアイゼンバンドを締め直して下山する。行場の多い雪道をくだるのはやはり気を遣う。ただ登りに比べると下りは楽である。林道をとらないうで、しかしゆっくりと雪景色を楽しみながらくだった。

一ノ世茶屋でアイゼンはずし、冷たい残りのお茶を飲み干してから清浄大橋にくだる。(平成9年1月2・3日歩き)

参考タイム

- 清浄大橋7・40
 - 洞辻茶屋9・10
 - 20
 - 竜泉寺宿坊10・20
 - 35
 - 山上権現10・45
 - 35
 - 洞辻茶屋13・40
 - 清浄大橋14・50
- △地形図▽昭文社「大峰山脈」

鳩吹山から継鹿尾山

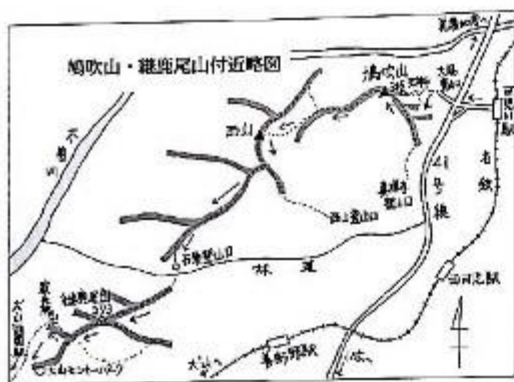
鷲見守康

尾張

冬季の山行は、雑然とした類雑さをすっきりとおおい隠す雪景色を眺めてのスノーハイキングも魅力的だが、明るい雑木林をカサコソと落ち葉を踏み締める巨だまりハイキングも捨てがたい。

美濃地方でも1000m級の山岳では本格的な雪山となるが、養老山系などはスノーハイキングに適しており、平野部周辺の里山は、日だまりハイキングの絶好のフィールドとなる。

そうした里山のひとつに可児市の鳩吹山がある。標高わずか316mの文字通りの低山であるが、愛知県犬山市の権尾尾山(378m)と結んで約10kmの縦走が楽しめることもあり、東海地方の多くの



これらの木が大木となって生き続けている。原生的な森林は、美濃の山でも岐阜市の金華山ぐらいいしか残されていない。しかし、この雑木林の林間には、これらの若い姿を見ることが出来る。自然観察山行では、そうした常緑樹を観察し、森に親しむきっかけをつくりたいという狙いがある。

日本の山岳は、山脚から頂上部までその大半が森におおわれている。だから、ハイキングは北アルプスなど高山の森林限界を抜けた緩急の縦走でないかぎり、山麓からずっと森を歩くこととなる。山の個性というものは、様々な要素から成り立っているが、その自然的な側面について考えれば、山岳が抱く森はかなり重要な要素だと思ふ。ひとつの山を歩き、その山を知るために森を見つめ森を知ることは、とても大切なことではないだろうか。

のハイカーに愛されているようだ。鳩吹山には、大仏・真禅寺・西山・石原の四ヶ所の登山口がある。そのうち、大仏登山口がもっとも交通の便に恵まれ、登山口付近には明るい雑木林もあってコースも楽しい。

JR岐阜駅に集合し、名鉄電車の新岐阜駅から各務原線に乗り換。大山線に入って大山駅で御嵩線に乗り換え、可児川駅で下車した。駅からは西に鉄塔の立つ山頂と所どころ岩を露にした山肌の高吹山がよく見える。

しばらく旧國地帯の車道を歩き、20分ほどで大仏登山口に到着。登山口から谷川を渡る落ち葉が敷きつめられた気分の上り道となった。ブナ科のコナラやアベマキを主体にした雑木林である。冬枯れの林にも、青々と葉を茂らせた低木や高木の常緑樹がある。人間が手を加えなければ、この山はもともとシイやカシなどを中心とした常緑樹帯なのだ。

大仏登山口の雑木林





横吹山から西山方向を望む

道沿いに、ゴマノハグサ科のミヤママコナが咲き残っている。(ただし)マコナは花冠の喉の部分に二つの白い隆起があり、それを米粒に見立てて名付けられたそう、ミヤママコナはその米粒のところが黄色であることから見分けられる。マコナは低山に、ミヤママコナは里山のような低山と高山とに隔離的に分布するようだ。

やがて赤土の太下りの斜面を転げるようになり、車道に出合えば石原登山口に出た。登山道は車道を少し戻り、東海自然歩道に合流して右折するのが本来の道だが、現在は車道をそのまま横切り、少し先で東海自然歩道に入るというショートカットの道が利用されている。継鹿区山へは、階段の昇降を繰り返すピークを三つか四つ越えて行く。それぞれのピークからは、尾張三山などがよく見えるのだが、あまりにもローカルな山々なので、メンバーから訊ねられてもしない限り説明はしない。

見上げるような最後の階段を昇り切らせて登ると、大山の継鹿区山である。標高わずか2733mしかないが、目の前が一気に開け、尾張付きの休憩所からは遠尾平野が一望できた。眼下には木曾川が蛇行して流れ、国宝の犬山城も指すの間だ。

ここから道は分岐しており、左へ進むと支尾根から谷に入って再び登り返し、まもなく主尾根に合流する。谷の道には、5月頃ヤマイワカガミが群生して白い花を咲かせる。イワカガミの仲間のなかでも低山に分布する種類だ。右折して主尾

▲参考コースタイム▼
 名鉄新岐阜駅9・58分(徒歩) 可児川駅10・47分
 55分 大橋登山口11・10分 横吹山11・45分(昼食)
 12・50分 西山13・30分 石原登山口14・20分 継鹿区山15・00分 名鉄犬山道開駅16・50分

根をくだる道には、ツツジ科のコアブラツツジがよく目立つ。

乾いた尾根道から湿気の多い道になると、愛知県下でも最古といわれる名刹寂光院の境内に入った。この寺は境内にカエデ類の木々が育ち、モミジの美しさでも知られている。

黒葉樹林がほとんどなくなったこの地方でも、神社仏閣にはまだ小規模な林が残されていることが多く、この寂光院にもツブラジイやアラカシの木々が思ひつきこじんまりとしてはいるが、うっそうとした雲間気の森をつくっている。

寂光院の境内を通過すると車道となり、犬山モンキーパークの橋を渡って名鉄犬山線の犬山遊園駅に到着した。

(平成10年12月12日歩く)

鈴鹿山脈を見はるかすことはできる。けれど、この日は晴れていても雲が多く、北の方向に、白く輝く白山と熊野白山しか見ることができなかった。

ごく平凡な里山にもかかわらず、これだけの展望が得られるのは、昭和62年の山火事で山林の多くが焼失してしまったためである。現在は、地元の人たちによって植林が続けられているようだが、尾根のやせ地には、裸地にいち早く侵入するアカマツが育っている。樹木は年ごとに節をつくりのびていくので、幼木の間はその節の数から樹齢が判断できる。ことにアカマツなどの針葉樹で判りやすい。

山頂での昼食休憩後、西山に向け出発。行く手の尾根には一筋に続く道が明瞭で、あたかも高い山を縦走しているような雰囲気がある。

林間にはモチツツジとヤマツツジが季節はずれの花をつけていた。このあたり、ルート状の花を聞くツツジは四種類ある。一番早く花を咲かせるのが葉の出る前にピンクの花を咲かすコバノミツバツツジ、常緑で黄色の花のヒカゲツツジと朱色のヤマツツジが続き、最後に大きなピンクの花弁を誇るモチツツジが山肌を彩る。

以前、ヒカゲツツジの前に立ち止まった中年女性たちが、高山植物のキバナシクナゲと誤認していたことがある。ヒカゲツツジの葉がシクナゲに似ているためのもようだが、ツツジ科ツツジ属の中でも、ヒカゲツツジは限りなくシクナゲに近いのだろう。

間もなく、右折して木曾川沿いの尾根を進む道に分れる。この道は谷川をひとつ越えて行くのだが、川辺の湿地ではモクレン科のシデコブシに出合うことができる。シデコブシは世界でもわが国だけ、そして長野・愛知・岐阜県にしか分布しない樹木であると言われている。里に近い湿地に生きてきた仲間には、あちこちの湿地が埋め立てられるにつれて姿を消し、シデコブシはいまや絶滅の危機に瀕しているのだ。

食後の西山の登りはけっこうきつい。頂上に立ってふり返り見ると、まだ立木がまばらで地肌を露出した横吹山が意外に大きく見え、風格さえ違って見える。

西山からは比較的平坦な尾根歩きとなり、高圧鉄塔の立つ大場からは、西方向に始めて横吹山や岐阜市の金華山を望むようになった。

KOBEの登山専門店

手作りザックの店です

新製品紹介
◎アルパイン サブ

- 山小屋からの頂上往復に
- 日帰り軽装のハイキングにコンパクトで軽量
- サイドに長目のファスナーがあり、小物の出し入れに便利

- カラー レッド×ブラック
ブルー×ブラック
グリーン×ブラック
- 重量 450g ●容量 20L
- 素材 USコーデュラナイロン
- 価格 ￥4,500 (新ハイ価格)

※イモック山行くらぶ※
 2000年の登り初めは淡路島
 橋岡羽山(608m)と水尾
 嶺です。
 詳細はお問い合わせ下さい。

神戸ザック

〒470-0001 神戸市東灘区大塚町97番11
 TEL(078)621-5651
 FAX 621-3528

チロルからダヴォスへ

ヨーロッパ山旅記

塚元一彦

ヨーロッパ

再びスイスへ

昨年のスイスアルプス・ハイキングが好評だったため、続編が企画された。昨年は西南部のヴァリス山群に臨するサーフネーとツェルマット、それにモンブラン山群のシ・モニーを基地とするハイキングだった。今年は趣を変えて、チロル(オーストリア)からスイス東北部のベルニナ山群を歩く計画である。

7月8日の朝、関西空港ターミナルビル四階の団体受付前にメンバー19人(男7・女12)が集合。昨年に続いての参加者が9人を数え、なごやかな再会風景である。期待に胸をふくらませながら出国手続きを終え、スイス航空に乗り込む。

しる、本を読むにしろ、すぐに寝れてしまふ。食事と食事の間は、酒を飲んで居眠りするのが最も賢い過ごし方かも知れない。

いい加減飛行機に飽いた頃、17時30分チューリッヒに着いた。ヨーロッパは夏時間のため、まだ日が高い。スイスの入国手続きは、入国も税関もフリーパスに近い。日本人の信用が高いのはありがた

定員286人のMD-11機は満席の感況、シーズンを迎えたスイス旅行は人気が高いようだ。14時に出発するとすぐに昼食が出る。スイスワインを所望したが、フランスワインしかないと言う。自国産よりフランス産のほうが安いためらしいが、このあたりはヨーロッパで常識が始まっているのかも知れない。

昨年は、日本海からシベリア上空を飛んだが、機内モニターのフライトマップは、韓国上空から黄海に入って行く。機内誌の航空路線地図で確かめると、北京から内モンゴルを経てトルファン・ウルムチの上を飛んでロシアに入り、ノボシビルスクからワルシャワ・ニュールンベ

いが、パスポートに入国スタンプが捺されないことは淋しい。制限エリアを出ると、現地ガイドの高橋さんが出迎えてくれた。一年振りの再会である。

バスに乗り換えてオーバーゲルグルまで5時間の旅。片道3車線のハイウェイを200km近いスピードで走って行く。右側通行のため、追い越し車がバスの左側を通過して行くのが恐ろしい。慣れて

ルカ・チューリッヒという経路をとることが判った。シルクロードの上空を一部飛ぶわけだ。機内モニターがアルタイ山脈あたりを示す頃、窓の外を見ると、頂に雪をいだいた赤茶色の渺茫たる山並が広がっているだけだった。

どのコースを飛ぶにしろ、12時間の空の旅はつらい。狭い座席に縛りつけられて、音楽を聴くにして、テレビを観るに

急特河水

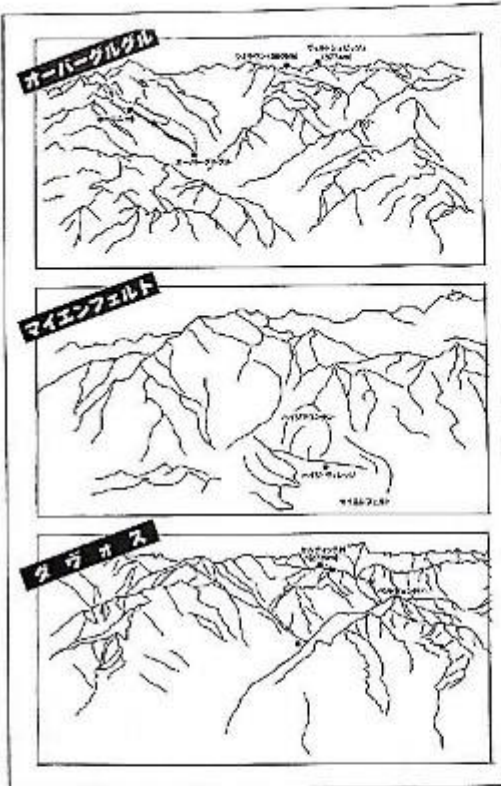


いないための違和感だ。スイスとオーストリアの国境は小さな建物があり、両国の国旗が掲げてあるだけの簡単なもの。警備の兵士が手を振って通過を許可してくれると、隣国に入る。一般道に移って、バスの窓の景色が山間の集落に変わり、すっかり夜になった23時、オーバーゲルグルのホテルに着いた。

オーバーゲルグルで

7月9日。朝、窓から見ると雲が低く、小雨が降っている。チロル山群はオーストリアの西南部にあり、その中心は冬季オリンピックの開催地だったインスブルック。オーバーゲルグルはチロル南端の山間部にあるスキースポットの小さな村である。南に見える山並はイタリヤとの国境になっている。アルプス三大名花の一つエンチアンを称するホテルは、小ぢんまりしたスキースキーの宿で、家族だけで経営しているようだ。朝食はヨーロッパ方式にバイキングを加味した簡単なものだが、牛乳とパンが美味しい。この後スイス滞在中も、牛乳とパンは日本にない味を楽しむことができた。

天候が悪いため出発を遅らせて10時に



ホテルを出て山へ向かう。玄関前の寒暖計は10度を示しており、雨具を着けていてもけっこう寒い。リフトを二回乗り継いで2630級のホーエムートまで登ると、気温はさらに下って6度になった。

ハイキングコースは番号で分類されている。数字の道標に従って氷河と谷道の分岐まで来たが、ガスが濃く雨は降りやまない。氷河見物を諦め、谷道へくだり、シェーネヴィ小屋まで歩いて、昼食をとる頃になって雨がやんだ。登りに使ったリフトの下の道をくだって行くと雲が切れて日が差してきた。放牧の牛がのんびりと草を食んでいる。岩の上にマーモットが立ち、愛嬌のある顔でこちらを眺めている姿を発見した。すぐに草のなかに姿を消したが、二度のヨーロッパの山歩きで初めての経験だった。

ホテルに戻るには早すぎる時間のため、少し遊廻りすることにした。リフト山麓駅からもう一度山道に入り、村を左下に眺めながらホッフホググルの方へ歩いて行く。谷川を渡り車道を横断して、周遊コースを村の方へ引き返すと広大なお花畑が現れた。赤・白・黄・紫の高山植物が地表を埋め尽くして、足の踏み場

ゼイタクだった。

山小屋に泊まる

7月11、12日は、今回の山旅のハイライトであるゲッシュ小屋に泊まるコース。当初の計画ではセルティック峠を越えて山小屋に至ることになっていたが、今年は残雪が多く峠の雪が消えていないため少し遠回りになるがスカレット峠経由に変更した。登山口のアルボーデンまでは約40分のバスの旅。谷川沿いに集落が続き、放牧の牛の群れが遊んでいる。歩き始めるとすぐに森林限界を超えて草原状



ゲッシュ小屋

もないほどだ。花のカーペットのなかに坐り込んでカメラを構えるが、圧倒的なボリュームに負けてしまう。わずか1日だけのチロルの山歩きの前半は雨に祟られたが、後半は十分に晴れてきた内容だった。

ハイジの里など

7月10日は移動日。きょうもまた雨になったが、少しはツキが廻ってきたらしく、バスがリヒテンシュタインに着く頃には晴れてきた。スイスとオーストリアに挟まれた1600坪の面積に三万人が住むというミニチュア独立国である。外交・通貨はスイスに依存しているが、郵便切手は美しい自国のものを発行して外貨を稼いでいる。国境はフリーパスだが、希望者には有料で入国スタンプを捺す事務所があり、観光客は喜んで捺印を受けていた。入国スタンプを観光収入に使うという智慧には感心するほかない。丘の上の小さな城には、国王一家が住んでおり、時折街に姿を見せるそうだ。花で飾られた中心部はまるでデイズニールランドを思わせる楽しさに満ちている。時間が足りないため、切手博物館や王立美術館を見

の道になる。コバイケイソウをくくりの植物が群生しているが、花の形と色が異なる。イワカガミやサクラソウによく似た花も混じっている。アルペンコロゼやエンチアンは多いが、エーデルワイスにはお目にかかれない。雪が多く、遠くの山並はガスのなかに隠れているのが残念だ。

徐々に高度を上げていき、2739級のスカレット峠まで来ると雪渓が現れた。谷筋の道との分岐付近で昼食を終えた頃、雨が降り始めた。雪渓が積つも連続するようになり、中腹をもう山道まで雪におおわれてきた。はるか下の方に谷を見ながら慎重に進む。セルティック峠からの道との合流点では、沢にかかる橋が壊れていて、約30分の迂回。先刻分かれた谷筋の道と再び出合う地点で、ようやく小屋が見えてきたがまだ遠い。大きな雪渓を渡り、急坂を登ると小屋に着いた。

石造り二層の建物で、入口と食堂は二階、三階に寝室がある。小屋の周辺には、気室の間に高山植物が咲いているが、雨が激しくなり、外出する気にならない。相客のドイツ人のカップルは、明日周辺

物でできなかったのは残念。昼食の魚料理はなかなかの味だった。

ここから約1時間でマイエンフェルトに着く。「アルプスの少女ハイジ」の舞台となった村で、バスを降りて約2時間の散策。広い牧場の一隅に十九世紀の農家を復元して、ハイジの人形が飾られている。フィクションをビジュアル化して観光の対象に仕立てる手法は、洋の東西を問わず共通のものらしい。牧場からの眺めは雄大で、見渡す限りのブドウ畑の向こうに山々の連なりがある。乗り物で走り回るだけでなく、自分の足で確かめる観光は、新ハイジ独特の企画でなかなか楽しい。

バスに戻り、きょうの目的地グヴェスに向かう。道が山間部に入って行くと、英国皇太子がスキーに訪れるというクロスターを通過する。さらに高度を上げて行くと、四方をスキー場に囲まれたグヴェスに着いた。この街はスイス有数のコンベンション都市で、立派な大型ホテルが多い。我々の宿、ホテルジーホフは四ツ星で、国際会議では中東の国の閣僚級の宿になっているとのこと。部屋は広く豪華で山歩きの前にはもったいないくらい

のだろうか。寝室は二段ベッドになっており、寝具は清潔で気持ちがいい。夕食はスープ・サラダ・パスタにデザートが付くというコース料理で、この辺が日本の山小屋とは全く違う。

翌日も雨。パンとヨーグルトとコーヒーの簡単な朝食だが、いずれも本場の味。今回の旅行ではどこの宿でもパンが美味しかったが、山小屋も例外ではなかった。雨具を着けて出発。下りは昨日と異なり雪はない。花の草原のなかを歩いて行くと集落が見え始めた頃、雨が上がった。昨日から集合写真を撮っていないことに気がつき、慌てて山並をバックに撮影。高度を下げて行くと樹林帯に入り、間もなくミグナイラの集落に着いた。ここから先は車道と山道を交互に歩くことになるが、これがけっこう良い。ベルキェン若は12時ちょうどとなり、村のレストランの昼食はスイス風カレーライスという珍品だった。

迎えるバスでグヴェスに戻り、ホテルで汗を流した後は街へ出て、ショッピングと食事。名物のミートフォンデュは牛肉オンリーで野菜はない。われわれ日本人には量が多すぎた。



ケッシュ小屋からの下りで

氷河特急とチューリッヒ観光

7月13日は移動日。ダヴォスプラッツ駅には真赤な氷河特急が待っていた。サントウイチと異物とジニースの弁当を持って列車に乗り込む。気分はまるで幼稚園の遠足である。車内の半分を透明の扉で区切って、貸し切りにしてあり、十分にくつろげるのが嬉しい。この日初めて快晴となり、遠くの山並がハッキリ見える。出発してしばらくするとおみやげの車内売りが来た。写真集・絵ハガキ・

人形などのほか、傾いたグラスがめずらしい。カーブが多く列車が傾いても水がこぼれないようになっていているらしい。

車窓にはすばらしい大パノラマが展開する。遠くの山並の頂上付近は残雪と氷河。次々に通過する田園風景は、尖塔を持つ教会を中心に広がる小集落の連続。線路の両側は花一杯の牧草地が切れ目なく続く。時折美しい湖と針葉樹の森、巨大な岩盤をくり抜いたトンネルと目もくらむような鉄橋が現れる。何しろ時速60km、世界一スローな特急列車だから、景色を眺めるのに最適だ。線路が曲がりくねっているため、窓から身を乗り出せば列車の先頭部をカメラに収めることもできる。子どもの方にはしゃいでいるうちに、アツという間に4時間が過ぎ、乗り換え駅のアンデルマットに着いてしまった。

バスに乗り換えてチューリッヒに入る。スイス最大の都市だが人口は僅かに三十万人。繁華街は中央駅からチューリッヒ湖に至る約2kmのバーンホーフ通りだが、一歩横に入ると昔ながらの石畳の古い街が現れる。四ツ屋のグロックンホフホテルに荷物を置いた後は、思い思いに寺院

巡り、美術館見物、ショッピングに放って行った。夜は市内のレストランでスイス最後の夕食を楽しんだ。

14日、飛行機の出発まで少し時間があるのを利用して、オプションで市内の半日観光を楽しむことにした。ダリの絵をステンドグラスにした教会は、寺院そのものが豪華な美術館。チューリッヒ大学ではビクニックに来ていた幼稚園の子どもたちと交歓するおまけもついた。

空港で出国手続きを終わって飛行機に空港で出国手続きを終わって飛行機に若瀬。タキシングが始まった途端、エンジンに鳥が飛び込むというハプニングのため、いったんターミナルビルに戻る。配られた金券で名物料理のリュウシティ(ジャガイモをベースにしたピッツァ)を試みたが、これは美味かった。3時間遅れで出発し、再び13時間のフライトの後、15日朝関西空港に着陸。

飛行機を出た途端、ムッとずる暑さと湿度に運えられ、乾燥したヨーロッパの夏とは全く対照的な日本に帰って来たことを実感した。

(立成10年7月8日、15日歩)

049号(11・12月号)の「山行報告」参照。

イランの最高峰

デマバンド登頂

内田 嘉弘

イラン

「ランサイス外国山名辞典(三訂版)」に、デマバンドはイランの最高峰。カスピ海沿岸のエルブルーズ山脈の主峰。デハランの北東約80km。南麓のレイネ村(約2000m)が登山基地となる。ここから通常2日間の登行で頂上に達する。技術的には困難はない。北面には小氷河がある。均整のとれた山容の火山であることから、イラン富士と称される。

(中略)初登頂はW・トムソンといわれる。山頂からのスキー滑降は、1971年4月の日本隊の丸山晴弘らが最初と思われる」と出ている。

(4350m)・サギチャール(4250m)等に登っている。なお、デマバンドの標高は5604mとしたものもある。1987年に50歳を記念して5000m級のボカテペトル(5452m)に登ってからは、92年のモンゴル西部のツァンバガラブII峰(4200m)、98年グアテマラの中央の最高峰タフムルコ(4220m)とタナカ(4093m)、97年スマトラ島の最高峰ケリンチ(3805m)、98年カムチャッカのアバチャンスキー(2741m)と、標高は年々低くなってきていた。年齢に伴う体力の衰えが弱気にさせていた。これではいけない、もう一度5000m峰に登ることができれば

ゴスファンド・サーラよりデマバンド



今後の山登りの展望も開けると考え、デマバンド登頂を決意した。

今回のリーダーは旧知の関西登高会の山口忠夫氏。8月19日、大阪空港で氏と落ち合い、成田へ。14時55分発イラン航空の北沢線出でテヘラン着23時30分(時差4時間半遅れ)。

現地のキカラバン・サーラ・ツリーリスのハリー氏(56歳)の出迎えを受ける。彼はテヘラン大学の日本文学専攻で日本語が話せる。彼の案内でテヘラン市内のハリエジホテルへ落ち着く。

イランは正式国名はイランイスラム共和国、大多数の国民はイスラム教徒で、その半数以上がシーア派で、これが公式に国教となっている。女性はイスラム式服装で、顔だけを出して黒で裾までまぶらおろっていて手すら出していない。

なかには膝下位までの長さのコートを着て、下にはスポンを履き、顔は黒いスカーフでおおい、手を出している人がいる。このスタイルは若い人たちに多い。テヘランの8月は湿度が40度近くまで上がるが湿度は20%前後なので、日陰や夜間は過ごしやすい。イランの通貨単位はリアルで1万リアル紙幣の裏面にデマバンドが描かれている。1ドル＝8500リアル前後で、2万リアル(3000円前後)も出せばレストランで一番良い食事がとれた。



翌20日朝、登山装備のみ(不必要な物はホテルに預け)を車に積み込む。午前中は市内観光で、考古学博物館とサード・アバード宮殿を訪れた。午後はスーパ

で行動食や果物を買いつけ、登山基地レイネへ向かう。峠を越えデマバンドの望める場所まで来たが、中坂から上は雲でおおわれ、残念ながら全貌は望めなかった。谷間にある集落の緑(オブラ・カナギが多い)以外は砂漠の砂色の山ばかり。デマバンドの裾野を登るようになると養蜂箱が並び、道端ではハチミツを売っていた。テヘランから3時間半ほどでレイネ村で、登山者が利用するレイネクラブに着いた。

21日朝、オキシメーターでは、私の動脈血酸素飽和度は95%、心拍数は73であった。マイクロバスでフルール村の方へ戻り、デマバンド裾野のジグザグの地道を登りだす。道端に赤いケンタの花が見られた。モスクのあるゴスファンデ・サーラ(2010年)に着いた。富士山でいえば五合目か。このあたりは半の夏移牧の最高地点のように岩小屋や夏だけの小屋がある。

ここからミュール(ロバ)に降荷を任せ、デマバンドを正面に仰ぎながらの登りになるが、あいにく山頂付近は雲におおわれたままだ。足元はラベンダー・トゲのあるアゼミ・タンニホ・サクラン

ウの仲間が見られる。高度が上がると西湖にライ湖が望めるようになる。砂色の山々のなかで紺色の湖が印象的だ。この湖は二、三年前までは魚がよく獲れたが、今は養魚になっているという。

ジグザグの凹状のガレ場を抜けると左上にシュルグー(7、8人は泊まれる)が現れた。トイレ・水出しもあるアタックキャンプ地で、もうテントが数張あった(約4時間の登りで到着)。標高約4100m、到着時での私の酸素飽和度は81%、心拍数は90であった。少し休憩して高度順化のため、4300m付近まで登る。イギリスやオーストラリアの人たちがアタックを終え、くだって来るのに出会う。夜は月明り、澄天の星空で、遠くテヘランの街の灯も見えたから、明日のアタックの天候は大丈夫だろう。

22日、昨夜は寒かった。6時半出発。気温は0度、山頂は雲におおわれている。アタックに慣え、昨夜のうちにグクコンのパンツ、ズボン下、長袖に着替えておいた。東側(登って行く右側)の一本目の岩後のコルが最初の目標地点で、ガイドのサリン氏がゆっくりリードしてくれる。きつい登りではないが、砂礫の道は登り

ちている。岩陰でシユラフだけで寝ている人がいる。登るに従って冷え込み(マイナス10度)だしたから、上下共雨具を蓄込み、二本目の左の岩壁ヘトラバースしてそれを登る。富士山の屏風尾根を登るような感じだ。それをただひたすら登るのみ。登るに従って雪が舞い始め、視界は20〜30ほどになってきた。岩稜を抜け出ると雪面の登りだ。ジグザグを繰り返して稜線に抜けると薄青色の岩肌が見られ、雪の匂いがする。見上げるとぼんやりと岩が見え、その方向へと登ると山頂で、12時45分着であった。

高度計は5483mを指していたから、標高は5604mが正しいのかもしれない。気温はマイナス2度、頂上到着時での私の酸素飽和度は65%、心拍数は98であった。ガスのなかで酸素はゼロ、そのうえ硫化水素・二酸化イオンの匂いが鼻についていたから、さっさと記念撮影を済ませ下山開始。

2、3分着くたると雪面に羊の死骸があった。下りは登って来た岩壁ではなく、左の雪面から砂礫の道を通り、一本目の岩壁に戻り、また右の砂礫の道を通った。デマバンドの一般ルートは、登りは



デマバンド山頂にて

主に岩壁で、下りは砂礫の道を通るようになっている。23日下山し、レイネから北へ約30分程の所にある温泉へ。爪先立ちでギリギリ顔が出るほど深い風呂だ。仲間たちもその深さにびっくり。イラン人はパンツを履いたまま入っているが、日本人は丸裸で入るから、イラン人はびっくり。昼飯は養蜂場で焼く料理。炭で焼いたものを一杯食べ、ココアौरで乾杯(酒は禁止で、ていなし)。テヘランへ戻る。24日はイスファハンへ。ジャメモスク・イマームモスクを見学。

25日、再びテヘランへ戻り、レーザ・アッバシー博物館等を見て、テヘラン21時発。

26日早朝北京発、13時前に成田着。空港内のすし屋に入り、アマバンド登頂と旅の成功を祝して山口忠夫氏とビールで乾杯! これで一件落着いた。

(平成11年8月19〜26日歩く)

- ハメンバー(V 山口忠夫(ヘリダー)
 - 矢作(内藤秀一 井出敏文)
 - 金子 浩 梅村一之 内田泰弘
- (計7名)

連載

三角点を訪ねて ②

鈴鹿山系南西端の旗山

はたやま 鈴鹿

磯部 純

旗山は鈴鹿山系の南西端に位置する山で、那須ヶ原山や油日岳に隠れて、あまり注目されていない。山名はその昔、このあたりでの合戦時に、物見が旗を振ったことから名付けられたとか。

この日のメンバーは熟年男女2人ずつの山仲間で、ガムシヤラに道無き道を登るわけにはいかないパーティ。週末の冷え込みで北部は大雪に見舞われ、鈴鹿南部でも積雪が予想された。

京都を7時35分に出発。高速道路を利用したものの駐車場所を深すのに手間どり、大日如来と刻まれた石塔を右に見て、その先の分岐広場に着いたのは9時15分。できるだけ雪をさけて鈴鹿南部の三角点

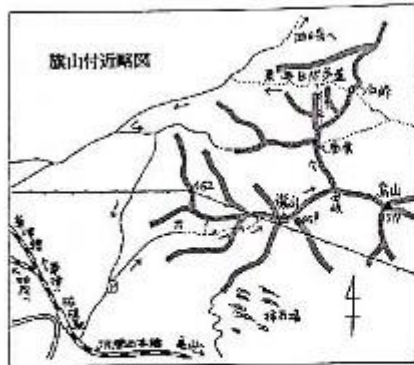
を逃んだのだが、前週に比べて積雪量は予想以上に多く、目の前にそびえる山にはべったりと雪が張りついている。旗山山頂はガスのなかだった。

9時25分、装備を万全に整え出発する。林道の敷には雪がなかったものの、あたりは10時も積っていた。山麓に近づくとつれ、雪はさらに深くなっていく。林道終点に神社があり、雪の白と木々の黒に赤い鳥居が映えていた。雨乞いに深いかわりを持っていったという熊鷹大神の祠である。まずこの祠で山行の安全を祈願したのだが、賽銭をあげなかったことを根にもってか、しっぺ返しを食らったのだからたまらない。一人は大切な磁石を、

680坪から旗山・柘植方面をふり返る



もう一人はアイゼンの片方を山に取り上げられてしまった。物を落とすとということとは不注意以外の何ものでもないのだがこの時は、「どんな神にでも敬虔な気持ちで接しなければ」とつくづく思った。祠の左手からジグザグ道を登る。20分程で屋根上の送電線鉄塔に着くはずだったが、雪面の足跡に引かれるように歩いているうちに、いつしか道は消え失せて



浅い谷へ出てしまった。この足跡はおそらく狩猟の足跡だったのだろう。右手の斜面を登って登山道とは方向逆いの南の方へと向かっていった。旗山山頂は左手の尾根のどんづまりである。足跡を離れ谷をつめることにする。道はなかったが、斜面のブッシュは雪におおわれ、苦労することなく登ることができた。しかし、登るにつれて雪は深くなり、斜面も急になってきた。やがて、杉林から自然林へ変わると、雪もさらに多くなり、斜面を直登するのは無理だと判断した。歩きや

すような所を選び、左の尾根へ逃げる。その尾根に出ると道が通っていた。両脇から張り出した木々の枝に雪が積っていて、触れるたびに粉雪のように舞い落ちる。また、裸の枝には氷の針状結晶が成長していて、実に「キレイ!」の一語につきた。

地形図で見ると、三角点は道が尾根にのった所から100m程西南へ行った地点にあることになっていたので、意外にも、登りつめて斜面がゆるくなったピークにあった。地図の登り道の位置が間違っていたにちがいない。磁石は雪をかかっていたので、三角点を見逃がしてしまいそうな地点だったが、そこは長年の勘と経験で、この場所が三角点のある山頂だろうと、こもり盛り上がっている雪を除くと磁石が姿を現した。

旗山(点名不明)は標高644m・5坪の二等三角点である。磁石は南向きで、20度西にふついている。旗山の小さな山名標識が近くの木に吊り下がっていた。恒例の三角点の顔写真と登頂記念写真を撮り終えると、方向を鳥山分岐に定めて出発する。尾根道には雪を山ほど載せた杉やアセビの枝が張り出していて、通り

抜けるたびにその雪をかぶる。このままでは雪まみれになってしまうと、5分程の所でヤッケ・オーバーズボンに身づくろいする。このあたりでは60坪程の積雪があっただろうか。

準備を整え、これから先の地形は?と確認しようと思っただけ、「無い!」。それまで方向を指定していた磁石がどこを指しても無いではないか。三角点での歩き出しで方向を定めた後、確かに手に持って歩き、それからポケットへ入れたはずだったが見つからない。旗山三角点とこの間で落ちてしまったに違いないかった。皆を待たせて三角点まで戻って来たが、見つかることはできなかった。

いつしかガスは薄れ、これから向かう雪の稜線がクッキリと見える。これなら磁石無しで歩いても大丈夫と鳥山分岐へと向かう。3人が分岐ピークに着いた時、遠いビッチで先頭を歩いていたトップは、ピークを越え鳥山の方へ行ってしまったのか、姿が見えない。ソロ峠へはこのピークから左折して北の尾根にのるはず、慌ててコールして呼び戻す。

このピークからの北の尾根には通りしきものは全くない。夏ならササをかき分

けて進むはずの屋根も、幸い雪におおわれ、苦勞せず歩けそう。急斜面をくだり雪の被褥を一步一歩進む。15分程で一つのピークまで来ると、眼前の展望は最高に開ける。雪におおわれた足下の谷、そして新羅平野。ふり返ると今歩いてきた取山からの屋根が白く続いてい

た。道が無くなって急なアップダウンが出てくると、前を歩く彼女は実によく滑り転ぶ。しまいは尻制動で斜面をくだっていたのだが、雪の歩き方に全く馴れていない。かなり体力を消耗していたにちがいない。気の毒を通り越して……。

次のピークで昼食とする。このピークは東海自然歩道の南を走る破線路と尾根の交叉する地点だったが、破線路は陸道になってしまったのかどこにも見当たらない。ソロ峠までもう少しだが、思っていたより時間をくってしまった。この日の昼食は皆でついて食べるラーメン。寒いなかで食べる熱いラーメンは身体が暖まる。4人で長が山のように入った五つのラーメンをペロリとたいらげ、食後のコーヒーまで飲みほし、ゆっくり休んでから出発とする。

これからはくんだりなので、滑っていた人はアイゼンを着けての山登り。それにしても急雪中、ずつと降り響いていた鉄砲の音が耳にかかる。

地図を見ると、ソロ峠へはこのピークから屋根を50分程度北へ行き、そこから東へくだる屋根にのらなければならぬ。相棒が巖石を貸そうと言ってくれたのに、大丈夫と思っただけだったのが大間違。地図を片手にくだったものの、急な斜面で滑る例の彼女に気をさらされ、おまけに残っていた足跡に悪わされ、気づいた時には方向を東に変える地点を通り越し、斜面をまっすぐくだり過ぎていた。引き返すといつても登り返しがきつくと混乱を招くだけなので、相棒と相談のうえ、雪斜面の幸いに知らぬ顔でそのまま斜面を谷へくだることにした。下に東海自然歩道が通っているとは分かっていたらこそできたことであるが、もし東海自然歩道が通っていなければ、当然登り返していた。

くだるにつれ斜面は急になり、ブッシュも密になる。とにかくやぶの空いている所を選んで、滑り坂びながらも谷へとくだり進む。地形図で読んだ通り、谷は浅

く歩きやすかった。1000分程度くだると東海自然歩道へ飛び出した。そこには「ソロ峠まで20分」と書かれた標識が振り下がっていた。結局、くだった谷は東海自然歩道の通る谷の一つ西の谷だった。東海自然歩道に出てもと入られると、「アイゼンの片方が無い！」と彼女。

ここからは東海自然歩道をくだる。油岳への林道分岐に出ると、霧をしていた人々が屯していた。その人たちの話によると、「4人の稜線を歩く姿がハッキリと見えていた。特に赤いヤッケの色が目についた」とか。

猟期中の登山には目立つ色の衣服の着用が必要だと改めて思い知らされた。下山後は東海自然歩道をたどり、碓氷まで戻る。駐車広場到着15時25分。
(平成11年2月14日歩く)

△コースタイム▽

大日如来石塔光の分岐広場(20分) 熊鷹神社(1時間) 峠山三ノ角点(35分) 鳥山分岐ピーク(30分) 破線路交叉(尾根)(1時間) 東海自然歩道(20分) 加太林道(45分) 分岐広場
△地形図V2万5千II鈴鹿峠

連載 比良を歩く ⑭

近江舞子からシヤカ岳・ヤケオ山

秦 康 夫

ヤケオ山の東尾根ルートは、琵琶湖側にしてはめずらしく荒れ道や急坂の少ないながらも登山道である。ただ、登るにしろくだるにしろ、取りつき点はやや分かりにくく、また登山地図に記されていないせいもある。ここを通る登山者はほとんどいない。

今回は、近江舞子から「碓氷山荘道」を経てシヤカ岳に登り、ヤケオ山の東尾根をくだって近江舞子に戻ってくるルートをとった。いわば大谷と梅ノ木谷を三方から取り捲く山登りを、ぐるぐると一周するコースである。

駅員に登山届けを託し、8時50分JR近江舞子駅を出て、左の道を西に向かう。

街中の道は複雑で迷いやすいが、とりあえずの目標は八幡神社である。小松小学校の前を通り、ピカピカ光るNTTの高いやぐらを横目に見て国道を渡ると、間もなく松並木と灯籠の並ぶ参道に入り、神社の前に出た。大きな石の灯籠と阿吽の狛犬が並ぶ立派な神社だ。

きょうは総勢20名の大所帯。コースの途中に水場はないので、ご神水を頂いてポリタンクを満たし、神社の横の道を山に向かって出発する。めずらしいトレイラーハウスや、立派な日本庭園を眺めた一休園を眺めながらしばらく歩くと、別荘地帯に入った。「琵琶湖周航の歌」に「碓氷が里のおとめ子……」という歌

ヤケオ山山頂



阿が出てくるが、このあたり一帯を「碓氷山荘」というようだ。

ここを左右に道が分かれ、道標に登山ルートを示す矢印形の木の案内板が掛かっている。「碓氷山荘道」は、千許の登山地図によると送電線の下を通ってすぐ左の道から左根に取りつくようになっているが、案内板は右の道を指している。迷わず右をとり、登り勾配の碓氷路を逆

む。

枝道が多いが、とにかく幅が広いほうのメインルートらしき道を選んで行くと、別荘地帯の西の端に出た。右にログハウス、左にはまだ新しい白い三階建の研修所らしき建物がある。ここが「雄松山荘道」の登山口。長い舗装道は終わり、取から約30分のアプローチを経て、やっと山道に入った。

案内標識に従って、落ち葉の堆積したクッションのよい登山道を登り始める。時々急坂もあるが、おおむね勾配のゆる



やかな歩きやすい道だ。右下に聞こえる濁音は、はるか稜線のフジハゲあたりを流す大谷の急流。道は尾根の右に出たり左を巻いたり、くねくねと曲がりながら徐々に高度を上げて行くが、左に見える大津ワングル道の被覆は、なかなか近づいてこない。

グループの一人が「おもしろいものを拾った」というので、のぞいて見ると、薄紫色をした野生のカイコの繭だった。

最近ではめったにお目にかかれないめずらしいものだそうだ。野蚕と呼び、染めの材料にも使うとのこと。

登り一方はしんどい。12月というのに大汗をかいて、落ち葉の敷きつめられたふかふかの道を黙々と登る。溝状の登山道に積もった落ち葉の、積雪量ならぬ積

葉量は5センチくらいか。何本か右に入る植林用の仕事道をやり過ごし、尾根はだんだん細くなって、所どころに岩が現れてきた。道も不鮮明になるが、尾根の中心を外さぬようにすれば心配ない。

テカテカと照光りするイワカガミの葉の群落を抜けて、大きな岩を廻り込むあたりはなかなかの急坂である。徐々に左の尾根が近づき、谷が極まってきて、やっ

とイン谷口からの大津ワングル道に合流した。地図には展望台とあるが、見晴らしは良くない。

最近、人の通った痕跡はない。左右から木の枝が張り出しているので、手で払い除けるのが少しめんどうだが、落ち葉の積もった歩きやすい道だ。尾根を少し外して、初め南方向へ谷に向かうが、広い南斜面を、右、左とジグザグを繰り返しながら、徐々に東に向きを変える。はるか下方に「北小松げんき村」のグランド、右手には近江舞子の小松沼が見えてきた。琵琶湖を奥野の隅に入れたながら、自然林のなか、なだらかな気分のよい下りが続く。

をロープ代わりにして、岩の左を登るルートがあり、ほとんどの人はこれを利用したが、岩登りの好きな人は直登ルートを楽しんだようだ。たかだか7、8分位でしっかりした足場もあり、すぐ上で左の捲き道といっしょになる。

岩場を越えてからも、まだまだ岩や木の根を頼りにしての急登が続く。丈夫な木の根はロープのようにぐらぐらしないのでありがたい。急坂をのりきってしばらく歩き、リフト「シヤカ岳」からの登山道と合流した。大津ワングル道の案内板には「道路注意 垂直に近い岩場あり」と書いてある。登りで幸いだったが、

多人数のくんだりだと難渋するところだ。あとは、ゆるやかな登りでシヤカ岳へ1060・5分)に到着。薄暗い木立のあちこちに分かれて昼食にした。

午後、ヤケオ山に向かってほとんど歩く。5月に来たときは様々な色の花が咲き乱れていたが、いまは一面の暗褐色。数日前に降った降雪も、すっかり溶けて泥土と化し、いたずらに登山靴を汚すのみ。秋景色でもなし冬景色でもなし、ちょうど境界期のこの季節は、無味乾燥が支配する味気ない世界が広がる。

いっただんくだったからにはさしたる登りもなく、フジハゲ一帯のさまざまな形をした石稜を眺めながらの被覆歩きで、ヤケオ山に着いた。山頂からはほぼ真東のびる尾根筋がきょうの下山ルートである。展望のよいヤケオ山では、ツルベ丘から峻谷ヶ峰まで、奥比良方面の景観を楽しんでゆっくり休憩した。

いよいよササを分けて東尾根の下降開始。いきなりブッシュ地帯に突っ込むが、ブッシュといっても生え込みはそうきつくない。東に向かう尾根を外さぬように注意すれば問題は無いはずだが、万一、バックする場合は目印として、小枝に赤いボン結びながら、琵琶湖方向にど

んどんくだる。尾根上に現れた大きな岩を廻り込むと間もなく、右側に展望が開けてきた。踏み跡らしきものが見つかったが、すぐ消えてしまう。

くだり始めてから約20分、地図上の標高点7617の事前あたりだと思いが、尾根が南寄りに分かれ、ブッシュのなかに、細いながらも道らしきものが現れた。東南方向にずっと続いている。これでひと安心。10数分間これをたどると、だんだん道幅も広くなってきた。

道幅に琵琶湖に向かって低い大きな岩が突き出し、その上が格好の展望台になっている。湖南アルプス・鈴鹿方面が絶景だ。ここでゆっくり休憩。気がつくと言の側面に、「界」という字が大きく彫り込んである。字の上と下には、太い垂直線が一本ずつ。どういう意味だろう。

道は西に向かったり、東に向かったりと、何度もターンを繰り返しながら、ほぼ南東の方向におりていく。勾配がゆるやかなので、歩きやすくて助かるが、そのかわり高度はなかなか下がらない。琵琶湖はまだはるかかなたである。

琵琶湖にかわって、常緑帯が目立って

最近、人の通った痕跡はない。左右から木の枝が張り出しているので、手で払い除けるのが少しめんどうだが、落ち葉の積もった歩きやすい道だ。尾根を少し外して、初め南方向へ谷に向かうが、広い南斜面を、右、左とジグザグを繰り返しながら、徐々に東に向きを変える。はるか下方に「北小松げんき村」のグランド、右手には近江舞子の小松沼が見えてきた。琵琶湖を奥野の隅に入れたながら、自然林のなか、なだらかな気分のよい下りが続く。

道幅に琵琶湖に向かって低い大きな岩が突き出し、その上が格好の展望台になっている。湖南アルプス・鈴鹿方面が絶景だ。ここでゆっくり休憩。気がつくと言の側面に、「界」という字が大きく彫り込んである。字の上と下には、太い垂直線が一本ずつ。どういう意味だろう。

きた。松も多い。落ち葉の下に石コロのかくれた歩きにくい道が続き、それが終わると、じゅくじゅくの泥道じりの差路になってきた。と思ったら突如壁状に出た。下流には立派な橋も架かっている。大荒川の支流、梅ノ木谷の砂防ダムである。

ここで登山道は途切れてしまう。ダム工事のため消されてしまったらしい。やむを得ず、谷沿いに林のなかを強引に抜けると橋の下方の林道に出た。これは工事に作った古い道だ。簡易舗装がはがれて、半ば土道になり、道を塞ぐように倒れている大木も朽ちかけている。

細い流れを横切り、堰堤から10分弱で別荘地帯に入った。朝歩いてきた雄松山荘の北の端あたりになるのだろうか。放逐別荘と空き地が多く、人影は見られない。柳太夫法医学研究所と書かれた札の掛かった神秘的な建物が目についたので立ち寄ってみると、小さな祠があり、「比良不動大神」という神様がまつてある。その名に敬意を表して一応参拝しておいた。別荘地帯を出て、二連の送電線の下を通過し南に向かう。途中、金網の網いがあり、「中井新道登山コース通行禁止」

と書かれた古い金属製の標示板がある。日付がないので、いつの指示か分からないが、中井新道とはこの道のことだろう。

霊園橋を通り、国道161号線に出ると、車の往來が激しい。100りほどの国道歩きを避けて国道の隣の村道を歩き、家棟川の橋を渡る。朝歩いた道に戻ってきた。八幡神社の参道に入る手前あたりである。

梅ノ木谷の堰堤から30分ほどかかってJ.R近江舞子駅には4時15分頃到着。「予定時間通りですね」という声に顔を上げると、出発時に登山届けを渡しておいた駅の人だった。
(京都北山グループ例会・平成10年12月13日歩く)

▲コースタイム▼

J.R近江舞子駅(55分)雄松山荘道・登山口(1時間20分)大津ワングル道山合(1時間20分)シャカ岳(20分)ヤケオ山(1時間10分)石の渡梁台(30分)梅ノ木谷・堰堤(30分)J.R近江舞子駅
△地形図▼2万5千1:比良山・北小松 昭文社刊「比良山系」

連載

1等三角点峰(5000以上) 548座完登の記録(第17回)
東北地方の岩手・青森の山旅

坂井久光

昭和も終わろうとする63年12月28日、青春18きっぷを使い山陽本線の普通列車を乗り継いで、広島県の野良原山(7200)と岩国の高瀬山(6450)へ行っった。以前、この二山は、広島に住んでいた公衆衛生科の公費民の中田芳氏に彼の愛車で案内され、歩かずに山頂に着いた。これは登頂したとは言えないので、今回はJ.Rとバスで山麓に行き、車道を歩いて登った。

野良原山は山頂が平地で広く、広島市の近郊にあったので、遊園地としてにぎわっていた。前回来た時は集合や会堂もあったが、久しぶりに来てみると、廃業したのかだれも居ず、幽霊屋敷のようなと書かれた古い金属製の標示板がある。日付がないので、いつの指示か分からないが、中井新道とはこの道のことだろう。

家屋が草の生い茂る高所に散在している。翌29日、高瀬山(6450)の車道をゆっくりに登り、広い駐車場のある山頂へ着いた。この山はかつて高瀬寺という寺があったので名付けられたらしい。
年号も改まった平成元年5月中旬、ハワイにいる長女に男子が生まれ、家内が15日に飛び立ったのをチャンスに、20日からノートルダムクラブ(深瀬魚の保護と後の子供の研究)の例会に参加し、南紀の日置川から不宮・湯の峰温泉とたどり、解放後の22日、東北地方の1等三角点めぐりに出発した。
J.Rで東京へ行き、夜行の八甲田号に



白見山

【この花・この草】
キンズミズキ (Agrimonia pilosa) パラ科
日本では農薬に全水引がよく使われますが、この名をもつ草があります。ミスズキ(クマドリ)に似た黄色い花を咲かせることから「金水引」の名が付けられています。
国内では北海道・沖縄の各地に見られる双子葉植物科の花類の多年生草本。山野や道端に生え、果実を包む萼には釣状の毛がびっしりと付着する……と書くと、心当たりのある方も多いのでは？
夏から秋にかけて茎葉が十分に茂り、まだ花の開かない時期に全草を刈り取り、晒乾したものが生薬の金水引です。アグリモノール・アグリモノリド・アグリモノニン等を含みます。止血、止血利胆、口内炎薬として用いられます。
中国では、同様の仙鶴草がガン細胞に対して効果があるとされ、この説が日本にも紹介されてから前記で用いることもあります。
近縁種のセイヨウキンズミズキは、ヨーロッパでも古くから利用され、十五世紀には鉄製の治療薬「アルケナード水」の主成分とされました。

8800の広場からネマガリダケのやぶに突入、所どころにヤブシガサ(キク科)の群落があり、クマの通った跡をたどって約1時間のアルパイトのすえ、やっと山頂へ着いた。やぶで榛石が判らず木に登り値察すると、3分先に切り開きの平地があり、白見山(11133)の標石とプレートがあった。

ひとりで万歳三唱し、コーヒーを沸してひと休みしてから、西北の新田牧場へやぶの急斜面をくだった。小谷へおりてとどろくとブル道へ出た。下方に伐採した木材を積み込んでいる車が見えた。西側の中腹以下は伐採されて丸坊主になり、ブル道が縦横に走っていた。林道をくだって牧場を通り、入口のバス停から村営バスで報徳へ出て、JRバスに乗り換えて遊野へ戻った。JRで盛岡へ行き、市内の旅館で一泊した。

翌24日、駅前からバスで早坂高原に行き、石峠へ向かって歩いた。林道を通って牧場の中を掘道に登るとアズマキクが小丘に群生していた。さらに登って鞍に出ると切り開きがあり、間もなく三沢の頭(12094)へ着いた。一人で万歳三唱後、少頓して往路を下山した。石

峠からヒッチして早坂高原でひと休みし、バスで盛岡に戻った。そしてすぐ、厨川の東北農業試験場の技官・北川会員を訪問した。彼は京都大学農薬部卒の秀才で土壌が専門とか。岩手県の1等三角点とはほとんど登り、明日は盛岡がよいと言った。最近林道終点より登路ができたこと、貴重な情報を教えてくれた。また土・日曜には戸米岳を案内すると約束してくれた。

JRで北上に行き、北上線で岩沢へ出て羽山荘で一泊した。翌25日、バスで和賀仙人へ行き、当業林道を約10分つめて谷に入ると、シラネアオイ(キンギョウケ科)が共の美しい花を咲かせていた。途中のブナ林の新緑も美しく、カッコーの音が聞えた。出合から中央の尾根筋に登路があり、すぐ急登となった。上部で雪渓と並行する。雪上を登って稜線に達し、やせ尾根をたどって黒森(9454)に登頂した。思いきり大声で万歳三唱。東に早池峰山が見え、展望はまあまあであった。少頓後往路を下山し、出合でラーメンを作って昼食とした。この付近にもシラネアオイが多く咲いていた。往路の林道をくだったが、

展望は360度。北に折爪岳、西に七時雨山、東に和賀維新山、南に黒森山(未踏・三沢の頭・岩手山・姫神山等、既に登った1等三角点の山々が望め、至福のひとつときを過ごした。途中にはアズマギクが咲き、日陰には残雪があった。往路を下山して車に戻り、沼宮内に出て国道4号線を南下し、好摩駅で明日の山行を約して北川氏と別れた。JRで盛岡に戻り、高橋旅館で再泊。

への細道を急登して山頂へ着いた。付近は低いアカミノイヌツゲの群生で、ギョウジャニンニクの群落やシラネアオイやミネザクラが溝淵で、老木木があった。展望は360度開け、北に岩木山や八甲山山が残雪の姿も美しく、眼下に十和田湖が、対岸に白神山や田代岳が、近くは大駒ヶ岳、南に中岳・早池峰山が見えた。

この山は点名が河東岳で山名が三ツ岳(11594)である。1等三角点5000以上の450山目に当たる。2人で万歳三唱して感激の握手を交した。風が強く風をさけての昼食休憩後、往路を下山した。北川氏は登山に勤務中、大日岳で鍛えたとか、なかなかの健脚であった。

駐車場から往路を走り、金田一から葛巻への国道340号線に入り、安家森に向かった。快速に葛巻から岩泉に越す広域林道(舗装)を走り登山口で駐車した。牧場を通り林道を約1.3で、神山牧場を通ってコブを越して山頂へ着いた。安家森(12394)は北上山地の高峰で、付近にも同じぐらいの高峰が数座ある。高原状で大部分が牧場に利用されている。所どころにブナの原生林があり、

28日、きょうも北川氏の案内で、めったに人の行かない秘峰青松山(13366)・三ツ角点へ向かった。彼の友人久慈氏も同行した。車で区界峠を越え、松茸の笹平橋で左折し、北上する広域林道に入る。立白峠を越え、山頂西面の小沢の出合で駐車した。沢沿いの荒れた林道をつめ、林道終点からは沢登りして二つの枝沢に入り、サナやぶをこいで残雪の稜線に出て、アオモリドマツの茂る山頂に達した。久慈さんがアクリル板に山名・標高を書いたのを持参して、三角点の傍の木に吊し、3人で万歳三唱後、昼食休憩して往路を下山した。

峠から車で掘取へ出て、左折し大谷地峠に行き駐車。牧場の稜線をたどって御

中岡点で山業探りの車をヒッチして国道まで乗せてもらった。和賀仙人駅に出て、JRで川尻駅下車。バスで湯本温泉に行き、一泊して行を流した。

28日、朝から雨で登山をあきらめ、JRで盛岡に行き、開運橋畔の高橋旅館に入り、午後は将棋クラブで過ごした。会員北川氏と電話で打ち合せ、明朝6時30分に橋畔で合うことにした。

翌27日は朝から快晴で、北川氏の愛車で国道4号線を北上し戸米岳の三ツ岳をめざす。五戸町で左折、ピラミットやキリスト兄弟の墓がある伝説の新郷村を通り、二の倉タムの青少年センターの先で妙返川林道に入り、大駒ヶ岳登山口の先で駐車した。川沿いを3分歩いて登山口の狭小谷出合の小広い地点に到着した。

標識がないので少し分りづらいが、ブル道が切り返すように登っていた。道幅は広い。ブナの原生林をたどり、迷平からの尾根道と交差する宇樽部からの峠をめざした。快速に広い道を飛ばし峠に着いたが、十和田湖からの道は跡形もなく、陸道になったようだ。しばらく休んで、1014号の大文字山の急登を越え、急坂をくだり、コルに出て本峰・三ツ岳

大空山(11966)・三ツ角点)へ登った。途中で標点があり、サナやぶをこぐと5分登山頂へ着いた。展望良く周辺の山々が望見できた。

帰路に掘取温泉を案内してもらった。ミズバショウがたくさん咲いていた。途中の林道では真ん中にハクサンチドリが一本生えていた。また、ギョウジャニンニク・タラの芽・ハンカイソウ(タケノコ)・ヤマブキ等の山菜が多く生え、ヤマザクラも咲いていて、山菜採りの人も多かった。区界峠のドライブインで喫茶休憩し、盛岡へ帰った。駅前のカプセルホテルで一泊した。

翌29日、龍泉洞行きのバスに乗り、終点から五道を石峠へ向かっていると車が来たのでヒッチして峠へ。峠から長い林道を歩いて稜線の牧場に出て、牧場沿いに登り下りして龍泉山直下のコルに出た。そこから急坂のササ原を直登し11077の三角点へ登頂した。これで右三沢内の1等三角点5000以上の山は完登したことになった。周囲が樹林で展望は良くないが、10分下に石峠一休があった。(次ページ)

文台の大字は今原。たとき再見の山を示す。

日本の三山

稲葉克巳

山を歩いているうちに、百名山・三百名山ばかりではなく、どんなジャンルにどんな山があるのかわかりたくなって、「コンサイス山名辞典」で調べてみた。

数字のつく山が意外と多く、「三」にこだわって登っている人もいると聞いたので、まず、「三山」と呼ばれている山を選び出してみた。

ところが、三山ばかりではなく、四・五・八のつく山も、幾つか目についた。

【北海道】

阿寒三山 雄阿寒岳・雄阿寒岳・阿寒富士

【東北】

南八甲田 駒ヶ峰・乗鞍岳・駒ヶ峰
阿寒三山 岩手山・早峰池山・樺神山

【南アルプス】

鳳凰三山 地蔵岳・観音岳・薬師岳
白根三山 北岳・間ノ岳・巖島岳
荒川三山 前岳・中岳・東岳（雲次岳）

【張 城】

頭城三山 妙高山・火打山・雄山

【北アルプス】

毛勝三山 毛勝山・釜谷山・掛又山
立山三山 雄山・富士の折立・大汝山
大日三山 奥大日岳・中大日岳・前大日岳
白馬三山 白馬岳・約子岳・鏡ヶ岳

【加 越】

加越山地 白山・大日ヶ岳・樫ヶ岳
白山三山 御前峰・大汝峠・剣ヶ峰
（奥越の地頭版には御前峰・大汝峠・別山と書かれている）

【近 畿】

大和三山 天香久山・耳成山・畷湯山
三輪山 三路山・神南山・神並山、福岡
【中国・四国】
讃岐三山 上野山・中野山・下野山
阿波三峰 中津峠山・日峠・津峠

【九州】

足之間三山 木富岳・刺石岳・耳岳
【全 国】

出羽三山 月山・湯殿山・羽黒山
遠野三山 早峰池山・石上山・六角牛山

【越 後】

魚沼三山 越後駒ヶ岳・中ノ岳・八海山
（越後三山）

毛越三山 浅草岳・鬼面山・毛猛山
三思連山 頸城黒姫山・青海黒姫山

【北 陸】

三峯山 金北山・金剛山・権特山
（北陸）

【関 東】

日光三山 男体山・女峰山・太郎山
筑波三山 筑波山・足尾山・加波山
（筑波三山）
上毛三山 赤城山・榛名山・妙義山
妙義三山 白雲山・金鶏山・金洞山

日本三名山 富士山・立山・白山

三彦山 弥彦山・雲彦山・英彦山

「四」以上の数の山について記す。

【北海道】

知床五山 羅臼岳・三ツ峠・サルシイ岳
オカッパヶ岳・積丹山
夕張山地 声別岳・鉢盛山・夕張岳・屏風山・幾春別岳・布部岳など

【東北】

北八甲田 田茂淺岳・赤倉岳・井戸岳
釧ヶ湯大岳・高田大岳
石倉岳・小岳・前岳

【丹沢・富士】

富士八峰 剣ヶ峰・三島岳・白山岳・久須志岳・朝日岳・伊豆ヶ岳
麩登ヶ岳・駒ヶ岳

【八ヶ岳】

北八ヶ岳 箕倉岳・根石岳・天狗岳
中山・丸山・茶臼山
南八ヶ岳 磐枯山・楡岳
赤岳・西岳・編笠山・権現岳
阿波岐岳・横岳・峰の松目
破釜岳

【北アルプス】

穂高岳 奥穂高岳・湖沢岳・北穂高岳

小野子三山 小野子山・中ノ岳・十二ヶ岳
龍ノ登三山 東龍ノ登山・西龍ノ登山
水ノ塔山

三株山 東御荷峰山・西御荷峰山
オドケ山

【奥武蔵・奥多摩】

前比企三山 竜ヶ泉・薬師岳・観音山
比企三山 大霧山・堂平山・笠山
有間山 碓小碓の頭・タカラの頭
仁田山

戸倉三山 刈寄山・市道山・臼杵山

高水三山 高水山・岩茸石山・惣岳山
【丹沢・富士】

丹沢三峰 約2万5千円で西峰・中峰・東峰と、昭文社の地図では太礼ノ頭・円山木ノ頭・本間ノ頭と表示されている）

大山三峰 最高峰に三角岳が設置されていて三峰山と名付けられている）

北都留三山 百蔵山・扇山・権現山

三ツ峠山 開運山・御薬蔵山・大無山
三ツ峠山は三つの岩峰が並んで見えることに由来するという説もあるが、現地の説明板には三つの山の名が書かれている）

富士三脚 愛蔵山・足柄山・足柄白山
（富士三脚）

前穂高岳・明神岳・西穂高岳
剣ヶ峰・屏風岳・大日岳・高天ヶ原・朝日岳・摩利支天岳
里見岳・富士見岳・恵比須岳
大黒岳・大丹生岳・烏帽子岳
四ツ岳・猪岳・大崩山・硫黄岳・十石岳など22箇

乗鞍岳

木曾御嶽 剣ヶ峰・王滝奥ノ院・王滝頂上・徳母岳・摩利支天山・飛騨頂上・羅千岳

【加 越】

越前山地 滝波山・平家岳・屏風山・冠岳・三國岳
白山五峰 御前峰・大汝峰・剣ヶ峰・別山・三ノ峰

【近 畿】

京羅五山 大文字山・松ヶ崎西山・水原地山・松ヶ崎東山・大黒天山
明見山・西加茂山・左大文字山
【中国・四国】
三笠山 男三笠山・女三笠山・子三笠山・孫三笠山
宝蔵山 法蔵山・高山・鏡笠山・道門山

【九州】

阿蘇五岳 高岳・中岳・根子岳・杵島岳・烏帽子岳

「山のレポート」②

近畿の一等三角点

阪上義次

日本全国で一等三角点は973点。二等は5056点。三等は32734点。四等は61458点。合計100310点ある(平成10年3月31日現在)。

一等三角点の採り上げられたガイドブックで最初に出版されたのが「関西とその周辺の山」(坂井久光著、昭和53年7月20日創元社発行、199ページ)がある。近畿地方と福井・石川・岐阜・愛知の一等三角点の山42座が紹介されている。

最近では「二等三角点の山旅55コース(東京周辺)」「(安宅)國權使(1997年9月15日山と溪谷社発行、134ページ)」がある。範囲は関東と福島・新潟・静岡・山梨・長野の山55座である。

「一等三角点で百名山を選んだ」(一等三

角点百名山)は一等三角点研究会編で1988年11月20日に山と溪谷社から発行されている。

新ハイキングクラブも一等三角点の登頂に熱心で、今まで「二等三角点の山を歩く」(山口ゆき子他著、昭和53年2月1日新ハイキング社発行、356ページ)、「一等三角点の名山100」(新ハイキング社編、平成元年8月1日新ハイキング社発行、331ページ)、「二等三角点の名山と秘境」(安藤正義他著、平成5年5月25日新ハイキング社発行、339ページ)。巻末に日本全国一等三角点配置図と日本全国一等三角点総覧がある。「一等三角点の山々」(山口ゆき子他著、平成9年10月1日新ハイキング社発行、311ページ)。巻末に高度順一

等三角点100座と「二等三角点の山」シリーズ総索引があり、一等三角点の山が、「本書」と「二等三角点の名山100」、「二等三角点の名山と秘境」のどの本に記載があるか検索することができる。

昭和61年10月に発行された「二等三角点のすべて」が平成11年3月に改訂版が新ハイキング社から発行された(多摩書院編、317ページ、1800円)。全国の一等三角点に記載され、雑誌「新ハイキング」(新ハイキング関西版)「一等三角点研究会の「警備」」(一等三角点の名山100)「二等三角点の名山と秘境」(一等三角点の山々)のどのページに記載されているか判るようになっている。

新ハイキングによく寄稿される山形氏は「二等三角点のほとんどを登頂され、今年から「一等三角点研究会」の名譽会員に就任された。坂井久光氏と多摩書院氏も名譽会員である。その他には西尾寿一氏・村田智俊氏・松田敏男氏をはじめ何人かの会員がおられる。

近畿とその周辺の一等三角点のリストを作成したので次の一覧表を参考にされたい。

山名・点名	標高m	5万図	2.5万図	府県	山名・点名	標高m	5万図	2.5万図	府県
本 久須夜ヶ岳	525.1	和歌	和歌	和歌	本 龍門岳	804.3	吉野山	吉野山	奈良
本 野崎岳	513.3	和歌	和歌	和歌	本 龍ヶ峰	1105.8	高野山	淡路行水跡	奈良・和歌山
本 三日月ヶ岳	1280.0	和歌	和歌	和歌	本 山上ヶ岳	1719.2	山上ヶ岳	河内・丹波	奈良
本 雲雀山	850.8	和歌	和歌	和歌	本 新道ヶ岳	1790.0	和道ヶ岳	和道ヶ岳	奈良
本 御在所山	1209.9	和歌	和歌	和歌	本 冷水山	1251.9	龍神	龍心門	奈良
本 高嶺山	88.0	和歌	和歌	和歌	本 玉置山	1076.4	一法川	十津川西原	奈良
本 雲山	765.9	和歌	和歌	和歌	本 タカノス山	119.9	和歌山	加太	和歌山
本 大宇陀村	4.5	和歌	和歌	和歌	本 新神山	256.3	瀬田	海内	和歌山
本 三峰山	1135.4	和歌	和歌	和歌	本 中石ヶ峰	870.1	和歌	和歌	和歌山
本 七瀬岳	778.3	和歌	和歌	和歌	本 城ヶ森山	1259.8	首子ヶ岳	遠敷地山	和歌山
本 朝熊ヶ岳	478.0	和歌	和歌	和歌	本 藤山	328.7	和歌	和歌	和歌山
本 日岳ヶ岳	1694.9	和歌	和歌	和歌	本 雲山	523.4	川原河	吉井	和歌山
本 南赤山	592.0	和歌	和歌	和歌	本 半草山	131.1	日忍	紀伊白旗	和歌山
本 高峰山	1043.6	和歌	和歌	和歌	本 横山	795.9	日忍	板津川	和歌山
本 子ノ山	596.7	和歌	和歌	和歌	本 海峰山	1120.2	西郷川	水守	和歌山
本 百重ヶ岳	551.8	和歌	和歌	和歌	本 舟橋ヶ岳	908.2	新宮	新宮	和歌山
本 南嶺山	647.0	和歌	和歌	和歌	本 善司ヶ岳	581.2	江住	市野野	和歌山
本 雲野山	963.1	和歌	和歌	和歌	本 藤ノ山	482.0	江住	三郷川	和歌山
本 雲野山	283.7	和歌	和歌	和歌	本 八郎山	243.6	和歌	下里	和歌山
本 同穴山	462.5	和歌	和歌	和歌	本 三成山	532.2	和歌	表坂	和歌山
本 具志ヶ峰	531.9	和歌	和歌	和歌	本 来日岳	855.3	和歌	和歌	和歌山
本 雲野村	87.0	和歌	和歌	和歌	本 水ノ山	1609.8	和歌	和歌	和歌山
本 伊吹山	1217.3	和歌	和歌	和歌	本 藤ヶ岳	1074.4	和歌	和歌	和歌山
本 雲野山	1174.3	和歌	和歌	和歌	本 雲野山	939.1	和歌	和歌	和歌山
本 大北岳	818.3	和歌	和歌	和歌	本 雲野山	902.3	和歌	和歌	和歌山
本 雲野山	145.9	和歌	和歌	和歌	本 日名倉山	1247.4	和歌	和歌	和歌山
本 雲野山	305.8	和歌	和歌	和歌	本 雲野山	1077.2	和歌	和歌	和歌山
本 太鼓山	583.0	和歌	和歌	和歌	本 雲野山	935.4	和歌	和歌	和歌山
本 雲野山	951.0	和歌	和歌	和歌	本 日雲山	440.3	和歌	和歌	和歌山
本 多摩山	396.3	和歌	和歌	和歌	本 雲野山	250.1	和歌	和歌	和歌山
本 雲ヶ岳	391.5	和歌	和歌	和歌	本 雲野山	271.3	和歌	和歌	和歌山
本 雲ヶ岳	916.9	和歌	和歌	和歌	本 雲野山	543.8	和歌	和歌	和歌山
本 雲ヶ岳	947.6	和歌	和歌	和歌	本 雲野山	733.4	和歌	和歌	和歌山
本 雲ヶ岳	581.3	和歌	和歌	和歌	本 雲野山	589.5	和歌	和歌	和歌山
本 雲ヶ岳	581.3	和歌	和歌	和歌	本 雲野山	361.2	和歌	和歌	和歌山
本 雲ヶ岳	581.3	和歌	和歌	和歌	本 雲野山	901.3	和歌	和歌	和歌山
本 雲ヶ岳	581.3	和歌	和歌	和歌	本 雲野山	187.5	和歌	和歌	和歌山
本 雲ヶ岳	581.3	和歌	和歌	和歌	本 雲野山	475.7	和歌	和歌	和歌山
本 雲ヶ岳	581.3	和歌	和歌	和歌	本 雲野山	254.4	和歌	和歌	和歌山
本 雲ヶ岳	581.3	和歌	和歌	和歌	本 雲野山	907.9	和歌	和歌	和歌山
本 雲ヶ岳	581.3	和歌	和歌	和歌					

多度神社・弘法堂

山口 淳有

万博会場のテーマゾーンに予定されている海上町に多度神社がある。坂道の右手に小さな谷川の景観を見てしばらく進んで、その谷川を右に渡ると森があり、小道をよじ登ると小山の上に出る。そこに多度神社がある。この小山はいわゆる海上洞のひとつである。あたりにはカンワの木などが風にそよいでいる。

この多度神社は三重県桑名市多度町にある多度神社の分社である。多度神社の祭神はアマツヒコノミコト（天日日子根命）とアメノマヒトノミコト（天日一箇命）をまつる神仏混交の神宮寺である。多度神社のはじめは天台宗に属し、のちに東密宗へかわった。

多度神社は伊勢・尾張をつかさどり、尾張はこの海上へ至る。海上の分社は本宮多度神社へ向かって拜むようになっていたから、海上の四季おりおりの風物がよくわかる。春は山桜が美しく咲いて私を迎えてくれた。夏には沢ガニの群を捕らえ天ぷらにして食べる喜びがあった。秋はアケビ・クリ・ヤマナンなどを採りおやつとした。またマツタケもたくさんあり、お参りの帰りにほ二十本は採った。谷川にはサンショウウオ・ツナ・イワナなどがいて、イワナの塩焼きが忘れられない。鳥はオオタカ・カケス・ヒワ・コガラ・キジ・モズ・ツグミ・ワン・コジュケイなど、鳥の宝庫である。

今オオタカの巣を見つけたとさわぐが、タカは江戸時代から神戸市赤津白坂・山路にもたくさんいて、徳川家がこれらのタカを保護していたことを感か忘れている。山路はタカの名所で海上の北東である。従って、オオタカを守るのは三國山・猿蓑山・赤津三坂・山路・海上までの地域の自然保護を考えなければその意味はない。

またこの海上町を考えると、明和四年（1767）の山口川の氾濫を考えると、これは猿蓑山に大雨が降り、赤津川・海上川が大洪水を起こし、海上のいたるところでガク断れが生じた

いる。そして、この分社にも寺院があったが今はない。いわゆる明治維新の神仏分離により寺は打壊されたのである。当時、全国いたるところの神仏混交の神社仏閣（主に天台・真言）の寺院が破壊されているが、それは地区によりその激しさの程度は違う。

このため、この海上の神宮寺の本尊大日如実はどこかへ紛失しているが、弘法大師の尊像は、海上町秋葉神社の燃燈の所に小宇があり、いまそこに安置されている。

実は、この弘法大師尊像を、明治の神仏分離のとき、海上町の鈴木氏がかくして安置された。その後、鈴木保雄氏がそれを家の納戸に置いてお給仕しておられた。やがて、氏が海上を出られたので、この弘法大師を鈴木宇佐美氏が引き継がれ、そこに小宇を建てられたのである。やがては、鈴木宇佐美氏も海上町を出られるので、海上にはただ弘法堂が残るのみである。

さて、江戸時代の海上町は人家十四戸であった。そこに住む人々は白給自足の生活をし、ある者は陶業をし、またある者は炭焼きをして、その生業をたてていくことである。

この海上は、三國山・戸越峠・猿蓑山と大きな関係があり、気候・風土の関連する地域であることを忘れてはならない。要は湖梁のためのガイロメネンドを産出する山々はもろくて崩れやすいということがある。

だから、海上へあなたが行かれたならば、こういって海上の自然と風土をよく観察していただきたいと思う。このことは万博が地なる物見遊山であってはならないと考えるからである。

今海上町の真ん中には元の弘法堂と猿蓑山の遺跡がある。その周囲は田畑であるが、これらすべてのものが万博により消えることになる。

かつてこの地に住んだ人々の心はどこへ行ってしまおうというのか。登山者ばかりの猿蓑の「真鶴橋」をもじった句を味わいながら「万博とは何か?」「なぜ海上なのか?」をお考えいただきたいものである。

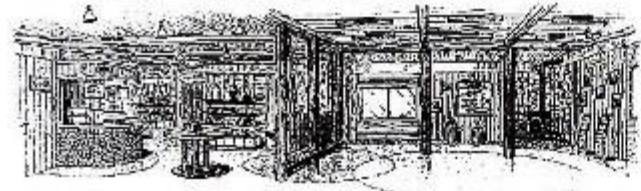
青人すでに白雲に乗じて去り、この地空しく余す弘法堂云々。



多度神社

今からみると、かれらは自然のなかでだれにも左右されることなく悠遊自得の生活をしていたのである。ところが、今では海上は過疎地帯であり、このたびの万博でここに住む人々はふるさとを捨てて、すべてが離散することになる。ところで、私は、子ども（小五）の時から木泉寺の僧として海上の檀家（当時十四軒中五軒）さんへ毎月お参りをして

旅の本棚・比良山上駅舎店 10月30日(土) OPEN



●比良へお越しの際はぜひお立ち寄りください。 旅の本棚企画室 08-6458-4133

仏隆寺から

高城山・三郎ヶ岳登山

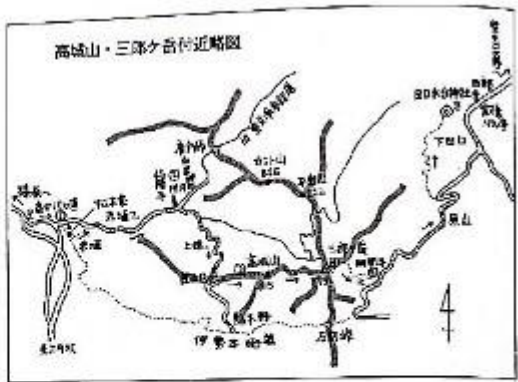
コースとコースタイム 近鉄橿原駅(バス15分)①高井(40分)②仏隆寺(20分)③登山口(40分)④高城山(下り時間30分)⑤(20分)⑥(20分)⑦(20分)⑧(20分)⑨(20分)⑩(20分)⑪(20分)⑫(20分)⑬(20分)⑭(20分)⑮(20分)⑯(20分)⑰(20分)⑱(20分)⑲(20分)⑳(20分)㉑(20分)㉒(20分)㉓(20分)㉔(20分)㉕(20分)㉖(20分)㉗(20分)㉘(20分)㉙(20分)㉚(20分)㉛(20分)㉜(20分)㉝(20分)㉞(20分)㉟(20分)㊱(20分)㊲(20分)㊳(20分)㊴(20分)㊵(20分)㊶(20分)㊷(20分)㊸(20分)㊹(20分)㊺(20分)㊻(20分)㊼(20分)㊽(20分)㊾(20分)㊿(20分)

中村 敏文

① 高井(橿原町高井(赤地))
近鉄橿原駅9時20分発の二内枝行きバスは15分で高井バス停に着く。伊勢本街道の高井の辻に室生寺・仏隆寺を示す道標と石仏がある。伊勢本街道は萩原宿より高井・赤地・木野の宿場を結び、三郎ヶ岳南山麓の石割峠を越えて田口宿へ向かったが、高井から桃保までの10数kmは近世の旧街道が残っている。旧街道へ入ると赤地川頭屋橋手前に慶応二年建立の太神宮常夜燈がある。少し行くと右側に石仏があって「壹丁」の町石がある。坂道にかかると右手に絵馬額を残す近世の旧家宮田家がある。「女人高野養生山」は室生寺を抜んで高野三

山と竜の峰を左右に描いてある。坂道を上ると尾蔵敷が旧街道をおおって、参詣の旧家松本家がある。天明時代に庄屋をやめて旅籠を営んだ赤城宿の「大相屋」で、「御首松本重蔵」の看板は人も馬も泊めるという意味で人偏のないうの字が書いてある。松本家庭先に「右いせ道 左むらう」の道標が残され、松本・宇太からの室生参詣道へ入り山腹をぬぐ古い道へくだる。高井から赤城乙を結ぶ町道(おひりて東へ20分も行く)と仏隆寺駐車場へ着く。

② 摩尼山仏隆寺(橿原町赤地)
鎌倉末期の石仏、腰折れ地蔵を納めた。注堂前から一九八段の石段を上がると、扉裏と鏡像が相対し、石段上に本堂と不動明王を安置する求聞持堂がある。光明ヶ岳南山麓の当寺は室生寺参詣道四門の表門南参詣道の起点で、室生寺西門の大野寺、北門の赤目・丈六寺、東門の田口・三交寺と相対している。本堂には聖徳太子作とする銅杖を持つ本尊十一面観音立像と、奥西宗示祖空海と高弟堅惠の二尊像が安置してある。寺伝によると嘉祥三年(860)に空海の高弟堅惠が宇陀郡の郷族、奥興繼を壇主として建立したと伝え、またそれ以前に興福寺別当の修円が当寺に在住していたとも伝えられている。求聞持堂前に修円墓という元徳二年(1830)銘の十三重石塔がある。求聞持堂右隣の重文指定の堅惠石窟は平安時代の築造で中に鎌倉期の五輪塔がある。また貴重な書画・仏像や、空海が唐より持参した茶臼を所蔵し、空海が唐より持参した茶臼を所蔵。当地域を大和茶産地と宣伝している。また当寺は4月の福断一千年の山桜満開時期や、9月の曼珠沙華(ヒガンバナ)の満花期には観光目的の参詣者が多い。仏隆寺の東側に鎮座するもと鎮守社で



善女竜王を祭祀していた石神社は、赤地甲・赤地乙・高木野の氏神となり、明治の初仏分離で須勢理姫命を祭神とする。

③ 登山口(高城山へ赤地乙(上))
腰折れ地蔵堂横の三叉路の道標は室生寺南参詣道と高城山を示し、町道の坂を南へ上がると旧上級の奥路が散在する。高城山へ続く台地に散在する上級は家々をつなぐ道が複雑に分岐し、一番広い清水野へ通じる町道を南へ行くと、上赤城城跡への山道が左へ分岐する。赤地氏は南北朝時代から北田氏に組して南朝を助けた当地の豪族で、戦国末期には上級地区にも下赤城城と屋敷を構築し、芳野・秋山・沢氏と並立していた。

赤城城分岐からさらに10分も行くと、右手に兎玉稲荷の石標があり、左三に高城山登山道の小さな標識がある。登山道は始め小らかな急坂の細い階段状の山道で、ブッシュの茂る杉林のなかを登ると上級の旧墓場が点在する。草地を抜けると林道に出てすぐにササでおわれた杉林へ登山道が続く。高度が上がるにつれ、杉から成長の遅い檜の植林増殖と変わる。やがて樹も少なくなると雑木帯となり、岩石の露出が見え始めると一気に高度を上げて高城山山頂に達する。海拔815mの山頂は東西20m、南北10mの平坦地であって、高城山例祭の山小屋とベンチ、石の眺望台もある。東方は渕水が所狭しと流り、三郎ヶ岳

近畿の山(総) 日帰り沢登り

中庄谷 直・吉岡 章 著 四六判・二〇〇〇円
大峰、台原、奥高野、南紀、鈴鹿、比良、安曇川、由良川、因但園境等47コース。前編初級編に続いて中級の沢を、詳細湖行図、コースタイム、写真と共に紹介。

わっさか沢歩き(録) 奥美濃編

同入わっさかわっさか沢歩き 四六判・二〇〇〇円
鈴鹿、奥美濃、白山、加賀、越前、若狭、待望の白山山系を含む44の名瀑を紹介。前夜発日帰りの沢を、前編近畿編に続いて詳細湖行図、写真と共に楽しく案内。

ナカニシヤ出版
京都市左京区吉田二本松町2
075-751-1211 〒606-8316



三郎ヶ岳の三角点

書から変化した山名だらう。
三郎ヶ岳の北側は822級の平岩山へ連なり、南側は伊勢本街道の石割峠へ傾斜している。山頂から南斜面へは立木や木の根をつかんでくだる急峻な坂道で、お互いに声をかけあい細心の注意をはらって旅人の宿営までくだる。熊堂から南へ尾根筋の難儀な山道をくだれば伊勢本街道の石割峠だが、熊堂の手前で東へ向き



高城山

や室生火山群の山々は見えない。東南から北へと三方は開け、三郎山から高見山・園見山が見え大台ヶ原へ続いている。
真南は大峰山を中心に吉野の連山、西方は通門山から音羽山が近くに、金剛・葛城・生駒の山が少し霞んでくる。
高井バス停を9時半過ぎに出発して仏降寺で休憩、登山口から40分の登山は楽なコースではないが、正午には金目登頂

する。山頂で展望を楽しんでの昼食。高城山は神武天皇天降世記事にある高倉山とする伝承や、南朝に疎方した赤城安頼が当山にも城を築き戦った話などでひとときを過ごし、水神か山神でもまつるのか無名の小祠に道中安全を祈願して三郎ヶ岳へ向かう。

④ 三郎ヶ岳(赤城と峰木野の境)
高城山頂の北側から北東へ急な山道を一気にフルまでくだり、小さなピークを越えてブッシュの茂る灌木のなかを泳みながら登る。岩の多い九合目の急坂を登りつめると三郎ヶ岳山頂で、高城山から1・5分、40分のコースだが、急な下りときつい登りはかなり疲れる。
海拔879級の二等三角点の立つ山頂は直径10m程度の狭い平地で、灌木が多いので高城山や宇陀郡の山々はよく見えるが、高城山よりは展望できる範囲が狭い。

宇陀郡内の太郎山は曾根高原を区切る1038級の俱留尊山で、次郎山は屏風岩に続く1069級の住塚山である。
三郎ヶ岳は榛原町で四谷目、宇陀郡内では十位以下の標高で、昔の当字の佐牟

を変えて明開寺北側の村道へくだる。

⑤ 石割山明開寺(室生村田口)

当寺は大正時代に石割石松(石割院義徳親居士)が開いた日蓮宗の新興寺院で、室生村長湊の普賢寺と同様に個人の強い信仰から建立された寺である。

釈迦像と大日像・目連像を安置する本堂と庫裏があったが焼失し、現在は仮本堂に諸仏を安置し再興を模索している。
明開寺から10分ほど歩けば伊勢本街道へ入り山頂橋バス停へ行けるが、水分神社へ参詣するため三郎ヶ岳山麓を結んで下田口に至る村道に入る。

頂上集落の途中で田口角川の不鞍野橋バス停への道が右へと分岐するが、山麓を往う村道で頂上集落を抜け30分も歩くと、田口西原集落の西外れに旧村社の田口水分神社が鎮座する。

⑥ 田口水分神社(室生村田口西原)

宇太水分神社より勧請された当社は一間社流造の本殿に天久比咩母智神をまつり、左右に春日・天理社などの境内社が並んでいる。主神は水口神の速秋津比古・速秋津比売命の子で水分神として祭祀

低山登山~本格トレッキングまで、登山用品のことならおまかせ下さい。

新へくの登山計画で更に詳しく。



とスキーのヨシミ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06(6772)7231

JR天王寺駅
北出口右へ
歩道橋渡ってスク

されている。参道下の水分宮の大きい石灯籠は延宝四年(1676)田口村中建立と刻まれ、興福僧田口庄の灌漑用水権係を祈願しての祭化だらう。境内社の春日社の30寸高の本造狛犬は室町時代の銘品で、境内の公孫樹は鎌倉八幡宮の古木につぐ大樹として知られる。
予定では20数分歩いて室生普賢に参り、竜穴神社に参詣するコースだが、数少ないバスの竜穴神社前発には間に合わないのので、水分神社前の宮橋バス停15時20分発の近鉄室生口大野行きに乗る。

フォト紀行

熊野古道 海部 要三・多賀子著

淀川岸・八軒家から熊野三山まで九十九王子を辿る歩行記と伝承の熊野の祭の紹介。
全コースのカラーマップ

A5版 144頁 両頁カラー
定価1,200円(税込)

注文は 雄辯舎(海部)

572-0009 寝屋川市末広町1-10
TEL/FAX 0720-31-5330
(新年からは072-831-3330)

石清水八幡宮を訪ねて

松永恵一

紫式部・「徒然草」と石清水
江戸時代に谷川七清が編集した「和訓栞」にこんな話が伝わる。

ある日、紫式部は大の藤原言孝が外出している隙に、こっそり好物の鰻を焼いて食べた。戻ってきた夫が「そんなもの食べて」と鼻で笑った。紫式部は歌で返事をする。

日の本にはやらせたまふいはしみず
まるらぬ人はあらじぞと思ふ
なにをおっしゃいます、あなた。日本全国に鳴り響いている石清水八幡宮です、お参りしない人はごきいませんでしょう。

「いはしみず」に「石清水」と「いはし」を掛けてやり返したという話。

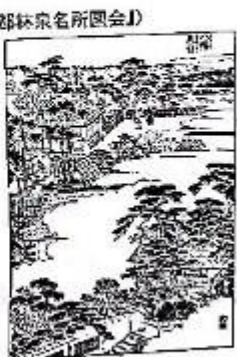
「徒然草」に残る話。真言宗密宗源大
本山の仁和寺で生活していたある坊さん
の話(第五十巻)。

年寄りになるまで石清水八幡宮を拜んだことがなかったもので、心残りを感じていた。

ある時に思い立って、一人で歩いて参詣した。(普通は舟で行く。しかし、この坊さんはわかってないので、反対側の辺鄙なところをトボトボ歩いてお参りに行った)

「これだ、思いは達げたぜ」と納得して(八幡宮を拜まずに)帰ってしまった。

その後、そばの人に向かって、「前々から思っていたことをやり果しました。いやあ、噂以上に尊くいらっしやう。



八幡泉切・松花堂 (『郡林泉名所図会』)



それにしても、参拝に来とった人たちが、みんな山へ登っていったのには、なんか山の上でイベントでもあったのでしょうか？(もちろん、山の上には石清水八幡宮がある)気にはなっただんですが、今回は神様にお参りすることが目的だったので、余計なことは止めておこうと思って山の方は見て来なかったのです」と言っていた。些細なことでも、案内がほしい。

松花堂昭乗

松花堂昭乗(1584~1639)は、石清水八幡宮の社僧で真言密教を学んだ阿闍梨法院であった。始め御家流の書で、後に空海や定家の書を学び、流本流といわれる独特の書流を立て、近衛信尹・木阿弥光悦とともに寛永の三筆と称せられた。

昭乗は、絵画・和歌・茶の湯などにも精通した当代きっての文化人で、近衛信尋・尾張藩祖徳川義直・狩野山雪・小堀遠州・沢庵・江月などと親交があった。

この昭乗が人生の晩年に幽栖するため、寛永14年(1637)に男山中腹の泉坊のそばにつくった草堂が「松花堂」。

松花堂といえは、四角い弁当の器を「田」の字型に仕切り、料理を盛り付けた「松花堂弁当」。昭乗が、絵の長箱や煙草盒として愛用したのが、田の字型に仕切った四角い器。高さ1寸2分、外法縦横9寸8分。四角に仕切られたマスの底面には、昭乗によって水仙・柳に蕪・菊・盛荷葉に鷺の絵が描かれている。

昭和の初め、この昭乗遺愛の器を見て、これに料理を盛りつけてはと考えたのが、大阪の料亭吉兆の主人湯木貞一さん。

トマス・アルバー・エジソン

20世紀の発明の人エジソン(1847~1931)が、生前、最大の発明は何かとの質問に、白熱電球と電気システムであると答えている。その白熱電球の実用化に八幡の竹が貢献した。

エジソンは、全世界から集められた六千種類にも及ぶいろいろな材料を炭にして実験した。ある日、机の上にあったシュロの鬚子の竹をフィラメントに使っていると、20分間も灯った。

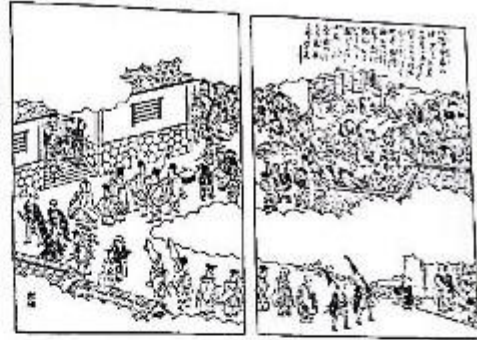
明治十三年(1880)、エジソンの助手のウィリアム・H・ムーアが来日。「竹なら京都へ」とのアドバイスで京都にやって来たムーアは、八幡男山付近の竹が約2450時間も灯り、最もよい成績であることを発見した。

エジソンは、肥料の施していない8年から10年もの真竹で、10月から12月に収穫し、根から1寸上の12節で外皮を1寸幅にして、百本に束ねて納めるようにと、細かい指示を出してきた。

八幡の竹は1894年までエジソン電灯会社に輸出され、何百万個の電球型フィラメントの白熱電球がつくられ、全世界に明かりを灯し続けた。

「酒ほがひ」「坂国歌集」で知られる歌美派の歌人の吉井勇(1886~1960)は、昭和二十年(1945)10月から二十二年8月まで、孝子夫人と八幡市八幡月夜田の宝書庵(通称紅葉寺)で暮らした。

八幡の風物や暮らしを詠んだ歌五百首が収められた歌集「或夢」、八幡音頭、そして男山吉井の地名に彼の足跡が残る。昭乗といへる蘭者の住みし處
近くにあるをうれしみて寝る
松花堂好みの露地幾うぬり
郵子の雨にも濡れにけるから
八幡なる泉之坊につたはれる
この襖絵の幽玄を見む
女郎花嫁のあたり雲雀鳴き
夕日のなかに雲水の交る
安居福はおもしろき橋太鼓翁
人のわたればとどと鳴る橋
石清水八幡みちを往くときは
誰ごころ起る何か知らねど
遠くほどに心かそけし松花堂
すむしあたりの松風の音
あはれなる女身を投げ死にきとよ
放生川のいにしへあはれ



八幡安辰の祭 (「都林泉名所図会」)

コース概観

八幡は京都・大阪の泉境。木津川・宇治川・桂川の三川の合流点を挟んで天王山と対峙する交通の要地。京都と大阪、奈良を結ぶ要衝の地として、淀川水運による地域の交通と経済の中心地として重要な役割を果たしてきた。

平安の美意識の源う石清水八幡宮、江戸の風情を今に伝える松花堂、八幡の地を訪ねてみた。

京阪八幡市駅下車。男山ケーブルは山上駅までの高低差約約10分で結ぶ。表参道・裏参道の石段を樹木・野鳥・昆虫など男山の自然を楽しみながら登ると約30分で山上に着く。雄の高良神社、中腹に湧き出る温泉「石清水」、松花堂口跡が迎える。

京都の坤(南)・裏鬼門にあたる男山の地に石清水八幡宮が遷座されたのは貞観元年(860)のこと。大安寺の僧行教が善前園の宇佐八幡の御託宣を説き、御神霊を御祭安申し上げたことに始まる。應神天皇・神功皇后・比咩大神の三柱をまつり、国家鎮護の神として伊勢に次ぐ宗廟として朝廷より崇敬されてきた。また、源義家が神前で元服し、八幡太郎と名乗ったことから源氏の氏神として崇拜をうけ、後、鎌倉時代に勧請された。

社殿は徳川家光造営の八幡造りで、全て重要文化財に指定されている。本殿の瑞垣や廻廊・幣殿を飾る極彩色をほどこした彫刻のみごとな彫刻は、左様五郎等が手がけたと伝える。本殿と外殿の間には、天正八年(1580)鎌口信長が寄進した黄金の櫓が架かる。社伝によると本殿左右の櫓は、榊木正

成によって建武元年(1334)に植えられたもの。左の櫓は京都府の天然記念物に指定されている。

往時を偲ばせる参道の両側に並ぶ石灯籠に見送られ、神馬に別れを告げると男山の竹林。エジソンやかや桓伝説の発祥の地と話を思いだしながらくらぐだる。旧高野街道に出て、南に向かって歩く。善法寺の本尊は、もと石清水八幡宮にまつられていた僧形八幡坐像。八幡宮の旧社殿を修築したと伝える。善法寺通前の娘紀良子が足利三代将軍義満を生んだ。良子が紅葉の樹を寄進し、今も紅葉が美しいことから紅葉寺とも称される。

しばらく進むと右側に「正法寺」がある。この寺は徳川家ゆかりの寺。当寺の娘お龜は徳川家康の側室となり、尾張藩祖徳川義直の母堂となった。徳川家の手厚い保護をうけ、寺領五百石。現在重要文化財に指定されている本堂・庫門・大方丈が寄進された。

八幡女節花という住居表示が目につくようになる。昔、小野樵風という人が男山に住んでいた。京に住む女と深い契りをつ結んだが、いつしか頼風の心は変わり、つれなくされた女は八幡の川に身を投げ

る。眠き捨てられた山吹雪の衣が朽ちた後に咲いたのが女郎花だという。この花を、死んだ女が恨みを含んで立っているように見た頼風は、自責の念にかられ同じところに投身して果てた。

頼風塚は八幡市民図書館の近くの民家の裏側に、女郎花塚は松花堂庭園の西側に残る。小さな五輪石塔から、叶わぬ恋の悲しみが伝わってくる。

左手一帯が松花堂庭園。寛永時代の文化サロン松花堂は、明治の排仏政策で男山にあった他の坊舎堂塔とともに全て取り払われ売却されたが、小早川秀秋の寄進と伝わる泉坊寺院は、玄奘とともにこの地に移築された。

松花堂は、茅白・宝形造、二疊の茶室には南に土間、西には水屋が配され、仏



石清水八幡宮付近地図

壇・床が設けられ、住居の性格をも合わせもった茶室。軒にかかる小さな屋簷には「松花堂」と讀書で彫られ、「借屋簷」の落款がある。「老いてなほ、心は若え若え」、明葉の心が側ばれる。

約40種類のめずらしい竹が植えられた庭。18種類にもおよぶ竹垣、明葉ゆかりの遺品を中心に、桃山時代から江戸時代にかけての陶磁器や八幡市の考古資料が展示されている資料館などがある。予約をしておけば、松花堂弁当を発祥の地で楽しむことができる。

庭園は、泉坊の庭園を裏車塚古墳の上に復元したもの。地に這う池木と巧みな飛び石の配置、それを埋める苔によって平面の美が構成されている。

来た道を八幡駅へと戻る。八幡宮まで戻ると右側に大きく半円を囲んで架かる安国橋がある。

川南や男山の緑に映えて美しい。八幡八景の一つに数えられている。歌人柏村直隆は「神わさにつかふる雲

の上人も月をやめつる秋の川はし」と詠んだ。

日本航空界の先駆者「宮忠八が世界中の航空路線者の霊をまつるために創始した飛行神社はすぐそこ。忠八はライト兄弟より12年も前(明治二十九年)に、世界初のプロペラ式飛行機「ガラス型飛行器」の飛行に成功した。陸軍に具申し、夢物語と却下された人の乗れる「三虫型飛行器」の設計は、後のライト兄弟のものより構造上優れた面もあるといわれている。

▲コースタイム▼

京阪八幡市駅(30分) 石清水八幡宮(15分) 善法寺(5分) 正法寺(5分) 松花堂庭園(15分) 安国橋(5分) 飛行神社(5分) 八幡市駅

▲地形図▼2万5千11尺

3600円

▲費用▼

京阪八幡市駅 3600円
▲問い合わせ先▼
石清水八幡宮 075(981)3000
松花堂庭園 075(981)0010
第一月曜とその翌日休園 大人3500円
飛行神社 075(981)1700
資料館年中無休 大人3000円

特選コースガイド①

伊勢

初詣でを兼ねて

朝熊ヶ岳

初級コース(★)
慶佐次 盛一

お正月の初詣でを兼ねて、どこか手頃な山はないものかと物色していると、伊勢の朝熊ヶ岳を思いだした。近鉄の伊勢神宮初詣切符を使うと、往復運賃と特急料金割引となり、しかも千文の焼き物のお土産まで貰えるというのだからこれはありがたい。あわよくば富士山も見えるかも知れないと、さっそく男女9人で出かけることにした。

近鉄宇治山田駅で特急から各駅停車に乗り換えて、朝熊駅で下車する。駅前に朝熊ヶ岳への大きな案内板が建っている。朝熊郵便局の前を通り、静かな家並を歩く。民家の軒先には「笑門」と「藤民待米子孫門也」の札が飾られ、大阪のよう

なしめ縄飾りは見られない。道の要所に道標が立っていて、迷うことなく登山口に到着する。
登山口にも大きな案内板があり、山頂まで2・4とある。近くには駐車場もある。いよいよ参道の山道である。私にとって十五年ぶりの参道である。地元の人たちも登っている。昔からの信仰の道だから山頂への町石もあり、やはり一般の登山道と違った風格を感じさせるものがある。

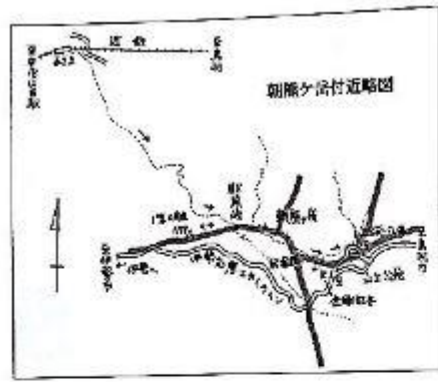
旧ケーブル跡の橋を渡る。戦時中に線路が供出され、産線になったままである。9町石と10町石は道がつけ替えられたのか、参道から離れたやぶのなからしい。高度を上げるに従い展望も開けてくる。16町石の手前の展望台からは伊勢湾を眼下に望み、戦国時代村のお城も見えた。18町石を過ぎた所には首なし地蔵が立っているが、だれが掘ったのか、地蔵さんの頭によく似た自然石が置かれて微笑ましい。参道の西側にササが増えだし、傾斜も増した参道を頂張って登ると朝熊時に若く、ここには22町石が立っていた。すでに朝熊ヶ岳の稜線の一角で、左へ進めば頂上だが、右へ折れて一等三角点

朝熊ヶ岳1等三角点



を表敬訪問することにする。起伏のない道を四へ歩き、民家を通じた右側の高みに1等三角点があった。ここは木点でしかも天淵点でもあり、古い天淵点の塔も残っている。展望は樹間から伊勢湾が見えるくらいだ。

元の朝熊時に戻り、朝熊ヶ岳へ向かう。セメント舗装のゆるい坂道が続く。左側に細い道を見つけて登るとすぐに朝熊ヶ岳だった。朝熊ヶ岳山頂と刻まれた大きな石碑も建っているが、展望のほうはいまいちである。それよりも風が強く寒くてじっとしてられない。記念写真もそこで、八咫王社から経塚群の方へくだる。先の方に山上公苑が見える。この



強い風ではと、経塚群はカットして山腹の道を歩くのだと、経塚群が見えてきて余剛社寺境内に着く。
福成智満虚空蔵菩薩を本尊とし、日本三虚空蔵の第一位とされる。やはりお正月で参詣者が多く、鐘や太鼓の音でにぎわっている。本堂の前に智恵虎の像があり、野村版神タイガースにもあやかりがありますようにと、そっと頭を撫でてあげる。

り、山上公苑へ向けて遊歩道歩く。山上公苑の駐車場はマイカーで渋滞は絶たなかった。レストランや売店もある。レストランの裏の展望台が一番展望が良い。備え付けの双眼鏡もあり遠く知多半島がくすみ、青い海原に相模や曹田・高志島が見える。期待した富士山は望めなかったが、売店の人の話では元日の午前中にはすっきりと見えていたそうだ。

そばに誓いがあり、「あさまはアイヌ語で、日が出てキラキラと光り輝く神を意味することから、この山上で日の出を拝し、太陽神としての天照大神を崇拝する信仰が生まれました」と書かれています。ここ朝熊ヶ岳は古来から信仰の山だったようだ。もっと時刻をかけて展望を楽しみたかったが、なにしろ強風で寒いので、私自身も風邪をひいていたので、タイムアップのいい内宮行きバスに乗り、伊勢神宮参拝とする。
昔から「伊勢に参らば朝熊も駆けよ、朝熊駆けねば伊勢参り」と言われるが、朝熊に参ってから伊勢に参るのだから、逆参りになる。私は山が優光だから、いつもこうなってしまう。神様ごめんさい。バスは便利なものですぐに内宮前に着き、

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
- ・中型 (28人乗り)
- ・中2階 (45人乗り)
- ・大型 (55人・60人)
- ・いずれもサロンカー
- ・いすゞからトラックまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市瑞池本町1-20 オカダビル4F
電話06(6745)3911・FAX06(6745)3993
(夜間・電報06(6946)0818・FAX06(6945)9044)

2等三角点のある山

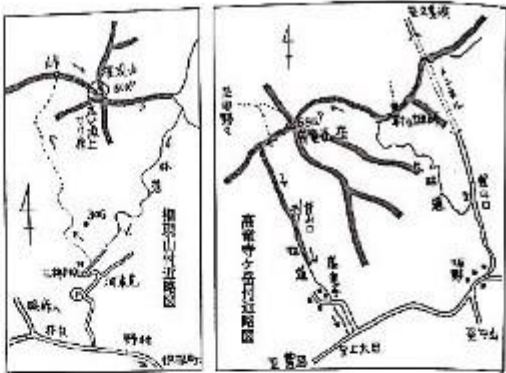
高竜寺ヶ岳と権現山

山形 成之

高竜寺ヶ岳(699.7m) 初級コース(★)

【京都ふるさと登山3選】にも採り上げられ、地元では丹後富士と呼ばれる秀麗な山である。私としてはめずらしく山仲間と車を使わず登った。

JR大阪駅から福知山線を乗り継ぎ豊岡駅で降りる。ここからタクシーで但東町佐野の村外れにある登山口まで行く。高竜寺ヶ岳登山口の道標が立つ。ここで身仕度を整え歩きます。林道は雨ヶ畑峠まで通じ、車での登行も可能だが、この時期はまだ残雪や倒木が道を塞いでいた。冬から目覚めたばかりで、タムシバが白い花を付けスマイレが咲きだしている。し



権現山(600.7m) 中級コース(★★★)

丹後半島の伊根町。最近舟宿で観光名所になっている平山の手前、口出から高原牧場に向かう道に入る。厚畑・本坂と過ぎ、野村の先で北に分かれ河米見に向かう。登山道は河米見の村の中から始まるが、表示もないので村人に訊ねる。ついでに駐車する場所の許可も得ておく。

かし後の雪はまだ固かった。

峠の手前で左の林道に入り、やがて稜線の登山道に取りつく。周囲のブナ林は新緑の頃はすばらしいだろう。尻根道はブルドーザーでかき広げたような急道で、しばし息を切らされる。

高竜寺ヶ岳の山頂からは何一つ遮るもののない大展望で、久美浜から日本海にのびる丹後半島、1等三角点のある磯砂山、そして大江山・赤石岳・江笠山。遠く青葉山が霞んでいいる。背後には、氷ノ山の山々が未だたくさん残雪をつけて白く光っていた。

山頂には休憩舎と方位を不す標柱。もちろん三角点・山三角点があり、一面の芝生で公園広場のようである。

【京都ふるさと登山3選】の口絵に載っている高竜寺ヶ岳の方位柱は情緒ある木製であるが、今ある金属製は少し物足りない。

下山は道標に従って高竜寺の集落にくだる。北には市野々への道も分かれている。登りが急だったから下りも逆落とし、道は整備されているが、つんのめりそうなほどの急坂の連続で、高竜寺の林道におり立った。ここにも高竜寺ヶ岳登山口の

よいだろう。近くには駐車スペースが見当たらない。

折から登山口に宮津竹林のトラックが止まっていた。登山道の草刈りに入っていると言う。刈り払われた道を登って行くと、30分ばかりで数人の男が草刈り機の刃を研いでいた。やれやれきょうから入ったところらしい。行く手にはササに埋まった道がのびている。道案内らしき老人が、「良い道になりますよ。頂上からは林道にもおられます」と言う。

しかしきょうの私には間に合わない。肩までのササをこいで行く。どうやら数年に一度刈っているらしい。山腹を滑く道は登りでもないが、やがては植林のなかで消えてしまう。地図の道は直接山頂に向かわず、西側の鞍部を迂回している。その方向を規定めてやぶをこいで登って行くとまた道跡に出た。しかしすっかりやぶにおおわれ、助けている所もあり、草刈りだけでなく道の整理も必要だ。

狭い切り通しの時には、壊れた黄色のポリ杭が一つあった。ひと思入れて山頂に向かう。雑木洗じりの栢林帯で、下は低いササ。道はないがどこでも歩ける。下山のためにテープ付けをして行く。雑



高竜寺ヶ岳山頂

大きな看板が立っていた。

県道の上太田のバス停まで歩いてタクシーを呼んだ。バスは1時間に一本くらい。相乗りだからよいようなものの、タクシー一代はけっこうかかった。

(平成11年4月4日歩く)

▲コースタイム▼

佐野林道登山口(50分) 稜線(25分) 高竜寺ヶ岳(30分) 高竜寺林道登山口(30分) 上太田バス停

▲地形図▼20万1馬取 5万11出石

2万5千1須田

木も疎らで見通しもよく登りやすい。やがて運動場位の広い山頂に到着した。枯れススキが一面に広がり、所どころに灌木が立っている。

さて、三角点はどこだろう。平坦なススキの原で高い所がない。やぶをこぎして探すのは容易でない。が、台地の南寄りの山ガミの木の下に見つけることができた。木には赤テープが付けられていた。

下山は東の林道におりにすることにする。地図を見ても登り道より雑木に距離が短い。三角点からさらに南へ、台地の端から雑木林に突入する。道も目印も全くない。後は尾根らしい所を見定めてくだる。足元はササである。急下降だがわずかに道跡らしい所もあり意外と歩きやすい。ここは最初に尾根を間違えないことが必要である。最後は松林を抜けて林道におり立った。後は林道を河米見まで歩く。

(平成10年11月19日歩く)

▲コースタイム▼

河米見登山口(1時間25分) 峠(35分) 権現山(45分) 林道(25分) 河米見登山口

▲地形図▼20万1宮津 5万1新野

2万5千1丹後半

廃村・牧集落から

扇野の石垣と日本コバ

中級コース(★★★)
岩野 明

愛知川が湖東平野に流れ出す開口部に永源寺ダムがある。このダムから日本コバの南斜面に岩屋谷が切れ込んでいり、地形図を見ると、谷の周辺はなだらかな斜面が標高500m付近まで続いている。現在は杉の美林で何も見えないが、この斜面には棚田がかなり残っている。そして忘れ去られてしまった牧集落だが、廃村となった今もその姿を残している。

現在の八風街道は国道421号線となり、相谷・佐目・萱尾・如来堂と続くが、旧道は相谷から右岸(北)に渡り、新田・切通し・中九郎瀬・鍛冶屋・棚池・牧・小代を経由していた。七つの小宇が九郎瀬で、俗に七九郎瀬と呼ばれていた。水

田があったのは牧と小代だけで、永源寺ダム建設で牧を除いて大半が水没することになり、全村が青野や藤ノ森その他に移転した。旧道は水没したが、その上方にダムの周遊道路が設けられ、休憩所や駐車所など、鈴鹿園定公園の施設が整えられている。

国道421号線の八風街道を進み、永源寺車庫前で左折し橋を渡って永源寺ダムに向かう。ダムサイド公園を過ぎ橋を渡って登りつめると、左に登る古い道が見えた。行き過ぎた右の広場に車を駐め、引き返してこの道を進む。やぶにおおわれた茶畑を過ぎると左右に石垣が現れ、杉林に変わった。そのなかに倒壊が進み自然に覆りつつある廃屋の無残な姿を向軒も見えた。

右手の杉林のなかにしっかりとした家が一件残っていた。家に近づくと、かご付きの手押し車が軒下にあり、中を覗くと大きな釜が二個伏せてある。右の距離の壁には1965年のカレンダーが貼ってあり、和服姿の京マチ子が微笑んでいる。34年前のカレンダーを見ていると、ダム建設と同時に代々続いたわが家を追った人たちの切ない気持ちが思いだされた。

日本コバのカレ場



この家の上には神社の跡があり、壊れかけた小屋の中の四角の白い杭には「土砂流出防備保安林 昭和26年10月建」と書かれていた。

石垣の道を登ると道が分かれた。右折すると右側には最近の猪屋が突々と建っていた。谷を渡って登りつめると、杉の大木の茂る森に変わり道が消えた。右斜面に続く踏み跡を登ると石垣が現れ、棚田の

横の道に出た。左に登るとうっそうと茂る杉林のなかに道が続く。浅い谷を渡り右斜めに登ると、また大きな谷が現れ、谷の上流に石垣が望めた。谷を渡り消えかかった道を登ると、左上に扇野鉱山跡のボク山が見えた。このボク山の上には広場があり、奥の杭口は崩れて消えていた。

谷の石垣が気になり、左の谷に向かって斜面をトラバースすると、突然異様な光景が見えた。何だ、何だこれは。古代遺跡か? 思わず膝を正して見上げた。苦むした古い石垣が何段も積み上げられ谷全体をおおっている。谷におりてこの



扇野の石垣・日本コバ付近地図

石垣を何とかよじ登り上部に着くと、谷全体に大岩が累積し、その上は急斜面のカレ場で地肌を見せていた。セメントを使わない古い時代の砂防工事だ。今はすっかり安定して石垣や大岩の間から雑木が育ち大きく茂っている。

ひと休みして谷の右斜面を下ると、谷の石垣は15、16段続いていた。棚田までおりて横の道をくだると約30段の棚田が続いた。今は杉林に変わり見通しはきかないが、南向きのゆるやかな斜面には棚田が大きく広がり、山村の賑やかな雰囲気が原風景として思いだされた。

右斜めにおりて牧の集落で右折する。日本コバに直登している道に取つくと、しっかりと道が標き雑木の谷を右に渡る。谷に沿って踏み跡が続いた。右斜面は杉・檜の植林で山仕事の袖道が緩急直下まで続いたが、谷の分岐で道は消えた。真上に接線が望めた。右側の大きく茂る杉林の急斜面を直登すると日本コバの山頂だが、右折してゆるくぐだって真下に永源寺ダムが望める樹の植林まで行き、あたりの山々とダム湖と湖東平野の眺望をゆっくり楽しむ。同じルートを引き

き返した。

同文社の古い地図には岩屋谷に登山道が記されている。このルートは上流で消えるが、日本コバへの最短コースとして利用できるようだ。

後日、牧の集落から青野に移転された古老に会うことができ、古い話をいろいろと聞いた。

文化十四年(1817)大雨が降り、扇野の谷の源流にあった杭口から水が吹き出して大きなガケ崩れが発生した。その砂防のために石垣が築かれた。当時七九郎瀬では約七〇戸、およそ350名が生活していた。水田は約四町畝、百段以上の棚田があったとのことである。なお、牧の集落跡には井戸がやぶのなかに隠れている。うっかり落ちたら、まづは上がってこれない深さだといふ。要注意。(平成11年1月7日歩く)

- ▲コースタイム▼
牧(35分) 扇野鉱山跡(15分) 砂防の石垣(30分) 牧(1時間30分) 日本コバ稜線(10分) 日本コバ・檜植林展望尾根(1時間10分) 牧
- △地形図▽2万5千1百済寺

大和高原の奇名の高峰

フキガッポ(ダス原峰)

初級コース(★) 柴田 昭彦

フキガッポという奇妙な名前の山を知ったのは、奈良山岳会編「大和吉野の山々」(大和タイムス社、昭和48年)を古書店から入手した平成8年秋のことである。「再遊の心こそる 奥深い奇名の高峰」とあり、ずっと気になっていた。

奈良東部に広がる大和高原では国見山(国見岳、680m)、矢田原町南方)が最高峰で、フキガッポは二番目に高い(675m)のだが、どちらも地形図に山名の記載がなく、ほとんど知られることのない不遇の山々である。

フキガッポは、仲西政一郎編「近畿の山」(山と溪谷社、昭和51年版)では「怪ガッポ」という山名で紹介されている。仲西

氏は「奈良の東山の最高峰」「糸程探索好きなものでないかぎり訪れない山だといえる」と記している。中之庄町に「怪ヶ塚山」があり、経筒・法華経一巻が発見されているが、フキガッポについては知られていない。

フキガッポ(吹合峯)というのは旧東山村(現奈良市水町町・別所町、山添村)における呼称である。「東山村史」(昭和36年)によれば、明治20年作成土地台帳に「フクガッポ」とあるが、吹合峯が本義らしく、昔からフキガッポと伝承されているという。その語源にふれた文献はないが、「地名用語語源辞典」に「フキ(吹)は風の吹く場所とある。「合峰」は文字通り、合わせた峰、と考えられる。

一方、旧田原村(現奈良市田原地区)ではダス原峯と呼ぶ(田原村史、昭和34年)。「大和地名大辞典正編」(昭和27年)の田原村大野の小字に「ダツ原」とあり、読み方は「ダスバラ」となっている。「同続編」(昭和34年)で検索すると、奈良県内に類似地名が五つあり、その他に「田ズ(ダズ)」がある。ダズ、ダス、タズ、ダツ、タツの表記・読みが混在している

大野町からのフキガッポ(中央の山)



が、「辰・世・立」という漢字は用いないようである。「小学館古語大辞典」に「たつ(鶴・田鶴)タズ(名)鶴の異名」とある。以上の材料から、あくまで推測ではあるが、「ダス原」とは「鶴の原」の意味かもしれない。

田原の里は見渡す限り茶畑におおわれた丘陵地と田圃が広がり、静寂の隠れ里の趣を醸している。先年亡くなられた犬

養孝氏がこの地をこよなく愛し、大勢の学生と共に万葉の旅にたびたび訪れている。

フキガッポを中心に南北に連なる小山脈は北方の大物生断層崖に続く田原断層崖を西側に形成し、東側に緩傾斜を成



すいわゆる傾動地塊を成している。この小山脈を東西に横切って、奈良盆地と伊賀・伊勢との間の交通路が古くから開けていたことは、峠や路傍に残る中世に遺された石仏が物語っている。

フキガッポの北側を横切る水間峠の古道は春日山から滝坂道で、石切峠、須山、岩倉を経て険しい谷沿いの峠道を水間へ越えていた。水間峠は明治期に工事で切り下げており、昔は高い位置にあり難所であった。

一方、鹿野園から鉢伏峠(八伏峠)を経て田原の里に入り中園から別所へ抜ける検断越の古道、南田原から袖ノ川、馬場へ抜ける一台峠越の古道が盛んに用いられた。この二つはフキガッポの南方を通過している。

以上の三古道は江戸時代には西へめぐせば「奈良道」であり、逆に東をめぐせば伊勢参宮の道「伊勢道」であり、畑の天王詣りの道「天王道」でもあった。畑の天王さんと山添村中峯山にある神波多神社(式内社)であり牛頭天王をまつる。疫病の流行によって、京の棋園さん、尾張の津島さんと並んで有名になり、にぎわったという。

幕末の頃から月ノ瀬(月ヶ瀬)の梅が有名になり、奈良から石切峠、水間峠を越えて梅見に来る文人墨客が増え、月瀬観梅道として利用された(梓林光年「月瀬紀行」など)。

明治20年頃から荷車が普及して、各地で道路の改修が始まる。明治22年に石切峠と鉢伏峠の中間に石谷街道が開削された。一台峠越の新道の開削も同じ頃であろうである。これらの道をつないだ名張街道が荷車交通の主要路として繁栄するようになる。明治23年12月には奈良大阪間に関西線が開通し、水間峠が月瀬観梅道として御光を浴び、鉄道の上野方面への延伸(明治32年)までは伊勢参宮客と銀婚客でこったがえしたという。大正10年頃から乗合・貨物自動車も導



スクンドの地蔵 (31所町)

入されるようになる。昭和2年に若石谷街道が改修されて車が通れるようになり、昭和7年には水間峠西側に、細くて危険な南旧道(明治40年頃開削)にかわる北新道を開削して交通がスムーズになった。

今回、ハイキングの対象としては、あまり知られていないフキガッポを訪れる。コースとして、水間から別所に出て松結建の古道をたどり、尾根筋の林道から山頂に至り、大野町へくだるルートを考えてみたので紹介しよう。

JR・近鉄奈良駅前から水間行きのバスに乗る。平成10年完成の水間トンネルで一気に峠の下を通り抜けたあと、水間小学校前バス停で降りる。小学校の南側の水間八幡神社は東大寺鎮守八幡を勧請したものらしい。社殿の後方に水尻のまきさんとよばれる自然石があるというが、

見ることはできないようだ。右手の西岸寺は明治の神仏分離で水間で唯一の寺となり、他の廃寺の仏像を多く収納しているという。本尊は阿彌陀如来像である。

分岐で右をとり、別所町方面へ向かう。小さい切り通しを抜けると、右手に石垣のある民家がある。その裏山を城山と呼び、16・17世紀頃に城主別所氏が在住したという。

少し先の右手に鳥居がある。ここはもと辻堂地蔵があった所で、初瀬・伊勢道が左に分岐していた(明治25年に海軍街道が整備されるまで本道であった)。鳥居から入ると極楽寺の石碑が立ち、金比羅神社がある。

さらに進み、右に壊れたプレハブを見て、すぐ左に地道を見る。江戸時代には捨峠からくだったきた人々はこの道を利用して伊勢などへ向かったという。

やがてコンクリートの道に変わり、左側に地蔵石仏が現れる。地元ではスクンドの地蔵と呼び、足踏地蔵として信仰されている。ムクンドともいい、城堂のことと考えられている。永禄十年(1567)の記録に「地蔵堂」の地名があり、

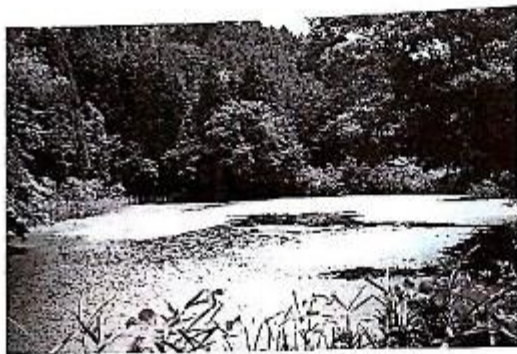
この地蔵が中世から存在したことを物語っている。江戸時代には地蔵堂があったという。

ほどなく地道になり、クマザサをかきわけて進むとやや分かりにくい分岐に出る。江戸梨の古道は直進しているが板を渡った後から不明瞭となり、やがて道型を残した陸道となる。ここは左手の谷沿いの明瞭な道を進む。クマザサ(足下に注意)と夏草のやぶを少しがまんすれば林道下の捨峠に着く。旧道は右手前から合流している。林道下を抜けた左上に、嘉永二年(1849)・田原中之庄村・中貫村蔵中建立の役行老像がある。

捨峠の道は中貫町へ続くが、急なくだりになると偶木とフッシュで崖道同然になっているので下山には利用できない。

林道を北へたどり、鉄塔のそばに出る。階段を上がり、まっすぐ奈良テレビ中継局(平成11年3月30日開局)の前に出る。左手前のクマザサのなかに3等三角点石標(昭和46年地蔵)が隠れている。周囲の展望は半分くらい開けている。鉄塔や建物のない頃は広々とした高原でもっと爽快であったことだろう。

林道に戻り、天王池(天ノ池)へ向かう。分水嶺にある人造の溜池で、林道沿いの口池と少し奥まった場所の奥池がある。安政三年(1856)に早天が続いたため、水間村の者が堤を切り破り、日笠・大野両村との間に紛争が起きている。文化十三年(1816)に水間村の女がこの池で水死したが、水間村では無関係としたため、詞書に日笠村傾みの淵谷天



天王池(口池)

王池と記載されたことが根拠となり、数代では田原領みの淵谷池と確認された。その築造年代については記録がなく不明である。池の名称は大野の氏神に天王さんまつったことからきているようである(東山町史)。

林道を引き返し、火の用心154の入口を右手に見たらそのすぐ先の右側の地道に入る。経面をからみながらくぐるとクマザサの道となる。足下に注意して進むと簡易舗装となり、茶畑に出る。田原の里が広がり気分爽快である。みの淵谷道(上流は偶木が多く、遊歩と合流すると、背後にフキガッポが顔を見せ、パノラマ風景が広がる。田原大野バス停への途中で左に折れて南田原原野をめぐります)。

中貫町を過ぎ、中之庄町の天満宮で松林からの古道と合流する。突きあたりを左折して白砂川に沿って歩くと、左手の消防ポンプ倉庫のそばに地蔵石仏が見つかる。建長年間(1250-1258)・鎌倉中期)の銘があるという。

右手からの道と合流してすぐ左側に、旧指定文化財の南田原原野仏がある。俗に切りつけ地蔵と呼ばれている。大きな露出した岩に彫られたもので、阿弥陀仏

の脇に銘があり、元徳三年(1381)、東大寺の僧定詮が願主となり、伊行恒が造作したもの之分かる。向かって右側の弥勒仏は室町時代、左側の六地藏は室町後期のものという。これらの中世の地蔵は一台帳道がかつては谷沿いの道(現在は馬道)であったことを示している。

もとの道を引き返し、一台帳新道(明治開削)と出合っすぐ左折して南田原天満宮に向かう。長い石段を上がると境内である。口碑(言い伝え)では山田道安の勧請という。左側の尾根筋をたどり、茶畑から左へくぐり、右折して北へ向かい、田原横田バス停に着く。(平成11年7月20日・23日・30日歩く)

☆コースタイム☆

水間小学校前バス停(1時間30分) 捨峠(15分) フキガッポ(30分) 天王池(40分) 大野町(35分) 勝保仏(30分) 田原横田バス停

△地形図V2万5千II柳生・大和白石

下山は、表参道を水尾岐れま
でたどる。そこからさきうに10
0分ほど行く所からさきうに、
左側にある電柱が右側に変わる。
その電柱の2、3分先で右側へ
数分ほど上がる道をとる。始め
は南方下りへ平坦な道であるが、
すくなく下りになる。ちよと東
寄りになることもあるが、おお
むね南方向に道なりに踏み跡を
たどる。30、40分、東西に走
る踏み跡(左・東方向へ行けば、
明神谷を横切り表参道一合目付
近に出るが、分かりづらいとこ
ろがある)に出合ふ。

それを横切り(すこし左にあ
る道をとる)、さらに前進し、
尾根道(長坂谷の西側)を南下
する。ゆるやかな登りもある歩
きやすい道である。最後に急坂
をくだるようになるが、40、50
分、直道に出る。右へ行けば、
すぐJR保津駅である。

(吉塚孝次)

今、本四連絡橋の開通が続い
た四国に熱い視線が集まってい
る。この橋を渡りたくて、大阪
のOさんを相棒に、赤石山系の
主峰東赤石山へ登った時の話で

ある。

気がなっていた昨日からの雨
も早朝にはあがり、別子銅山の
榮華の跡が残る瀬谷谷から山頂
をめざす。2時間余りで、赤肌
色をした八巻山、東赤石山の岩
峰の正面に着いた。足元はアカ
ネバラの紅葉色の花が咲く高山
植物帯である。

一服しながら、ふと、思った
のは、登山口から「ゴミ」を全
く見なかったことである。関西
の山も最近はいくらもあって思
っていたのに、これほど完全なの
を体験すると「何んやー」とい
う、ハンマーで打ちのめされ
た気分になる。気を取り直し、
Oさんに、灰燼までゴミを探し
ながら歩こうと提案した。その
後、東赤石山山頂展望を満喫し、
床鍋で登山を終えたのだが、「
ゴミ」の結果が気になること
ろである。私の目には、ゴミはい
さ見つけなかった、と言っ
ておこう。

四国では、この山は石動山・
剣山などの山域に次ぐ高峰であ
り、瀬戸内を眼下にする魅力の
ある山である。しかし、ゴミ
が無い。「河放」だと自問して

みた。登山者のマナーが良い。
ローカルなので登山者の数が少
ない。地元の人たちの努力があ
る。の三つに尽きるが、結論は
別の機会に譲る。

最後に、地元別子山村の道路
脇で空缶の投げ捨てを目にした
いは村民の清掃があるからだ
と聞く。

(須藤 賢)

山行続報

8月23日 上高地へ地岳山荘
西の小屋よりアルプスの噴煙を見つ
明日こそ槍の家族になるぞ
8月24日 北アルプス槍ヶ岳
槍ヶ岳に抱き寄せられて天に立つ
宇宙の中の至福に酔えり
9月6日 但馬又日岳
夏みじかき季節串う先ぶれの
驟雨荒ぶる我が前に降れ
9月14日 中宮薬料山
二十二人の山友を連れて来て
勝負よどけよ東風の女の神
9月19日 美作後山
朝霧の沢を飛び越え逢いに急ぐ
泉境尾根の真夏のフナに

9月25日 北嶺大船山
奇き旅なびかせ四方の山なみは
旅籠のふな山へ呼応せよ

10月2日 紀伊雲山峰
晴き空と和輝し無彩色の海に
瀧鳴り生まれ響き渡る峰

10月5日 北アルプス湖沢園谷
なにもより貴き神高のため
水河東でしかールに草は燃え

10月6日 北アルプス全穂高岳
永燃の時を求めビナクルを捜し
何かに呼ばれ振り返れば道

10月6日 北アルプス湖沢岳
錯場のクラックはいい奴だった
天の露合に俺を引き上げ

10月6日 北アルプス奥穂高岳
風が語りかける奥穂ジャンタルム
岩をそり立つ神聖を瀧り

10月7日 穂高市山荘へ上高地
雨と霧のザイテンクラーツ見据え
温き小屋より極高を去りぬ

(木村太盛)

10月下旬、落ち葉を踏みしめ
つつ丹波と播州の園境に位置す
る三草山に登った。9月に「原
義経頼朝の坂落とし進軍路伝来
地を歩く」という文学セミナー
に参加して以来、海水三年経隔
2月4日(鶴越の三日程前)、

義経が夜襲をかけるため取っ
たという三草山を一度歩いてみ
たかったが、その望みが果たさ
れたわけである。

コースを確認するため、ガイ
ドブック十冊からのコピー帳を
取り出した。しかし、そのすべ
てが北嶺の三草山のものである
ことにびっくり。幸い本誌10号
(93年初夏号)に、櫻佐次盛一
さんのコースガイドがあったの
で、それを参考にした。

当日は2万5千分の1「比叡」
の地形図も持参し、朝光寺口か
ら瀧淵経由で登り、鹿野口へく
だった。途中、観光船の浮かぶ
東条湖へ足をのぼしたり、国宝
朝光寺を訪ねて古き時代を偲ん
だりした。鹿野コースの黒尾は
石造のものに立て替えられてい
た。

頂上では、地元の中年夫婦と
出会い、いろいろなことを教え
ていただくという幸運もあった。
平口ゆえ、その地がだれにも出
会わなかったが、道がしかり
しているのも救いだ。

(東谷 宏)

秋の山行報告

8/12比良蓬萊山。アサギマダ
ラがたくさんいて、ヒヨドリバ
ナで吸蜜していた。三角点の取
り替え作業の最中だった。
8/23飯間ヶ岳。赤、白、黄
色、いろんなキノコがたくさん
出ていた。
8/29白猪山。坂内川源流に、
フシダコセンノウが咲いてい
た。
8/31若草山。石切峠を車
で越え、あまり車の来ないドラ
イブウェイを歩いて山頂へ。霧
塚古墳の上の三角点から、南山
城の山並や平城宮跡等の眺望良
好。ただし、鹿が多いので食事
をするのは難しい。
9/12笠取山。東海自然歩道
にツリフネノク、オタカラコウ、
ヒナノウスツボ、紅と白のゲン
ノシコウコ等の花を見る。山頂
は基地内のため、西側の金網の
外が最高地点。基車への道をた
どった人から、途中にキャンサ
ムがあった。自衛隊員がとんで来た
と聞く。青山の風力発電用風車
四基が、60分の円を画いてゆっ
くり回っていた。
9/27後古光山。お熊ヶ池で、
ウメバチソウ・サワヒヨドリ・

汗をたっぷり流せる温泉と
銀ヶ崎牛のシヤブシヤブ
日本海の鮮魚と山の幸
ハイカールの宿
ナガサキロッジ

〒949-1210 新潟県中
頸城郡妙高町池の平温泉
0255-1861 2261

高山の花 温泉の花
お山山を二つ登れる山小屋
お山山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュッテ

〒949-1210 0
新潟県中頸城郡妙高町
池の平温泉 ナガサキロッジ
0255-1861 2261

休憩屋食入浴も歓迎
10名以上マイクロボスで送迎
箱根仙石原温泉
福 島 館

〒250-0683 神奈川県足
柄下郡箱根町1334
0460-4191 941

「伊豆の踊り子」の情緒、レトロな宿
感に包みこまれる温泉
湯ヶ野温泉 湯ヶ野荘
湯ヶ野温泉 湯ヶ野荘

〒413-0507 静岡県
静岡市清水区湯ヶ野町野98
0553-1351 72255

四季緑りなす東海湖原のハイク
上高地・飛騨岳へ 冬はスキー
けやき湯りと味の宿・日知地
湯泉旅館 けやき山荘

〒330-1500 岐阜県
岐阜市安曇野町長良川原
0562-3333 3333

さわやかな宿
露天風呂 山吹の湯
湯田中温泉(湯田)
日野温泉旅館

〒981-0400 長野県上
高井郡山ノ内町湯田中温泉
0268-3333 3333

標高2000m 山頂上の温泉
湯の丸 湯田温泉
ハイキングにXCスキー
高 峰 温 泉

〒330-1500 岐阜県
岐阜市安曇野町長良川原
0562-3333 3333

ハイキングに スキーに
去来高原 石の湯ロッジ
バス 湯の湯温泉床下車
0562-3333 3333

〒981-0400 長野県上
高井郡山ノ内町湯田中温泉
0268-3333 3333

湯の丸 湯田温泉
ハイキングに XCスキー
高 峰 温 泉

〒981-0400 長野県上
高井郡山ノ内町湯田中温泉
0268-3333 3333

湯の丸 湯田温泉
ハイキングに XCスキー
高 峰 温 泉

〒981-0400 長野県上
高井郡山ノ内町湯田中温泉
0268-3333 3333

湯の丸 湯田温泉
ハイキングに XCスキー
高 峰 温 泉

〒981-0400 長野県上
高井郡山ノ内町湯田中温泉
0268-3333 3333

湯の丸 湯田温泉
ハイキングに XCスキー
高 峰 温 泉

〒981-0400 長野県上
高井郡山ノ内町湯田中温泉
0268-3333 3333

湯の丸 湯田温泉
ハイキングに XCスキー
高 峰 温 泉

サワギキョウ・スイラン・シオ
ガマギクの花を愛しむ。近くで
見られないのが少し残念。
(穀木伸人)

平成11年11月3日、比良・武
奈ヶ岳山頂から日本海が見えま
した。
この日と翌日で私は奥越・三
ノ峰に行く予定でした。ところが、
冬型の気圧配置が強まり北
陸方面は雨が降りやすいとの予
報が出たので、急きょ変更した
のでした。しかしこれが大きく
幸いしたのです。何度も武奈ヶ
岳には登っていますが、ここから
日本海を肉眼で見えたのは初め
です。

下山途中、この感動をだれか
に話したくてたまらなくなり、
見知らぬ男性登山者2人にこの
ことを伝えました。
また、コヤマノ岳に向かう途
中で、新ハイ水曜ハイクで何度
も一緒になった女の人に偶然出
くわし、また同じことを言っ
てしまいました。
コヤマノ岳で昼食をとりつつ、
身近な山のありがたみをつくづ
くと感じました。(小林 穂)

秋の冷気に包まれた夜、小さ
な机に42枚の花の写真を並べま
した。写真は自然観察山行に参
加されているA・Tさんから送
られてきたものです。
もともと花好きのA・Tさん
は、伊吹北尾根のハイキングで
花の尾根歩きに魅せられ、すっ
かり北尾根にハマってしまっ
たようで、今年5月から10月ま
での間に十数回も歩かれたそう
です。

私も5月に地元が主催する自
然観察ハイキングクラブの例会
で歩いたとき、単独行のA・T
さんに出会いました。
送られてきた写真は、北尾根
の花たちの100枚を超える写
真の一部であり、ご自身だけで
は判断できない花の名前の照会
でした。中には、北尾根で私が
まだ記録していないものもあり、
北尾根の花に寄せるA・Tさん
の熱意に応えようとループを使
って「精読」した結果、8割方は
判明しました。けれど、セリ科
の花など二割のものが手に見え
ず、自然観察の仲間にも協力を
求めることにしたのです。

北尾根の魅力については、今
△倉橋く飛鳥池遺跡案内、31
名。
14日 伏見公民館「大和の水辺
を歩く」寺川案内、44名。
17日 「伊能ウオーク滋賀原大
会・奈良」参加。
18日 「大和漫歩会」例会。大
津く宮奥ダム案内、23名。
23日 「伊能ウオーク奈良興大
会・奈良」参加。
26日 ウーマンライフ社「やさ
しい大和の山歩き」普願高原
案内、60名。
29日 「峠」一巻「クマタワ案内、
32名。
(上田伸弘)

春、その奥深さを改めてしみじ
みと味わったものですが、自然
林におおわれ、のどかでゆた
りとした山並は、まさに自然の
宝庫と言えるところかも知れませ
ん。
この北尾根を、来春から再び
新ハイの皆さんとじっくり歩い
てみたい……そう考えています。
(富見守憲)

他のリーダーの山行へはあま
り参加してませんので多くは知
りませんが、資料を配布する人
もありません。
小生は、でき得ることはした
いと考え、メンバーリスト・名
札・今後の予定表・地図・山行
記録・行程図の送付まで行いま
したが、行程図はサービスのし
道者と思いつく止めました。
現状がベストだとは思えませ
んので、皆さんからの感想とか
改善提案等をお聞きしたいので
すが、反応がなかなか返ってき
ません。もちろん一部の人から
は葉書や手紙、ファクシミリが
きますのでありがたいのですが、
大多数の人は連れて行ってもら
う、「お客さん」の感覚なので

ていました。ニメラルド色に輝
く梓川の清流に身も心も洗われ
る思いで明神池から横尾へ向か
いました。
2日目、橋原山荘を6時30分
に出発し、尻尾岩を左に見上げ
ながら紅葉の淵沢へ到着し、
目の前の奥越高岳から淵沢岳・
北越高岳を眺めることなく眺め
つつ、ボカボカ陽気を受け
ながら早目の昼食。その日は慈
沢へかかりました。
3日目は、徳沢から蝶ヶ岳や
常念岳を遠望し、明神岳を眺め
ながら上高地までのハイキング
でした。梓川べりに腰を下ろし、
前越高岳から綺麗なカーブを描
く吊り尾根、そして西越高岳へ
と目を移しながら、来年はぜひ
紅葉に登ってみたいと夢を馳
ませ、このすばらしい山の姿を
頭のなかに刻み込んできました。
(前田幸子)

しょうか。
リーダーは案内人(ガイド)
ではなく、ただ道を知っていて
先を歩いたり、しんがりて安全
の確認をするだけの、参加者と
同じ立場だということをもっと
皆さんに理解してほしいもので
す。
皆さんは「お客さん」になっ
ていませんか？ 一度歩いた所
を次に他の仲間の人を連れて歩
けますか？ 地図で今自分がど
こにいるのか分かりますか？
山行記録は付けていますか？
短くても良いですから記録を文
にして残しましょう。
一人一人が「お客さん」では
なく、リーダーになったつもり
で参加して欲しいものです。
(山田明彦)

10月の連休に紅葉の淵沢へ行っ
て来ました。
早朝五時半、上高地に降りたっ
てまず霧が上がりました。今秋
一番の寒さで按氏「二度のこと
五千尺ホテルで、朝食を済ませ
河童橋を渡り梓川に沿って六百
山や霞沢岳を見上げながら大正
池へ向かう。
大正池から見ると、眼前に迫
りくる雄岳がさすがに噴煙を上
げてそびえ立ち、川上には雲一
つない雲空に雄岳連峰が連なっ



<p>日本唯一の女人禁制の山「大 滝山(合志山)の登山口」 滝動ヶ岳女人コースもあり 温泉・名水の里 旅館 紀の風屋 甚八 1泊2食付 7,000円から 〒630-0104 31 奈良県吉野郡大滝村河川 電話 07476440309</p>	<p>九州の最高峰・日本百名山 宮ヶ浦岳に一番近い宿 屋久島グリーンホテル 〒890-1493 11 鹿児島県霧島市大湊 電話 099744613021</p>	<p>御在所登山に 愛知川渓谷沢歩きに 山好き仲間集まる宿 朝明茶屋 山小屋 朝明茶屋 〒510-1251 三重県三芳町御所 電話 05933931789</p>	<p>〒470-0001 愛知県津島市高尾 電話 0564222222</p>
--	--	---	---

<p>道の道 千原街道 百八十七体「観音原」 ホテル 白馬ブランチ 〒399-9300 長野県北安曇郡白馬村いわたけ 電話 0266-7214452</p>	<p>八ヶ岳北横断の中心地 50年秋の歴史を伝える 木の香りの新築温泉ホテル オーレン小屋 1泊2食付 6000円 4月～11月末開設 〒399-10218 長野県上田市 電話 0266-7211279</p>	<p>北八ヶ岳の登山地 冬はスキー JR長野駅北八ヶ岳登山口ま で送迎します 資料高原 プチホテル カナール 〒399-10301 長野県北山麓郡御代田町 電話 0266-6712258</p>	<p>日本百名山の宿 信州戸隠山 森の宿めるへん 高梨山・無煙山登山口まで送迎 クワカン・コース案内 〒386-1410 長野県戸隠町 電話 0266-265412081</p>
--	---	---	---

山行計画
(1・2月)
新ハイキングクラブ

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに、電話・FAXでの申し込みは必須です。費用のほかに参加名簿代その他の経費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合は必ず連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りは行けません。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の雨天に保険料1000円と保険料集金1000円(夜行口初りの場合は2日になり2000円)を支出していただきます。傷害保険特約内容は次の通りです。(安山火災海上産業火災と契約)

死亡・後遺障害保険金	1000万円
入院保険金	5000円
通院保険金	25000円
日額	5000円
巨額	25000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに保に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ビッケル・リ本以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③激・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合 ⑥詳細は備え付け

(記入例)
(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」を記入してください。

です。雪の比度山程度の経験ある人に限ります。雨天決行

京都へ初詣で山行
北山・愛宕山 (一般向き)
期日 1月2日(日) 日曜日
集合 JR名古屋駅中央改札口
5時15分/清瀬バス停9時50分
コース 清瀬→表参道→愛宕山→月輪寺→栗の太木林道→清瀬(解散16時頃) 1名
古田駅(16時頃)
費用 約2700円(集合18時頃) 5名
お使用・名古屋かき
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎小出良春 ○川上久登
申込み 〒510-0121 城陽市寺田大塚10の10
新ハイキング関西まで
愛宕山に登り、火葬ヶ、火伏せの聖石神社に初詣です。関西地区の人は直接清瀬に集合。*申し込みハガキに集合場所を明記ください。雨天中止

分/近鉄四日市駅9時00分
コース 近鉄四日市駅(バス) 橋大社→北尾根→北ノ頭→入道ヶ岳→木尾尾根→梅谷社(バス) 近鉄四日市駅(解散16時頃)
費用 約3300円(名古屋から) 5名
地図 昭文社「御在所・鎌倉」
係 ◎小出良春 ○廣果 邦
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大塚10の10
新ハイキング関西まで
この時期は雪量も少なく、雪山に慣れない人でも快適に歩けます。山頂からは雪の絶景が望めます。*申し込みハガキに集合場所を明記ください。雨天・中止

登山口1方 2部昇1方3
尾中P1977がーハ
丁池→田天城トンネル
(バス) 浄蓮の滝(バス)
土肥温泉ふじみ荘(泊)
(10日) ふじみ荘(バス)
西原豆スカイライン駐車
場→湯殿山→湯殿山レスト
ハウス(バス) 大津駅
(解散18時頃)
費用 約3000円(集合費・宿泊代等)
地図 昭文社「伊豆」
係 ◎藤原孝子 ○岡田 昇
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大塚10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名(会費に限り)
お正月らしく少し欲しかったです。山と海と温泉と鮮魚と富士温泉と盛りだくさんです。雨天決行

自然観察山行34
美濃・釜ヶ谷山・油桶山と城山
期日 1月9日(日) 10日(祝)
集合 (9日) JR大垣駅8時
40分
コース (9日) 大垣駅(バス)
伊自良野キャンプ場→釜ヶ谷山→キャンプ場→バス
→動物福祉センター(泊)
(10日) センター→美濃
新緑早見(中絶) 新緑沼

北八ヶ岳を歩く(中絶向き)
期日 12月31日(日) 1月2日(日)
2泊3日
集合 (31日) JR小淵沢駅・小海線ホーム15時15分
(31日) 小淵沢駅(集合) 海尻駅(バス) 御子山→しらび小塚(泊)
(1日) しらび小塚→中山峠→天狗岳(御子山) 駒社(泊)
(2日) 白旗峠→土釜峠→鶴巻山→ビラクスロープウェイ(ロープウェイ) フール平(入浴後) バス 茅野駅(解散)
費用 約40000円
地図 昭文社「八ヶ岳・奥州」
係 ◎塚元一彦
申込み 〒386-0008 大宮市城東区四丁目4の14の9の301 塚元一彦まで
*定員10名(会費に限り)
*12月20日まで
新ハイキング関西支部合同
正月の北八ヶ岳はトレースがしっかりしていて楽に歩けることができます。パウダースノーの雪中ハイキングと山小屋の年越し・新年行事を楽しみ、下山後は温泉で初詣

山行計画の実施について
山行計画は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込みしてください。人数により前もってバスなどをチャーターする必要があるかもしれません。また山ではいかなる事態が発生するかも知れません。緊急連絡先など、記載すべき事項は忘れずに記入ください。申し込みの返信案内は期日が決まり次第、山行日の10日前頃になります。早くから申し込みされた方はそれまでお待ちください。定員のある計画は先着順に受け付けます。
記載のグランドは、常日山歩きに慣しんでおられることを前提にしています。
(初心者) やさしいコース
(初級者) どなたでも歩けます
(中級者) ハイキングの標準コース
(中級者) かなり経験者のコース
(やや難関) ・(御前山) は、危険な所があり、キツイ登りやくだりが長く続くコースと、ご理解ください。

駅(タクシー)ふどうの森(上谷)展望台(迫間山)

費用 約13000円(大垣駅から伊勢バス・宿泊・保険・資料代等)

申込み 〒504-0828 各務原市森原町雨町1-19の5 鷺見守康まで

1日目は釜ヶ谷山のスノーハイキング。2日目は展望にすぐれた里山の後継峠を歩きます。夜はスライドを上映し、花名等のクイズ大会を開催。自然の観察と写真撮影に準う不規則な歩き方が苦にならない方がご参加ください。

鈴鹿百山1 観音山・笹掛山・花の木・羽黒山・関吉土 (中級向き) 期日 1月9日(日) 日曜日 集合 JR関西線関駅9時45分

申込み 〒503-0535 岐阜県海津郡南濃町松山24の19 山田明男まで

期日 1月19日(保)26日(保) 7泊8日 集合 関西空港出発カワナター

コース 関西空港→成田→機中泊→クイズ→トチャーチ→リキーン→スタウン→リキーン→アナウ→イグランド→ハウス

費用 約24万円(半額) 申込み 〒610-0121 城陽市寺田大塚10の10

名園探訪 ニュージランド ミルフォードトレッック (一般向き)

19の5 鷺見守康まで 養老山系自然観察ハイキングの第1回。二等三角点のある養老山までスノーハイキングとア

費用 交通費各自 申込み 〒503-0535 岐阜県海津郡南濃町松山24の19 山田明男まで

養老山系自然観察ハイキング 美濃・養老山(一般向き) 期日 1月15日(日) 日曜日

費用 約1500円(大垣駅から電車・リフト・保険代等) 申込み 〒504-0828 各務原市森原町雨町1-19の5

期日 1月16日(保) 日曜日 集合 船野バス停6時30分

コース 船野(車)西明寺→水木林道→富士山→観音山→水無山→船野(車)西明寺(解散)

費用 交通費各自 申込み 〒504-0121 城陽市寺田大塚10の10

コース 平日本陣ハイク64 海南・金勝アルプス(一般向き) 期日 1月20日(保) 日曜日

新ハイキンググループ合同 南半球が夏の季節にニュージランドの景色を歩きます。コース日程変更の場合があります。

近畿百名山に参る(第9回) 吉野・龍門ヶ岳(一般向き) 期日 1月16日(日) 日曜日

費用 約4000円(全旅費) 申込み 〒610-0121 城陽市寺田大塚10の10

御池岳で池と遊水(一般向き) 期日 1月16日(日) 日曜日 集合 JR関ヶ原駅9時20分

コース 谷長命水→奥根根の1148ピクをめぐす(雪期並で行ける所まで)→コガルミ谷(解散)

費用 交通費各自 申込み 〒504-0121 城陽市寺田大塚10の10

コース 森林公園→奥根根の谷位テープお休みピク→榎坂山→榎坂峠→観音山→森林公園(解散)

費用 1500円(交通費各自) 申込み 〒513-0843 鈴鹿市平田東町4の5

期日 1月23日(保) 日曜日 集合 JR加古川駅・加古川線ホーム8時54分に集合

三尊の山49 松阪・堀坂山(一般向き) 期日 1月22日(日) 日曜日

期日 1月25日(保)まで(会員に限る) 申込み 〒120-0801 足立郡野田町新野田

費用 約2900円(大阪から) 申込み 〒674-0057 明石市大久保町野田3の1・20の10井上保まで

コース 加古川駅(車)小野町駅→藤原神社→無名峠→三原点→筋畑峠→小野町→十一紅山→福崎峠→御池→小野町駅(解散)

費用 約2900円(大阪から) 申込み 〒674-0057 明石市大久保町野田3の1・20の10井上保まで

コース 新ハイキンググループ合同 南半球が夏の季節にニュージランドの景色を歩きます。コース日程変更の場合があります。

期日 1月20日(保) 日曜日 集合 JR津浦駅9時00分

コース 津浦駅(バス)上桐生→落ヶ瀬→北線峠→観音山→富士山→白石峠→重王山→白岩→猪坂→井上→桐生(解散)→バス→津浦駅

費用 交通費各自 申込み 〒610-0121 城陽市寺田大塚10の10

三尊の山49 松阪・堀坂山(一般向き) 期日 1月22日(日) 日曜日

標高2000以上に成らない登山のピークをいくつか越えて行きます。やぶごもりや山頂登りもあり、降りには車道を4、5も歩きます。雨天中止

奈良・紫雲山神社から石舞台

期日 1月23日(日) 日帰り
集合 近鉄名古屋駅北口6時50分/近鉄桜井駅南口9時40分

コース 桜井駅(バス)・紫雲山神社
海蔵製山―西大門―石舞台―高松塚古墳―飛鳥

費用 約5500円(名古屋から入山・入場料含む)

地図 2万5千1:100000
係 ①小出良香

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

白い雪と赤い朝顔の談山神社から石舞台の明日香を歩きます。*申し込みハガキに集合場所を明記ください。雨天中止

平日ふれあいハイク18
奥比叡・水井山から釈迦堂へ

期日 1月26日(日) 日帰り
集合 京阪出町柳駅西口5時45分

コース 出町柳駅(バス)・戸寺―
伊木崎―水井山―玉塚杉―
釈迦堂―八瀬ヶ原

費用 約1700円(京阪から山ノ内駅(徒歩15分))

地図 昭文社「京都北山」
係 ①川上久盛 ②寺田恒夫

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

近鉄名古屋山に登る(第10回)

期日 1月30日(日) 日帰り
集合 近鉄御所駅9時40分

コース 御所駅(タクシー)・高天彦神社―高天流―郵便道―
金剛山―大日岳―六道ノ江―太尾―水越峠(バス)

費用 約5000円(大阪から)

地図 昭文社「金剛山・岩湧山」
係 ①村田智俊 ②安倉正隆

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

コース 郵便道から桂木で名高い金剛山に登ります。小雨・大雪は中止

週末ハイク21
京都市内
ホッポン山から釈迦堂

期日 2月5日(日) 日帰り
集合 阪急東向日駅8時30分(日時は分乗バスに乗車)

コース 東向日駅(バス)・南春日町―小室山―杉谷―ホッポン山―釈迦堂―京都市内

費用 約4000円(東向日駅からバス代)

地図 昭文社「京都西山」
係 ①野村東彦 ②加藤元彦

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

京都西山に連なる冬の甲山を歩きます。元氣な人は高天彦まで歩きましょう。小雨・大雪は中止

自然観察山行36
鈴鹿・三國(山内向き)
期日 2月12日(日) 日帰り
集合 J.R関ヶ原駅8時40分

コース 関ヶ原駅(タクシー)時
山ノ内(山内向き)三國山―
三國山(タクシー)関ヶ原駅(徒歩)

費用 約3500円(関ヶ原駅からタクシー・保険・資料代等)

地図 2万5千1:100000
申込み 〒504-10828 各務原市藤原町1-19の5 藤原守成まで

鈴鹿北部の山に入り、スノーハイキングとアニマルトラッキングを楽しみます。自然の観察と写真撮影に合う不規則な歩き方が苦にならない方が参加ください。小雨・大雪は中止

湖東・飯道山(一般向き)

期日 2月6日(日) 日帰り
集合 J.R名古屋駅中央改札口7時25分/J.R津浦線生田駅8時45分

コース 貴生市駅―杖ノ権現休屋所―飯道山―飯道神社

奈良薬師宮跡 雲井駅(電車) 貴生山駅(徒歩15分)

費用 約3400円(名古屋から)

地図 2万5千1:100000
係 ①小出良香

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

役員者が朝山したという修験道の修験道社に行きますか。*申し込みハガキに集合場所を明記ください。雨天中止

平日水曜ハイク25
京都北山・奥山(一般向き)

期日 2月9日(日) 日帰り
集合 近鉄バス停8時30分

コース 清涼―森宮―奥山神社―二所山―首無山―高尾山

費用 交通費含む
地図 昭文社「京都北山」

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

越冬期の釈迦堂止です。積雪は

でコース変更します。雨天中止

京都北山歩き88
魚谷山から半生時(一般向き)

期日 2月13日(日) 日帰り
集合 京阪出町柳駅西口改札口8時40分

コース 出町柳駅(バス)二ノ瀬駅―二ノ瀬―滝谷峠―魚谷山―半生時―魚谷山―出町柳

費用 約3000円(大阪から)

地図 昭文社「京都北山」
係 ①村田智俊 ②比佐敏夫

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

二の瀬ヒリを魚谷山へ歩き、芹生峠に出ます。小雨・大雪は中止

鈴鹿を歩く88
奈良山西面山歩き

期日 2月20日(日) 日帰り
集合 河内線・河内西六の手前

コース 寺田山―落合―井ノ木峠―雲仙山―西面山―箕輪―今帰―寺院広場

(解散)
費用 交通費含む

地図 昭文社「伊吹・伊吹・藤原」
係 ①吉野 明

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

毎年恒例になった冬の雲仙山西面山歩きです(21号・41号・51号参照)。小雨・大雪は中止

三河・嶽山(一般向き)

期日 2月20日(日) 日帰り
集合 J.R名古屋駅中央改札口8時20分(日時は分乗バスに乗車)

コース 名古屋駅(バス)嶽山―南嶽山―赤坂山―西尾山(徒歩)

費用 約2200円(名古屋から)

地図 2万5千1:100000
係 ①小山良春 ②朝倉利巳

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

毎年恒例になった冬の雲仙山西面山歩きです(21号・41号・51号参照)。小雨・大雪は中止

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

第十一代行天皇が海に捨てた石が隠れた山から名付けられたという。1、2、3号の三つの名山です。雨天中止

鈴鹿山2
尾高山から釈迦堂へ

期日 2月20日(日) 日帰り
集合 近鉄湯の山温泉駅8時25分

コース 湯の山温泉駅(徒歩)尾高山―尾高山―釈迦堂

費用 交通費含む
地図 2万5千1:100000

申込み 〒503-0055 岐阜県海津郡御前山1-10 山田明男まで

一般ルートではない釈迦堂尾高尾根からのアタックですが、塔の多い時は歩きやすいコースです。山頂からの眺めはすばらしい。*マイカー参加の人は申し込みハガ

キにその旨を記入ください。
小雨・雪決行「保護対象外」

自然観察山行36

コース 小島山(中袋向き)
期日 2月20日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅8時40分
コース 近鉄大垣駅(電車)近鉄
揖斐駅(タクシー)櫻村
バス停→小島山→櫻村バ
ス停(タクシー)揖斐駅
(電車)大垣駅(解散)
費用 約2000円(大垣駅か
らタクシー代等)
地図 2万5千1池野
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市飯原村前町1の
19の5 鷺見守康まで

北山ちよつと歩き
寂光院から金毘羅山・飄華山
期日 2月23日(日) 日帰り
集合 高松市山崎町バスター

山行報告 (9・10月)



比良・八洲の滝から秋遊覧
(週末ハイイク15)

9月4日(日)〜5日(月) 泊2日
(ハイイク) JR近江高島駅集
合15・30〜40(バス)ガリバー背
少年旅行社16・10(テント泊)
5日(朝)ガリバー登山口8・
00(陣子の滝8・40)9・00(大
淵9・10)北側の滝9・20〜40
17(温泉)10・20(大淵坊宮)10・
55(11・00)釈迦寺11・45(温泉)
12・35(ヤケオ山)13・05(ヤケ山
13・55(14・00)寒風峠14・15(15
20)JR北小松駅15・30(解散)
マイカー参加者は寒風峠〜ガリ
バー旅行社15・20(解散)
1日目は午前中の雨も上がり、
たっぷりの焼き肉とビール、お酒
の飯で夏バテのスタミナを補充
しました。2日目は雪解けの増水
で橋が流石し、昨年と少し様相が
変わった八洲の滝のバリエーショ
ンルートと涼感を楽しみ、オガサ

コース ミナル8時20分
出町柳駅(バス)大原一
寂光院・飄華山・金毘羅
山→江文寺・寒風峠→稲
草山→岩倉(解散16時
頃)

費用 約1500円(京都から)
地図 昭文社(京都北山)
係 ◎奥山三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング倶楽部まで
小中と日だまりと、春一色のマ
ンサクに期待して、雨大山止

平日本塚ハイイク65
京都西山・唐櫃越(一般向き)
期日 2月24日(日) 日帰り
集合 阪急上桂駅8時45分
コース 上桂駅→香積山→錦織路
一みずき山→宝塚寺→馬
淵(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千1京都西南部・
京都西北部・魚岡
係 ◎前中毅
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング倶楽部まで

コースは、光秀が信長討ちの際
カ道から釈迦岳へ登りました。日
陰は冷んやりして、すでに秋風の
比良後線でした。
(参加者) 中村善吉 佐田次男
秋田博師 山縣勝夫 井林芳孝
山縣隆 瓜阪利明 小田哲子
宮本直幸 宮本悦子 今村 真
占部信蔵 三井純一 吉木泰之
福原章 奈良邦子 石田賢二
中川光輝 北川史枝 上田正子
長尾節子 藤田隆夫 藤田昭子
人見正信 藤原計司 藤原おかり
小林 桂 吉村 浩 西田美津子
木暮幸夫 前田幸子 ◎安全部長
◎経理東彦 (計33名)

美濃・小倉山
(美濃山系自然観察ハイイク1)
9月4日(日) 雨のち曇り
近鉄大垣駅8・52(電車)近鉄資
本駅9・20〜30(リフト)滝駐車
場10・10〜12万山11・40(小倉山
12・08(昼食)12・50(栗ノ木平
14・45)滝駐車場15・30(資本駅
16・20)51(電車)大垣駅16・55
(解散)
朝からの雨で4人という少人数
でした。じつくりと植物観察を楽
しみながら歩いていると、やがて
背中のものが重く感じました。

に道つた道と伝わるように、関所
逃れに利用された歴史や文学に登
場する古道です。遠景の雪があれ
ば楽しいですが、雨天中止

山科・音羽山から上醍醐
(一般向き)
期日 2月27日(日) 日帰り
集合 京阪京港線大谷駅下車
丸神社(徒歩9時00分
丸神社→音羽山→バ
ンガ台→上醍醐→醍醐
上醍醐→醍醐三三院
地下鉄醍醐駅(解散)
費用 約1500円(大谷から)
地図 5万1京都東部
係 ◎村田智俊
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで

特別企画
ホパールしゃくげトレッキング
マカール・カンチエンジニガ
期日 3月14日(火)〜22日(水)
6日間
集合 成田空港または関西空港

ヒメイワギボウシなど初秋の花を
愛で、林道沿いにラン科ツツアケ
ビの果実を観察しました。
(参加者) 東原 邦 田中穂子
湯浅隆夫 ◎鷺見守康(計4名)

越前・一乗城山
9月5日(日) 晴れ
JR米原駅9・05(電車)JR福
井駅10・57(タクシー)武家屋敷
前(休憩所)11・25(昼食)12・25
明倉飯盛公園12・43(木丸陣13・
25)三の丸陣13・53(下城戸陣14・
46)西山光臨寺陣15・00(JR二
乗谷駅15・44(電車)福井駅15・
53)15・13(電車)敦賀駅のりか
る(JR長浜駅16・21(解散)
城山を歩いててもここに城があっ
たことを伝えるものは何もありま
せん。西山光臨寺跡に残る石仏群
に、朝倉氏の一乗谷の繁栄と仏教
文化の一端を感じました。(記録・
小林健)
(参加者) 木村 豊 小坂きみ子
木守香織 木守節子 成田不佐子
中野悠一 速水 保 西本美千子
角谷孝郎 森 晴代 鈴木美代子
止 進 美村孝治 田中三恵子
金森節子 羽坂清美 森美賀子
権力由子 小林 稔 砂原美美子

午前十
コース 成田(関空)→香港→カ
トマンズ(泊)→ヒラト
ナガール→バサントア
ル(テント泊)→モンゴ
ルパレイ(テント泊)→
グアアホカリ(テント泊)
→モンゴルパレイ(テ
ント泊)→パナタブル
(テント泊)→カトマン
ズ(泊)→機中泊(関西
空港)

費用 約35万円(多岐)
係 ◎野瀬和紀
(申込み・お問い合わせ)
〒186-0003
国立市富士見台3の8の203
野瀬和紀まで
*定員20名
インドとの国境にそびえる世界
第二位の高峰カンチエンジニガ
同五位のマカールなどを展望する
標高25000〜30000ft(高山
病の心配はありません)の快進な
尾根を歩きます。しゃくげの花
を眺めながらのトレッキングで
す。詳細案内あり、請求ください。
関西空港からの出発も可。帰国は
関西空港です。

中尾美智子 村田はる江
◎温泉 邦 ◎小田原春(計24名)
9月6日(日) 晴れ
JR石山駅集合8・15〜25(バス
アルプス登山口8・52)9・05
迎不動9・35〜45(滝と地蔵10・
29)44(本陣山)17(温泉)12・
20(矢野ヶ崎)13・30(35)御松河
原14・25〜45(車道出合)15・10
15(アルプス登山口)15・30〜55
(バス)石山駅16・20(解散)
「地蔵めぐり」秋のシリーズ
を再開。快晴に恵まれ尾根を渡る
さわやかな風を楽しんで、池田の
読み方とコンパスの使い方を学
習した。初参加10人入り人が男性と
いうのが今回の特徴だ。

(参加者) 原 幸子 中尾博子
竹田美菜 東山遼夫 和田直樹
甲木博子 杉本 高 脇田和洋
村井 武 山元 武 松川三美子
松山浩二 阪口貴司 今井昌司
藤原泰彦 入江民史 岩木すす
菅生幸子 本間 隆 高坂 清
大野宏造 松本忠雄 田中吉穂子
西尾久枝 横田昌雄 藤原きよみ
◎中村 登 ◎家元一彦(計26名)

40 榎山山11・10・20 小女郎池
12・25(昼食) 12・55 小女郎谷
林道15・00 J R 蓮葉駅15・45
◎解説

霧雨のなかを山先、前山山から
は一時雨もやみ、花を愛でながら
の緩歩歩きを楽しんだ。昼食直後
から降りとなり雷鳴も近づいた
ので、予定を変更して小女郎谷を
くだった。朝方の激しい雨で欠席
者が多かった。

(参加者) 竹澤淳郎 中村英雄
大橋幸治 若松寛 中尾美智子
松本由雄 市野博文 青島百合子
大宮光雄 高木 晋 山盛加奈子
柳井和子 成川みさお
◎等井恒夫 ◎川上友堅(計19名)

ハヶ岳・薬料山と北八ツ

9月25日(日) 26日(月) 1泊2日
◎25日 晴れ J R 大津駅集合7・
15・30(バス) 土着日登山口13・
05 持車14・10 薬料山14・40
15・00 持車15・30 大河原
ヒュッテ16・30(泊)
◎26日 晴れ 大河原ヒュッテ6・
30 双子山6・45 双子池7・20
一池田池8・00 15 北横尾9・
25 50 天祥寺原11・10 大河原
ヒュッテ11・40 13・00(バス)

大津駅行・30(解説)

心配していた台風も通り過ぎ、
36.0度の大嵐に恵まれた。若
嶽の製材山、草ちみぎの双子山、
静寂の池めぐりと変化に富んだ北
八ツの魅力を堪能した。夜は小屋
史に寝りそうなお月見大パーティ
を楽しんだ(都合により一部コー
ス変更した)。

(参加者) 占部信廣 森田直哉
増田正明 前田精一 安田文美江
野口修 眞田久子 加藤元彦
斎藤妙子 船越利明 船越みよ子
岡 信成 岡 菊江 小林 桂
天崎 茂 中村晋吾 沖 伸
富松雅子 若松朝子 岡田恵美子
山本宮治 角田一江 河内恵美子
入江武史 ◎岡田昇
◎斎藤妙子 (計26名)

杉峠・ダイショウ・カクレグラ

9月26日(日) 晴れ
(解説を歩く) 池
飯目小谷合広場集合8・00 05
(車) 藤切谷山林道入口8・30
(車) 杉峠9・05 シテナの木9・35
松地蔵9・40 アケシチ9・11・10
ダイショウ11・50(昼食) 12・
40 一カクレグラ14・15 飯目小谷
広場16・20(車) 和南広場16・55

◎解説

千穂城の古道は風情があり、次々
と巨木が現れた。杉峠ノ頭の広い
台地からは一気に風景が開けた。
長い長い崖林の扉を開き、歩いた
て、カクレグラからさきょうのコー
スを一望して下山した。

(参加者) 後藤雅幸 小林 稔
大石英夫 三井敏一 池田達彦
池田繁美 武村千鶴 武藤市美子
水戸鉄治 藤部 純 石田由美
和田四郎 神野孝允 野田勝利
河辺牧男 谷 守 馬場彌栄子
岡井克治 ◎山本久雄
◎斎藤 明 (計20名)

朝日峰・峰山

9月29日(水) 晴れ
(北山ちよつと歩き)
京都駅バス乗り場集合8・00 10
〆〆〆 愛宕池9・20 45 田尻
分岐10・10 15 南村田尻10・45
50 一池尾峠11・20 朝日峰11・
50 林道木陰12・15(昼食) 13・
00 峰山14・00 15 高山寺15・
10(解説) 一峰ノ尾15・31(バス)
京都駅

初秋の爽やかな風をのんびり歩いて、
紅葉には少し早い静かな高山寺に
下山した。朝日峰のササのトネ

美濃・小倉山

10月2日(日) 曇り
近鉄大宮駅8・52(電) 近鉄
老沢9・20 30(リフト) 流経車
場10・00 13 方山11・25 小倉山
12・00(昼食) 12・40 田代池13・
45 栗ヶ谷14・40 流経車場15・
21 近鉄老沢駅16・12 31(電) 電
大垣駅15・55(解説)

林道ではタケノグサの種子の響き
を聴いたり、ゆっくり自然を観
察してくだりました。
(参加者) 中村直樹 杉本 寛
田中健子 岡田晋吾 中上紀代子
森 晴代 湯浅順夫 吉原清夫
◎齋藤守康 (計9名)

紀東・四石山

(池田読み山行) 30
10月3日(日) 雨のち晴れ
南海博津駅集合8・45 55(バス)
金剛寺7・11 23 磯道橋原9・
40 50 鉄塔10・15 25 採石場
11・13 四石山11・45(昼食) 12・
55 Na 47 鉄塔13・35 40 尾道遊
園道14・15 J R 山中港駅14・22
(解説)

天気が雨を待たず、18
人の申込者中、わずか3人の山
行となった。歩き始める頃から小
雨になり、山頂到着時には回復し
た。小人数でのマンツーマンの地
図読みレッスンの一日だった。
(参加者) 村岡清子 吉川三三夫
◎齋藤一 敏 (計2名)

責任・徳島山から後古山
10月3日(日) 雨のち曇り
近鉄名張駅集合8・45 9・00

(バス) 中太郎生9・40 登山口
10・12 西浦津10・45 55 但馬
尊山11・40(昼食) 12・15 二本
ボツ山12・40 45 一池山13・30
後古山14・40 土着光止の分岐
15・10 15 本館路16・10(バス)
名張駅16・45(解説)

「地味かな」のスキが広がる
前後山頂が楽しみであったが、雨
とカスのなか、時折ガスが切れて
全貌が見られる時はみんな歓声を
あげた。終始静かな登り下りがあり
滑る人も多く、気象条件は最高だ。
だが、気分はランラン山行でした。
(参加者) 徳田暢子 中尾美智子
木村 豊 眞田明子 波多野恵子
白根清子 辻 行子 井上キクエ
中村英雄 岡田晋吾 川上香代子
坂波利明 石川佳子 森田美智子
本宮英夫 武部 剛 武部美智子
藤原 邦 崎方由子 岡田美智子
森 晴代 中谷敏彦 藤 義子
三田久子 岡田昇 岡田恵美子
◎美濃町 〇小山良春(計26名)

鈴鹿・徳ヶ岳・御清平・安楽遊
10月3日(日) 曇り
京福津田駅集合7・50(車) 舟石谷
7・40 一取ノ谷8・00 夜谷・ウ

ロン谷8・30 ヨシ谷9・20 白
谷一畑尾9・30 40 南尾根10・
20 一仙ノ石10・40 仙ノ尾11・00
台倉尾12・00 ヨコネ12・30
御座平南端13・30 左石原一田井
分岐14・30 かもしが高原15・00
20 安楽遊15・30(車) キャン
プ場16・00(ミーティング) 16・
20(解説)

やる気満々の同人が顔を揃える
山での寝がよい時代に選んだ山
塊を圧して行く。ひそかに強者ど
もの生活の匂いが残る。仙ノ石か
らは今年初の野分に吹かれながら、
秋入り口の高原をゆたりと歩い
た。
(参加者) 後藤雅幸 小白妙子
今岡民代 今井武司 落合ひろ子
大石英夫 高橋芳彦 伊藤久男
藤原信司 坂本治二 山村清男
武藤山美子 ◎巻戸鉄治
◎藤井克治 (計14名)

鈴鹿・徳向山(三葉の山行)
10月6日(日) 晴れ
大河原(かもしが荘)前集合8・
10(車) 奥の平蔵9・10 15 合目
9・30 行巻ノバ10・00 船向山
10・30(昼食) 11・20 一イハイガ
岳分岐11・30 奥の平蔵部12・00

一鉄塔12・45 一富士山13・15 登
山13・45 奥の平蔵14・00(解
説)

予定のコースを辿って歩いて早い
昼食となる。下山の長い急降に閉
口する。快晴に恵まれ、頂上から
は輝々岳を真ん中に鈴鹿の山々が
豁然と眺められた。どこまでも青
い空、スキが揺れる秋の風。自
然と響こるびたくなるそんな山行
でした。
(参加者) 川本 隆 河原良尚
中村英雄 平 龍一 平 幸子
小堀景男 和田四郎 石田眞由美
◎新町幸夫 ◎藤原英五(計10名)

飛騨・川上岳から飯山・鎌谷山
10月9日(日) 夜11日(解説)
前夜1泊2日
(9日) 晴れ 京都駅八条西口集
合22・00(夜行バス)
(10日) 晴れ(バス) 上田。・
30(飯) 4・30 出立口林道チ
ノ登山口5・40 上谷分岐5・5
50(朝食) 6・30 途中待合7・
20 8・45 榎原駅前10・20
川上岳10・30(昼食) 11・00
天宮道終点一位山14・20 50 一
ナ平林道終点一位山15・20 50 一
山スキー場16・50 17・00(バス)

位山自然の家16・00(泊)
 (11日 晴れ) 自然の家5・00
 (バス) 金山こいの森奥林道登り口9・30→林道終着登山口10・10→10才熊の森11・00→5才熊の森12・15→20才熊の森13・00→ブナ林登山口12・45→5才林道登山口13・15→20(バス) スーパー登山口14・00(昼食・入浴) 15・30(バス) 小牧インター19・00(バス) JR長津駅21・15(解散)
 川上からの風景を楽しみ、サナが海から歩きやうく整備された天谷遊歩道を位山へ歩いた。途中1人が集団から離れ、1時間30分ロスタイムしたが、日暮れまでに下山できた。位山は自然林の多い山だったが、とにかく時間におわられた二山だった。
 (参加者) 宮本真幸 宮本俊子 多賀久子 吉藤孝次 吉川武司 石田 茂 木村光江 鈴木健彦 石津浩子 小田朝子 井林芳彦 橋井美子 沖 伸 自出史子 三井敏一 秋白福郎 若田育上 若松 寛 若松朝子 長尾節子 中村啓香 武田和巳 宮村孝次郎 坂井久光 山本孝子 山本白狐 栗田 弘 瓜取利明 青木一雄 松見 昭 山崎邦彦 竹田義美

原 亨子 寺田公広 小林 桂 長沢幸子 小川増美 ○山比松交 ○安倉正勝 ○村田智俊(計2名)
 瀧の登、東のボクンブチ・土 16日10日(晴) (総距離を歩く79)
 小又谷分岐点(標高8・20ノノクノ坂9・00)→中ノ谷10・30→瀧の登11・00→河倉峠トラバース道11・30→東のボクンブチ12・30(昼食) 13・10→ノナ植夷13・50→P913道14・40→P878道15・06→池池標高15・50(分岐点16・10)(解散)
 きわやかな絶好の登山日和だ。秘境・瀧の登に登ると、さざれ岩の岩壁にはジンジノウが咲き乱れている。東のボクンブチではリュウノウキクの花に囲まれ、大展望を楽しみながらの登。下りは欲張ってブナ林現にトラバースし、フナ林が続く深い樹林の風景をくだった。
 (参加者) 後藤博幸 山田基三 小林 裕 太田裕美 中澤明司 緒方山子 神野孝允 武藤由美子 多賀幸子 和田四郎 伊藤よし子 磯部 純 小林 史 石田真由美 西内弘弘 谷 守 河辺政男

10月13日(雨) 曇り
 宮崎駅JRバスのりば集合9・00(バス) 母ノ原10・15→25→沢ノ池11・15→20→次山12・35(バス) 13・40→吉兆山14・10→桃山14・35→40→京都市立大(標高) 15・00→35 農林標高15・30(解散) 一峰峠(標高) 16・00(バス) マツタケシーズンと云えて「天高秋晴れ」にはほどよく、蒸し暑く、曇り雨の多い天候だった。沢ノ池の水量は昨年より多くて前付き倍増。農林橋へ下山し、解散後うやく雨が降りだした。
 (参加者) 川川善雄 吉藤孝次 南 亨子 山岸隆雄 田中まゆ子 石原裕子 神 照司 神 美奈子 伊東博一 山元 武 井上恵美子 川上久賢 白根清子 辻 行子 松本忠雄 川原隆彦 久世美紗子 加藤元彦 坂井久光 玉原 一 ○長山善三 (計21名)
 南信州・輪峰山と大川入山 (自然観察山行31)
 10月16日(土) 1泊2日 (16日 晴れ) JR岐阜駅8・50(9・10(バス) 治部坂峠13・30(バス) 治部坂峠13・45→1馬の背12・30(昼食) 13・10→輪峰山13・50→のろしき14・

00馬の背14・45→治部坂峠15・30→50(バス) 平谷村16・00(良前泊)
 (17日 晴れ) 民宿6・40(バス) 治部坂峠6・50→徳富8・00→大川入山10・00(昼食) 11・00→あろろの高原13・10(バス) 経神温泉13・40→14・20(バス) 岐阜駅16・15(解散)
 9月の台風大雨のため、予定の三方峠・新緑山を要する雨を覚悟の出発だったが、前日とも晴れのうれしい秋晴。輪峰山ではマンムシツウ・リンドウなどの花に出会え、陽にきらめき風にそよぐササ原の絶景を盛り込んだ大川入山の頂上からは、南・中央・北アルプスなどの絶景、しみじみとした秋空の心ときを癒やしました。三ヶ岳岳・輪峰山は来年再計画したいと思えます。

10月17日(日) 晴れ
 JR河内駅集合9・25→小谷山登山口10・15→聖堂峠10・45→小谷山登山口(大御影) 12・30(昼食) 13・10→福寿丸13・30→尾根標高15・55→14・05→河内駅14・40(解散)
 秋本番の抜けるような青空の下、熊岡大文彦井氏三代五十年の夢のあとを訪ね、爽快な一日だった。途中大きなカモンカに出会った。望洋亭から北谷詰前が降り、竹生岳が浮かんでいた。(計2名) 参加者

台湾・玉山(名山山歩1)
 10月15日(土) 19日(日) 秋本番
 ○高尾大標高のため中止しました

北山・彌山中
 10月20日(日) 曇り
 JR高尾駅八雲口集合7・45→8・00(バス) 山嶺10・35→林道終着登山口11・00→定規11・40→50→頭巾山12・50(昼食) 13・40→林道14・30→野路ノ滝15・00→野路標高15・30(バス) 京都駅18・10(解散)

高尾の絶好の登山日和で、尻懸に恵まれ青い海を眺めて昼食を楽しんだ。急降下の登山道でズリルを味わい、岩肌一面のツイモンジンワに感激した。野路ノ滝では落石と水柱に圧倒された。
 (参加者) 全藤節子 宮本真幸 宮本俊子 土井 茂 山本孝子 岡本和子 安原陽子 増田隆宏 斎藤妙子 石原裕子 藤原隆子 若松朝子 秋山照彦 小林伊子 白鳥忠子 天崎 茂 幸田寛美子 角田一江 中川光郎 佐賀孝一 入江武史 真田明子 ○加藤元彦 ○藤原正行 (計22名)
 湖北・大御影山
 10月20日(日) 晴れ
 10月20日(日) 晴れ
 京都駅7・30(バス) 近江今津駅8・35(タクシー) 登山口9・00

高尾の絶好の登山日和で、尻懸に恵まれ青い海を眺めて昼食を楽しんだ。急降下の登山道でズリルを味わい、岩肌一面のツイモンジンワに感激した。野路ノ滝では落石と水柱に圧倒された。
 (参加者) 全藤節子 宮本真幸 宮本俊子 土井 茂 山本孝子 岡本和子 安原陽子 増田隆宏 斎藤妙子 石原裕子 藤原隆子 若松朝子 秋山照彦 小林伊子 白鳥忠子 天崎 茂 幸田寛美子 角田一江 中川光郎 佐賀孝一 入江武史 真田明子 ○加藤元彦 ○藤原正行 (計22名)
 10月24日(日) 晴れ
 黒滝温泉集合8・25(車) 田村谷林道車付点8・40→ヨコネ9・40→御前平10・10→水無し10・35→ダミノ木平10・45→小太原谷頭(早原)11・00(昼食) 12・00→白石12・15→キネネ→ウス岩13・25→かもしか高原14・15→山女原14・50→池ノ原集落15・15→白鳥谷林道15・30→黒滝16・00→35(解

也

秋晴れて最期の登山日和だ。杉林の急斜面を直登し時間でヨコネに到着し、白いススキが波打っていた。雄大な景観が随所に展呈する尾根には、センプリ・リンドウ・ナギナタコジョウの花が咲き乱れていた。予定外のオネ岩・ウス岩にも立ち寄ることができ、楽しい山行になった。

- （参加者）後藤康幸 山田誠三 小林 稔 池田達彦 池田繁夫 大西繁郎 神野孝允 伊藤智久男 永吉鉄治 和田四郎 高村孫三郎 池田慶一 櫻田勝利 小山妙子 谷 久雄 小林 実 小林 徹 鈴木 庸 ◎岩野 明 (計19名)

朽木・百里ヶ岳

（近畿百名山を登る7回）

10月24日(日) 別れ
JR新田原集合8・45(ゆ)六ッ小入谷越登山口10・40(ゆ)50シチケル峠12・00(ゆ)10(百里ヶ岳)12・40(登山)13・30 杖突坂峠14・20(35)櫻尾越15・30(大倉谷林道)15・30(小入谷口)15・40(50)解散・バス 堅田駅17・30
歩きやすい百里街道から登った。紅葉には早かったが、自然林のな

かを気分よく歩いた。小入谷口からの林道は樹冠遮蔽の上までのびていたが、林道歩きは一部で、すぐ隣の道と交わられた古道を歩くことになる。

- （参加者）木村 豊 近藤 義 阪取利明 山科邦彦 小田潤子 佐々木天千代 波多野恵子 入見信信 今井武司 西田美津子 原 文子 柴田 敏 松田喜美子 中村智恵 高田正 榎本紀子 木村智恵 高岡信男 榎 美智子 宮本美奈子 宮本悦子 川北恵美子 人江武史 武部 剛 武部美奈子 東山盛夫 小山賢美 田中まゆ子 行野恵彦 福崎 章 小野しげ子 近田智子 吉澤新一 佐藤妙子 池井洋子 吉藤孝次 原 幸子 林 聰子 岡松義雄 井村寿彦子 花房桂子 中村英雄 中村恵美子 岸比裕美 巻田 晃 前川和佳子 西居俊彦 西岡裕子 小杉 裕 山岸隆雄 岡田暢子 藤 寿子 寺田久広 岡 彰 山下陽子 野母正子 川上久繁 西岡文男 岡田春美 田中 明 中村佳恵子 渡辺いく 森 雅代 西村善行 石田豊美 高橋恵治 高橋由紀子 秋田通郎 栗岡志子 兼田孝子 今津省司 川村信子 小林 隼

◎安倉正昭 ◎村田智俊(計18名)

北山・曇谷山から腐村八丁

（平日木曜ハイキング）
10月28日(木) 晴れ
出陣柳原集合7・40(50)バス) 菅原町9・45(10・05)尾花谷から佐々木峠10・55(11・05)増栗 尾根8・6(11・40)50(曇谷山)12・30(登山)13・30(曇谷峠)14・30(13)55(14)10(卒塔婆峠)15・00(10)衣懸坂16・05(15)菅原町17・20(25)解散・バス 北大路駅

- 紅葉はまだまだであって外れだったが、北山の奥深くに踏み入り、旧八丁村を取り囲む四つの峠や好望の尾根道に山の秋を満喫した。(参加者)石原君子 幸 寛子 戸根 茂 渡辺達郎 山本千鶴子 宮坂敏彦 大橋英造 榊岡司智子 和泉元二 安宮陽子 川崎昭七 奈原邦子 今西光男 水見良砂子 栗生 哲 重富悦子 中堂吉五郎 松本忠雄 木村太郎 官村孝次郎 宮本徳治 天岡 茂 石田原由美 岡本和子 平 幸子(坂城越) 秋山真彦 尾見孝子 幸田高孝子 奥山崇三 竹田英美 ○小林 隼 ◎前中 毅 (計23名)

大峰連峰・弥山から飯塚峠

(週末ハイキング)

10月30日(日) 曇り雨 1泊2日
(80日 晴れ) 近鉄大和上原集合 9・20(50)タクシ(1)行者最上トンネル西口10・45(11・05)教達路合出口・50(登山)12・45(1)大の森13・05(聖堂)ノ富嶽13・35(40)弥山小屋14・30(泊) (31日)晴(5)弥山小屋(6)25(八幡ヶ岳)45(5)明皇寺(7)40(舟ノタワ8・25(35)橋子テラス路9・00(仏生ヶ岳)9・20(30)孔垂10・10(30)小虎子10・50(飯塚峠)11・25(30)聖堂寺11・45(登山)12・40(深山ノ宿)13・10(25)太古の道13・45(55)十四重三吉14・25(前鬼)15・30(45)前鬼川岳(車止め)16・05(20)タクシ(1) 大和上市駅18・20(解散)

- 弥山では国見八方殿で晴軍を歩しみなながら明日への鋭気を養いました。2日目の奥根本堂では足元に気をつけて景色や紅葉を楽しみながら、長丁場を歩き通しました。(参加者)金森朝子 阪取利明 内部信廣 吉田誠宏 石渡智子 多賀周一 山本京子 湯浅次男 坂井洋子 岡田暢子 安田文美江

- 横井 徹 横井恭子 吉福 清 若松 寛 若松朝子 三井紘一 安倉正昭 武田元可 山科邦彦 北野昭士 小林 隼 船本廣治 佐々木三千代 前川和佳子 古木美子 松村雅子 徳田暢子 上田久子 ○加藤 彦 ◎岩野 明 (計21名)

但馬・船木山から駒ノ尾山

10月31日(日) 曇り

JR西明日香集合8・25(35)バス) 船木山12・40(登山)13・15(駒ノ尾山)13・55(駒ノ尾山)15・05(山荘入口)15・20(バス)黄金泉15・40(入谷)16・20(バス)西明日香18・35(解散)

紅葉真っ盛り、すっきりと晴れてはいないけれど、これまで登った那岐山・泉山・大山等の山々が遠く近くにも望め、霞の上に美しく浮かんでいた。

- (参加者)吉藤孝次 島田孝子 巻田 晃 石田賢子 兼田孝子 宮本真幸 宮本悦子 八木八重子 森 雅代 船越利明 船越みよ子 木村 典 野口 修 宮下洋一 柳川智雄 眞田久子 平取美子 小杉 浩 斎藤妙子 高田 賢

- 小林豊子 河崎妙子 今村 真 新家隆哉 三輪浩子 竹内登久子 秋田通郎 小田潤子 中村智恵 前田幸子 原 文子 岩田吉士 保田 正 馬祖忠男 北川息子 坂尾 正 長尾隆子 中上紀代子 本谷幸夫 大野 寛子 ◎元上 保 (計11名)

新ハイキングクラブ開会入会の案内

会費は当会の山行例会に参加して参加できます。この山行例会を通じて正しい山歩きを、楽しい山仲間たちと味わいませんか。リーダー(係)はすべて無償の条件で、各日で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

会費には掛符(新ハイキング開会の山)をお送りします。これから始めてみたい人も、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。

入会金 500円(バジッ代) 年会費 3000円(送料共) 入会の申し込み(随時)はこの様式に加入の郵便用紙をご利用ください。

◎新入会員紹介

- 新しいお仲間のみなさんです。 会費振り込みは、茶から4148番まで
- 【愛知】 近藤克博
- 【三重】 高田信子
- 【滋賀】 竹村 繁 森口二郎 森口英俊 田中洋子 木本孝子
- 【京都】 菅田良樹 森野恵子 飯田隆雄 古澤清治 古澤綾子 安井良子 小森忠信 加納由己子 神谷礼司 西脇 裕
- 【大阪】 矢杉和彦 竹嶋敏久 竹嶋瑞穂 中垣俊孝 中垣昌巳 新田啓巳 岡山 敏 青木道天 芝藤とも子 塩原香織
- 【徳島】 丸山正四 榎木英久 細道佐智子
- 【奈良】 三上 勇 竹内 靖 辻 昭宏
- 【兵庫】 藤原耕一
- 【愛媛】 藤原健子 (36名)

【訂正とお詫言】

49号(後秋)グラビア1ページ 説明文中「必置件」は「神原村」が正しい。
49号(後秋)20ページ上段10行目の下から「長瀬山」は「大瀬山」

が正しい。

- 49号(後秋)22ページ下段15行目から「西郷隆盛の標榜された旗」は「旗」が正しい。旗々語にある旗しは敬称がよく見えるということでした。
- 49号(後秋)88ページ下段最後から9行目の「○中尾美穂子」は「廣葉 邦」が正しい。
- 49号(後秋)93ページ上段10行目「船木哲巳子」さんは「船本裕巳子」が正しい。(編集長)

本誌のバックナンバー
大阪産出のハービスアマラサ3Fの「トラベルキャラー」旅の本棚ハービス(大阪店)に全号を並べています。

毎号お求めになりたい方へ
前号の雑誌に毎号ほしいと「読者予約」をされまうと、この雑誌でもお買い求めいただけます。但し、20日(この「読者予約」)の発売です。